

Inventory of Zenichi Kawazoe Scrapbooks

Scrapbook No.: BOX 41 #1

Scrapbook Title:

Primary Date range: 1955 ~ 1969

Dates outside of range:

Eastern sequence:

Western sequence: (HI)

Contents description: CITY BANK, JAPANESE MARTIAL ARTS, JAPANESE
 BUSINESS ASSOCIATION, AWARDS GIVEN TO LOCAL
 JAPANESE IN HAWAII, PAPAYA FROM HAWAII, LIST OF
 CONSULATE GENERAL IN HI

NEWSPAPERS: HAWAII TIMES,

Inventory of Zenichi Kawazoe Scrapbooks

Scrapbook No.: BOX 41 #2

Scrapbook Title:

Primary Date range: 1960'S

Dates outside of range:

Eastern sequence:

Western sequence: YES (SOME ARTICLES IN ENGLISH)

Contents description: KAWABATA'S SPEECH AT NOBEL PRIZE, OKEI'S GRAVE,
 BUDDHISM TO HAWAII, 1967 EVENTS IN HAWAII IN FORM OF COMICS,
 KILAUEA VOLCANO, PHOTOS OF ARCHITECTURE IN HAWAII,
 HONOLULU PLAGUE & FIRE.

PHOTOS: ALOHA TOWER

NEWSPAPERS: LOS ANGELES TIMES, CHUGOKU SHINBUN,
 HAWAII TIMES, SANKEI SHINBUN, HONOLULU STAR-BULLETIN,

1960s

Gift of K. Kawazoe
3/89

Scrap books

Add to: Hawn Rave
(per M. Chow)

Fumigated - Jan. 1989

Bookplate
Attached

he makana ā

University of Hawaii at Manoa Library

Kenpu KAWAZOE



G/E
A

BOX 41 #1



瀨川野村證券社長の講演 前列左は石川社長、右は本田前會頭



本社撮影



龍仙人の前で...寫眞は左より石川良並中部相互銀行取締役、石川帝産オート社長、田川光雄、本田親人諸氏

ホノルル日本人商工の 今年度新役員を選出

新會頭に香川武雄氏當選

Jan 21 1962

ホノルル日本人商工では、昨夕五時半から日商工會館で石川帝産オート社長、長男良並氏の歓迎カクテル・パーティー並びに定期總會を開催し今年度の新役員を選出した

先づカクテル・パーティーでは、石川社長父子を中心に出席者一同が交雑し、同社長が寄贈した噴水・龍仙人の前で記念撮影も行われた

歓迎晩餐會

石川社長歓迎晩餐會には野村證券の瀨川美能留社長がゲスト・スピーカーとして招待されたが、第一式は左の順序であつた

△歓迎の辭 本田會頭△石川社長紹介片桐政利△挨拶 石川社長△瀨川社長紹介 香川第一副會頭△講演 瀨川社長

定期總會

- 一、開會宣言—本田會頭
- 一、故任田代藏顧問に對して一分間黙禱
- 一、故任田氏に感謝決議文
- 一、住田慎三郎氏から謝語
- 一、新會員紹介
- 一、庶務報告、住田書記
- 一、會計報告、種本輝雄
- 一、日本人ジュニア商工報告、神里正人
- 一、役員選舉
- 一、新役員紹介
- 一、香川新會頭挨拶
- 一、新理事を發表
- 一、前役員に感謝決議
- 一、言論機關に感謝決議

新役員名

- △會頭 香川 武雄
- △第一副會頭 佐藤 洋一
- △第二副會頭 村重 甚之

瀨川社長講演要旨

野村證券の瀨川社長は昨夜、大要左の如き講演をなした

私は大阪商大を出て直ちに證券界に入り、爾來三十四

- △第三副會頭 住田慎三郎
- △書記 西本 輝雄
- △監査 藤川 敬三
- 古川 國雄
- 島田 國雄

春に訪日經濟團を組織

最後に本田會頭から今春の主な行事につき發表があつた

一、二月二日に新役員就任式

二、シャトル博見學團を組織、團費約四百弗

三、四月に重村覺氏を主任とする訪日經濟視察團を組織する

新役員代表挨拶

新役員代表として、香川武雄新會頭、佐藤洋一第一副會頭及び村重甚之第二副會頭が大井主事の案内で來社した

年この道に精進している、初め廣島支店に赴任してハワイ關係者と心やすくなつた、十一年前、日本證券の對米進出を目指して來布

Handwritten notes and scribbles at the bottom of the page, including the word "THANK" and various illegible markings.

せん

福永會頭 渡り士んり日商工會議所 創立 四月二十日

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

再發足の恩人：福永秀一氏



一九四九年度會頭福永秀一氏は、日本人商人同志會の第一代会頭今西兼二氏から通算すると、第三十四代目に相當する。

曰く、戦後日本商人の復興が問題になり、今少しの存在する所以でもあら

で復活が流産となる時、これを救つた殊勲者であることだ。

復活問題に關する最近の相談會に出席した福永氏は、近く商界の第一線を去つて行く吾々第一世には必要はないかも知れぬが、後継者たる第二世には是非必要であると冒頭、發言したのである。

日本人として入會したくても、入會出来ぬ團體が幾つも現存してゐる、そうした日本人はどうしたらいいか、對等に入會出来る團體が必要である、ホルルの各個人種間に、人種別團體の存在する所以でもあら

この濡れ衣を一掃すべく敢然と立つたのが福永會頭だつた。その結果はステイソバック知事をして米議會上院公聽會で、布哇には一人の日本人共産黨員もなない旨證言させ、これを記録に止めることに成功したのである。

又當時日本人商工は勿論、その他の團體や個人から議會宛、無數の反共決議文が潮の如く發送された事實は、未だ吾々の記憶に生々しい所である。

日本人ジュニア商工の發足についても、日本人間には勿論、一部米人間にも反對があつたが、ついに發足を見たその裏に、福永會頭の慧眼と努力があつたことを見通してはならぬ。

又福永さんが商工獎學金設置に先立ち、先づ福永獎學金を設けて自らその範を示した如き、氏の人格を物語つて餘りあらう。(櫻)

その在任中に、布哇縣會が閉會された。一部のためでなく大衆のためのよき法律を制定するようにと、會議所内に、會員中の法律家などを動員して法制委員會を組織し、一方では法案の可否を研究検討、又一方では晝夜の別なく縣會に詰めかけて、議員達の行動に眼を光らしたのである。

米人方面の事情に詳しい福永會頭にして初めて成し遂げ得たのである。

この年、約半歳に亘る棧橋メンの大罷業あり、一部ではこれを布哇の日本人と結びつけて、布哇の日本人間に共産黨支持者多しと、ワシントンあて事實無根の報告をした者があつた。

この濡れ衣を一掃すべく敢然と立つたのが福永會頭だつた。その結果はステイソバック知事をして米議會上院公聽會で、布哇には一人の日本人共産黨員もなない旨證言させ、これを記録に止めることに成功したのである。

又當時日本人商工は勿論、その他の團體や個人から議會宛、無數の反共決議文が潮の如く發送された事實は、未だ吾々の記憶に生々しい所である。

日本人ジュニア商工の發足についても、日本人間には勿論、一部米人間にも反對があつたが、ついに發足を見たその裏に、福永會頭の慧眼と努力があつたことを見通してはならぬ。

又福永さんが商工獎學金設置に先立ち、先づ福永獎學金を設けて自らその範を示した如き、氏の人格を物語つて餘りあらう。(櫻)

1958 3/13

1969
1929
95

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

五十五周年祝賀・堀田繁氏



同様、それに英語も出来、米人達と應對して寸分の引け目も感じない、しかし米政府の高官達と食卓を共にするの招待には、流石に氣疲れを覺えたと述懐してゐる。

會頭在任中には、日本郵船「朝日」「初日」練習船「こじま」「海鷹」潜水艦「黒潮」それに掃海艦まで寄港、又人物では當時の重光副總理、海上幕僚長の長澤浩氏などが矢張り早に寄港して、その送迎に寸暇なき多忙を極めた。

第一代今西兼二會頭からがこれに次いでゐる。數えて四十代目（一九五五年度）布哇生れの二世會頭として谷村基弘會頭に次ぐ二人目が、わが堀田繁氏である。又商工の工を代表して請負業方面からの會頭として氏は最初で、田川氏

然し在任中忘れられないのは、海外日本人間最古の

實業團體たる商工がその創立五十五周年を迎え、氏自身の手で祝賀會を開催する幸運に恵まれたことである。

のが不文律であつたが、この第一副、第二副の區別を無くして、三名全部を一律に副會頭としたことである。

我が商工會議所が一九〇〇年に商人同志會の名稱の下に會員三十九名を以て創立されて以來、今年を以て五十五周年を迎え、その祝賀會を催し得ますことは皆様と共に、喜びとする次第であります。と式辭を述べた堀田氏は誠に溢れる喜びに包まれてゐた。

これを他の言葉で云えば會員中の誰もが會頭になり得ると云ふことである。既に會頭をつとめて參與の位置にある者でも再び會頭に返り咲出來るし、又副會頭でない監査などの地位にある者でも一躍會頭になり得ると云ふ新制度の確立が、堀田内閣時代に斷行されたのである。

決して人を疑はず、人を信じて尊敬することを處世訓とする堀田氏に對して、天も初めて恵んだ好機會と云えよう。

もう一つ大きな事蹟は、會頭選出に關する商工の憲法とも云ふ可き定款に一大改訂を加えたことである。従來商工の會頭は前期の第一副會頭をその任に推す方である。

（櫻）

1958 3/4

報 1968
 1958 年 11 月 1 日
 1958 年 11 月 1 日

80

1958 年 11 月 1 日

布哇日本人史の一コマ

商工会議所歴代会頭傳

吉田全權を歓迎・古屋熊式氏



一九五一年九月、對日講和條約が成立、その日本全權吉田首相一行の歓迎に當つた幸運の會頭が翠溪・古屋熊式氏であつた。

しかしこの幸運は決して偶然に掴み得たものではな

激、歡喜は筆舌のよくつく

九年の二回、當然會頭の印綬を帯ぶべきだつたのである。古屋さんは商工三十六代目の會頭に就任したが、當時は今の日本總領事館も日本在外事務所と呼び、その初代所長が小島太作氏であつた。

初め、公の席上に飾られた日本國旗にて、仰ぎ見た日系人の誰の目にも歡喜の涙が光つたのである。

ても、戦前のやうに各地方に所謂地方團體もなく、資金の調達には苦心したが、各方面の後援を得て、豫想以上盛大な全權團歓迎會を催し得たのである。

す所でなく、歴代会頭中、稀に見る幸運を掴んだ一人である所以であるのだ。

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

岸首相を歓迎：田川光雄氏



氏も亦、代表的立志傳中の一人である。

英語も日本語もうまく、氏の挨拶や演説を聞いてみると、内容も用語も實によく洗練されて、布哇で學んだ日本語とは思えない、これは田川さんが祖父母に育てられたのと、その絶えざる讀書の賜物である。

一九五七年の二月、磯島武夫會頭のとを受けた田川さんは、間もなく開會した布哇縣會に對して、中小企業に立脚した賃銀問題、

スモール・ビジネス・メンから見たセールズ・タキス問題を引つ提げて、強引に

働きかけたが、所期の成果を擧げ得なかつたのを残念がつてゐる。

これは從來日系人が政治運動に無關心であつたためであり、今後は各自の本職に勵むと共に政治運動を等閑に附してはならぬ……と田川さんが在任中に學び得た一つの教訓でもある。

訪米した岸首相や、練習船日本丸の歓迎も、在任中の大きな仕事に數え得るだらう。

中でも岸首相の歓迎は米人商業會議所の協力を得て理想的に運ばれ、多少でも日米親善に寄與し得たと喜んでゐる。

これは一九五六年に全島商工會議所が発足、日米人の實業家が定期に親善ゴルフ大會などやつて、相互の理解を深め得た賜物だと田川さんは確信してゐる、又

懸案の商工會館問題でも異常な熱意を示した。

一九〇〇年、現在の會議所の前身たる日本人商人同志會が呱呱の聲を擧げ、當時正金の第四代支配人だつた今西兼二氏が第一代の會頭に就任、その今西會頭から數えて、田川さんは第四十二代に相當する。

商工會頭も三十七代の栗村さん頭までは初代同胞の香ひが残るが、時岡、谷村、堀田、磯島諸氏になると漸次二世的の香ひを増し、田川氏になると日本生れだが布哇二世に近いと見られよう。

趣味は洋蘭とゴルフだがこの人の洋蘭には惜しみなく萬金が投じられてゐる。しかもそれをビネス化せず、依然、ハビーに終始してゐるのが特徴であり、この人の床しい人柄でもある

(櫻)

(1958 2/4)

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

最高齡の元會頭・本重和助氏



存命する歴代会頭中の最古参は在東京、本重興業會社の本重和助翁である。明治六年（一八七三）十二月

一九一〇年度の會長で、當時はまだ會頭の名稱が使用されてゐなかつた。本重さんが初めて布哇の

日本の實業はこれより先き、第一回船來布者安森佐助氏（富山出身）により取扱はれたが、これは雜貨店の傍ら販賣されたもので、純然たる日本人の業店としては本重さんが元祖だつた。

本重さんの店が軌道に乗つて間もなく即ち明治三十三年（一九〇〇）勃發したのが有名なベスト焼拂ひ事件で、このため本重さんの店は、他の多くの日本人商店と共に無一文となつた。

その時この日本人商人同志會の創立に献身、努力した人達として今西兼二、千屋正信、米倉國三郎、郡司五郎、大野謙吉、木村齋二、尾崎三七、小島定吉、

の誕生を見たが、この日本人會の組織に努力した一人が本重さんだつたのだ。臨時日本人會がその目的を果して解散と共に生れたのが、ホノルル日本人商人同志會であつた。

これより先き、日本人商人の團體として、日本商人組合や、商業協會などが生れたが、共に永續せず、日本人商人は互に孤立、反目競争を事とし、却つて外人商人に漁夫の利を得さしめる形であつた。

私が本重さんに會つたのは、偶々氏が東京の本據から布哇え來遊中だつた一九二八年の春三月で、これまた三十年前の古い話なのである。

當時私の書いた本重さん訪問記を取り出して見ると「元氣に満ちた精顔、堂々たる體軀、打ち見たところ正に大臣級の風采である」と書いてある。

最近の本重さんは老齡のため健康も勝れないように聞いている。實は本稿を書くに際して、東京宛問ひ合せ状を出したが返事が間に合はず、古い記録を土臺にやつとこれまでにまとめ上げた次第である（櫻）

1960
1928
1958 4月

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

慈善寄附新記録・橋本萬槌氏



日本人商工二十七代目、即ち一九三七年會頭橋本萬槌氏が精々堂商店に入つたのは一九一一年一月二日といふから、日本人商界に關係を持つこと正に四十七年間、文字通り斯界のベテランである。

會頭になるまでも、色々な大きな仕事に關係してゐる。日本人商店の營業現代化を目的に一九二八年ホルルに開催された布哇全島日本人商業大會では重要三部門中の一部門を受持つてゐるし、又この大會の豫備

當時の會頭は、會頭であると同時にホルル日本人聯合協會の理事長を兼務し、その聯合協會の仕事の一つは、毎年行はれる聯合慈善寄附募集に日本人社會として協力することであつた。

これまで日本人社會としては、その寄附割當額に達したことなく、何時も肩身の狭い思ひだつたが、橋本さんの理事長時代に初めて割當額の百パーセントに達し、大いに面目を施したのである。

この寄附募集に先立ち理事長主催の各團體代表者招待會開催が例になつてゐるが、その席上で行はれた橋本さんのアツピール演説のうち、その成功の一因として時の山崎副領事が讚辭を呈したものである。

1958 m 49

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

二世會頭第一號・谷村基弘氏



歴代会頭中に文藝趣味の會頭を求めらるるなら、自由律俳句の古屋繁溪氏と、隨筆家谷村十二夜氏を擧げ得るだらう。

谷村さんの人間像は非常に高いレベルのものである。これは一九五六年、谷村氏が「たわごと隨筆」を刊行した時、當時の東京商工會議所會頭、後の外相藤山愛一郎氏が寄せた序文の劈頭で、人間もこの位ほめられたら思ひ残すところはない。

在任中は文化總領事であり、総領事館廣庭で感激の

氏は布哇生れの米國市民で、二才の時日本に行き十五才迄山口縣大島郡に育つて歸布したが、その小學校時代の俳句に「初雪や野路行く馬の豪志し」の作があり、生れ乍らの趣味人とも云えよう。

時岡政幸會頭の後を受けたのが一九五四年で、彼氏こそは歴代会頭中、最初の二世會頭、だつたのである。時に五十二才、歴代会頭中の最年少だつたかも知れない。

出席者二千名を集めた戦後の日本、遠慮無風、朝風歓迎で、得意の雄辯を振つて、遠米の珍容を慰めたり更には又會議所に新しく専務副會頭制を設けて、その初代に大井哲次氏を推したり時岡前會頭が辭任に當つて殘した忠告、即ち會議所に三人の同資格の副會頭を置いて、多忙極まる會頭の仕事を分擔させる案を實行に移したり、地味ではあるが色々な仕事をしてゐる。

然し何んと云つてもその最大の事蹟は、谷村會頭が身を以て、布哇の一世と二世の懸け橋になつたことである。

1958年9月

1958
3499

布哇日本人史の一コマ

商工会議所歴代会頭傳

公共基金制確立・森藤 定人氏



若くして巨利を博したと思ふや、一朝にして借金の山を背負ひ込む、と思ふと何時の間にかその苦境を脱して頭角を現すなど、森藤定人氏ほど浮沈の甚だしい

に飛び出したのが年少十六歳、學徒生活をして英語を學んだり、早稻田商業講義録をとり寄せて日本語と商業知識を同時に吸収した

香ばしかつたわけだ。戦後の一九五〇年、商工会議所(通算三十五代)に就任したが、戦前既に會議所の書記五回、副會頭を十回もつとめてをり、實力において、貫録に於て不足はなかつた。

日系人商界も青年の活躍に俟たねばならず、日本人シユニア商工の必要は氏の古い持論、それが氏の會頭中に發會式を擧げたのだからその得意思ふべしだ。

現在のホノルル日本人商工会議所の最初の前身、日本人商人同志會が誕生したのが一九〇〇年で、森藤さんがその會頭在任中に、五十年祝賀會を催したのも、同様の因縁といはれ、これ又氏にとつては嬉しい思い出の一つであつた。

しかし、在任中の最大事業は何といつても、會議所内に新しく公共事業基金制を確立したことがある。

戦後も一九五〇年頃となるや、日本から色々名士もやつて来る様になつた。戦前はこの世話をホノルル日本人聯合協會の手でやつたが、戦後はするするべつたり、それが商工の手に委ねられた。

會議所としては、これに會の資金を添用するわけに行かず、新しい資金を必要とし、從來その歴史になこと、即ち一般日系人社會に經濟援助を願ふことになつた。

マツキンレイ及びカワナ

ナコアの兩講堂に催された公共事業基金募集布哇藝能人大吹寄大演藝會は、空前の成功で、確か八、九千弗の純益を擧げた筈である。

現在では演藝會の代りに普通寄附を募集してゐること周知の通りである。

今でこそソシヨッピング・センターは珍しくないが、七年前にこれを提唱し、しかも日本人商工の手でやろうとしたのが森藤さんであつた。

當所にまだマーケット・センターの名で、その中に各種の事務所、銀行、保険、各商店も置き、一方、今問題になつてゐる商工会館も含めようといふ案であつた。

資本金二百萬弗、場所は今度シアアスの新ビルが建つといふアラモアナ；若しこれを實現してゐたら、常に時代より一步先きを歩む實業家、常に大きな夢を描く實業家、その名は森藤定人氏。(櫻)

1958
3499

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page, including dates like 1958, 1951, 1969, 1951, 18 and various names.

布哇日本人史の一コマ

南会議所歴代会頭傳

講和條約發効：栗村德善氏



古屋熊式氏の後を受けた一九五二年度、第三十七代の會頭、栗村德善氏は、在任中これといふ特筆すべき仕事はないと自身では謙遜してゐるが、事實は然らずである。

古屋内閣の時、吉田首相により調印された對日講和條約が、栗村内閣時代に發効を見たのは、これ又歴史の出來事と云えよう。其結果従來の日本在外事務所は日本總領事館となり

對日講和條約發効については日本總領事館における祝賀行事とは別に、日本人有志の祝賀會が歡樂で催され、その感激の席上、栗村さんが會頭として祝辭を述べたのはいふまでもない。又この年の大きな出來ごととは日系人も晴れて米國市

幕れ迫つた十二月二十八日、クキーン・サーフで各國人種主催の大祝賀會が催され、その席上、栗村さんが日本人側を代表して堂々祝辭を述べたのは勿論である。會議所として米人方面との接觸の機會が多くなつたのも栗村時代からである。布哇最初のテレビ、即ちK G M Bのそれが開始されたのが十二月五日、栗村さん

はここで日本人側を代表して祝辭を述べたが、布哇の日本人で最初にテレビ出演といふ。ここでも微笑ましい新記録を作つたのである。會議所の會館問題は前から懸案だつたが、栗村さんの時代になつてヌアス街

屋上高く、日の丸の旗は飄々るし、事務所長小島太作氏は戦後初代の日本總領事となつたのである。更にこの小島總領事を送つて、二代目の都村新次郎總領事を迎えたのも栗村會頭であつた。

の接觸の機會が多くなつたのも栗村時代からである。布哇最初のテレビ、即ちK G M Bのそれが開始されたのが十二月五日、栗村さん

一方栗村さんは、公共事業資金捻出について、從來の映畫の夕べ等は勞多くして益少く、純然たる寄附募集を強硬に主張した。これも在任中は實現しなかつたが次期時間内閣で斷行し得る有力な素地とはなつた。三週間續いて一度も家で夕食をとらぬことがありました。従つて店のことも家内委せだつたが、吾が妻ながら實によくやつてくれました。……と、内助の功を忘れない所に、栗村さんの眞面目が窺はれるであらう。

(櫻)

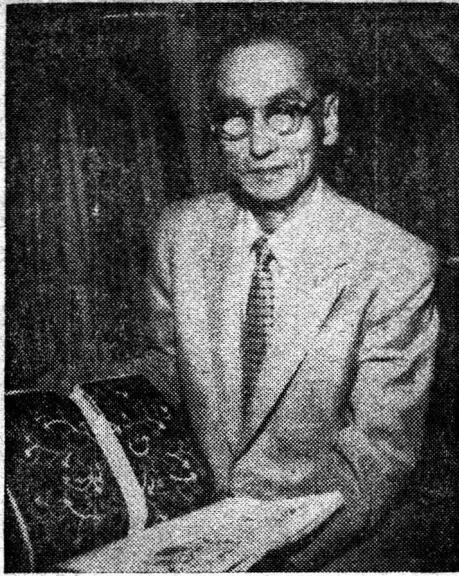
1952

1958 m 9

布哇日本人史の一コマ

商工会議所歴代会頭傳

太平洋戦争突發・佐藤太一氏



不幸なる真珠灣事件の突發した一九四一年度の會頭が佐藤さんであり、同時にホルル日本人聯合協會理事長を兼ね、名實共に日本人社會の非常時總理大臣で

あつた。前年頃から兆した日米兩國間の空氣悪化は、一九四一年になつて愈々激化、それが商界にも不況といふ形で現れ始めたので、大賣出し

をするとか、色々對策を練るのに忙しかつた。然しそれよりも緊要なことは、どうかして萬一の場合を避けることで、日米間に不幸が起らないよう一層の努力を願ひたいと、時の總領事喜多長雄氏の所にお百度を踏む外、萬一のあつた場合、在留日本人は如何に處するべきか、時のFBI布哇局長シーバス氏をも大井主事を同伴、訪問した。

米國としては萬一の場合でも日本人諸氏のおとなしく當地の秩序を守つてゐたら、抑留も隔離もしない、どうかこの趣旨を日本人社會全般に徹底させて貰ひたいとの言質と米人側の意向を確め得たのである。

それからはホルル全市二十一区に亘り毎晩のやうに集會が催され、この趣旨を徹底させる外、萬一、ホルルが戰場に化した場合負傷者救護に備える非常時應急手當法の講習會が始められた。

いよ／＼六ヶ月の長い講習期間を終り、凡そ千人の受講者に晴れの卒業證書を授與する日、それが皮肉にも、世紀の十二月七日サンデーであつた。

この朝、佐藤さんが下町に出ると、真珠灣の方向には黒煙が上り、異様な飛行機の爆音を聞いたが、演習らしいといふ噂を身にしなから、卒業式會場たる國際劇場に乗り込んだ。

日本人は抑留されないと信じてこれを皆さんに傳えたことは、ここに完全に裏切られ、公人としての顔して皆様の前に出られようか、これこそ戦後、歸布しても、佐藤さんが再び商工会頭を受けなかつた最大理由であり、これを知る者は佐藤さん自身以外にはなかつたのである。

一九〇六年、若千十九歳裸一貫で來布した佐藤さんが今日の富と地位を築いた事、氏も亦非凡人であり、立志傳中の一人として、布哇日本人史中に銘記されるべきである。

（極）

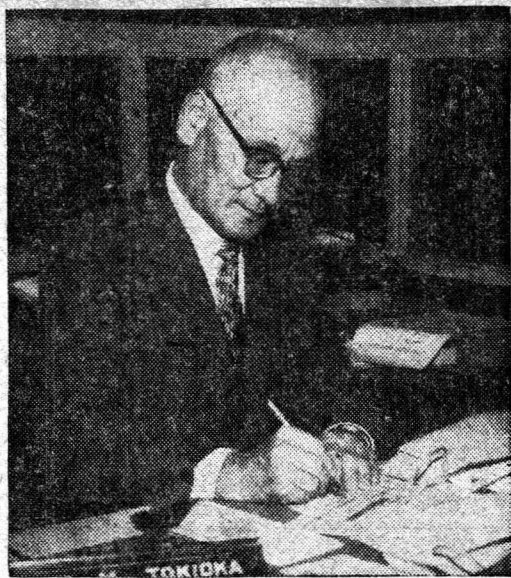
(1958 m 9)

ワ
ン
フ
ラ
ン
シ
ス
の
2
9
日
の
2
代
り
の
セ
ン
ト
ー
の
一
人
の
功
に
歸
す
べ
き
で
は
な
い
。

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

皇太子様奉迎：時岡政幸氏



一九五三年度の會頭(第一の會頭を迎えたのはこれが三十八代)として時岡政幸 最初で、時代の推移と云ふ氏を語るに先立ち、ピンとことをマザマザ感じさせら頭に来ることは、氏がハシれるのである。

在任中には日航機の就航
ハート大 商科出身である
布哇曹洞宗別院新築入佛式
ことだ、米國最高學府出身

太平洋沿岸市長會議に出席した日本代表團の寄着などあり、その都度、會議所を代表して一役買ったのは勿論である。

然し何んと云つても在任中の大仕事は、英國に使される皇太子殿下を、その往途と歸途の二回に亘り、ホテルに奉迎申し上げたことである。

在留日本人として一生一代、千載一遇の最高名譽を擔つたのが時岡會頭で、歴代會頭中、これほどの幸運を擲んだ人も珍しい。そしてそれだけ人知れぬ苦勞も嘗めたわけである。

時岡氏はその教育の大部分を布哇及び米大陸で受けた。

一見第二世の如く見られたが、實は日本生れで十三才の時、父母と共に來布した云は、日本臣民だつたのだ。

皇太子様奉迎の大役は、せめて日本人としてやりたとい、當時既に米國歸化が可能だつたにも拘らず、その歸化をわざと一年先きに延ばした所に、時岡さんの人柄も想像されよう。

若き皇太子様に、布哇の日本人をどんな風に御紹介すべきであるか。

先づ布哇が各國人種のメルテング・ポットであること、そして布哇の二世、三世が日本文化なるものを、どんな風に外人方面に紹介して来たか、それがどんな風に日米親善に貢献してゐるか。

然し幸にも、皇太子様奉迎は大成功であつた、これにつき時岡さんは、今でも、この成功は決して私一人の功に歸すべきではない。

斯うした大役を果たした時岡氏は會頭退任に當り、大きな置土産を残した。

これは過去一年の體験の産物にて、云はば會議所役員制度の改造案であつた。

會頭の下に、三人の同格の副會頭を置き、對日系人社會、對米人社會、それに會議所本來の仕事の三部門を分擔して共に會頭を助けると云ふ新提案は當時一部には反對もあつたが、それが漸次實行に移されつつあり、御本人も定めし満足だらう。

1958 m 9

(櫻)

布哇日本人史の一コマ

商工會議所歴代会頭傳

會頭勤めも二回・飯田鴻一氏



戦争の前年たる一九四〇年と、戦後の一九四八年の二度に亘つて會頭をつとめたのが飯田鴻一氏である。即ち第三十代と第三十三代に相當するわけだ。

その前に商業組合の組合長たること數回、商業團體に關係する公人として正に三十五年の歴史、何といつても斯界の元老である。戦後の一九四七年、會議

された主なることは、日本人商店の店内の改造、店頭裝飾などで、同時にこれが記念大賣出しを行つて成功を収めたものである。従來商業組合の名物といへば、その大規模の従業員慰勞ピクニックであつたが、これは商工となつても踏襲され、この年盛夏の候にナナクリ海岸に豪遊した。汽車十數輛を借り切るといふ大ピクニックが、これで最後となつたのも、飯田會頭にとつては永久の思い出であらう。

所がホノルル實業協會の名で再復活するに當つては、一部に反對もあつたが、飯田氏は住田代藏、福永秀一兩氏と共にこの反對を退けた、云はば會議所再生の功勞者として、現に住田代藏氏と共に、永久顧問の地位を贈られてゐる。

一九四〇年と云えば、商業會議所が商業組合、請負業組合を合して新たに、商業會議所の名で新發足した年の翌年に相當してゐる。當時既に、日米兩國間の空氣悪化の徴があつたが、一方日本人商界も極度の不振状態、その景氣挽回策として、飯田會頭時代に行はつたわけだ、この人は妙に

飯田さんは一昨年は米大陸に、昨年は日本に遊んだが、兩回共にその旅行を心からエンジョイしたのだと云

シレタラフ
アツタ
中
飯田
子
子

1958 1952

1969
1958 (1958-1969) 317

新人物地帯

日本文化を直接

間接に紹介する

日商工 西本豪氏

Dec 4 1965



古色蒼然とした大金庫が二つ、飯田翠山堂の奥まった所に据えられている、その前に當店の副社長であり會計でもある西本豪氏が腰をかけ、事務をとっている、いかにも實直で、典型的な商人といった感じ、老舗のもつ一種特有のどつしりした雰囲気につたりはまつているこの西本豪氏は今年日商工會議所の會頭に選ばれた、ヒコ出身の西本氏は物靜かな聲で新年度の抱負を次のように語ってくれた「文化面に、または經濟

南の海

政治、教育面それに社會福祉に大切な役目をもつている日商工會議所のイメーヂを會員を始め、ホノルルの社會に強く打ち出し、同時に日米親善の促進に役立てたい」日商工會議所は現在日系人以外の會員も含めて五百人という世帯で、その中には個人會員もあれば、ホノルル電話會社、キヤスルック會社など代表者が加わっている、會議所はこれらの會員と共に、科學的研究調査などの手段を提供して、ハワイ經濟の發展に寄與し科學技術の進歩を促進することを目的としている、そのため各種會議や委員會に出席しなければならぬので西本氏は餘暇がない日商工會議所のもつ役割は非常に大きい、日本とハワイ・米國をつなぐ文化的經濟的接觸の橋樑のようなもの

ので、ペレタニヤ街にある會議所は何かにつけひんぱんに利用されている、西本氏が日商工會議所に關係したのは飯田翠山堂に勤めはじめた頃からなので、非常に古い、それではいつ頃から飯田翠山堂で働くようになったのかと尋ねると、一九三八年十月一日だと月日まで答えてくれた、何だか意味あり気なので更に詳しく説明を求めると、その日が飯田鴻一氏の愛娘嘉子嬢—今では三人の母親になつてゐるが—と結婚した思い出の日なのである、爾來西本氏は日本から送り込まれてくる瀬戸物の間に生活しながら飯田翠山堂の歴史を綴つてきたのである、先日叙動された飯田鴻一社長とびつたり息を合わせて、同じような商業哲學にのつとり、ますます店の發展につとめてゐる、

來年四月頃にはアラモアナ第二センターに新しい店舗を開くことになつている「良い品を適宜な値段で客に満足してもらつた物を仕入れる」という基本的な主義に加えて、「店や商品を決定してウエスタナイズ（西歐化）しないこと、日本趣味をあくまで生かすこと」が飯田翠山堂のモットーとなつてゐる、そういう點、飯田翠山堂は日商工會議所と共に、日本文化の紹介者でもあるわけだ、日英兩語に秀でる西本豪氏は、これからも日商工會議所と飯田翠山堂の兩パイプから、日本情緒を豊にハワイに送り込んでくれることであろう、わびとさびが横溢している店内で、西本氏と對談している間中、店の入口から入りこむ貿易風に風鈴の音が断えまなく聞こえていた、寫眞は日商工の會頭西本ツヨシ氏

1969
1938
31

ハワイ漁業界の成功者

大谷松治郎氏の横顔

来布六〇年、喜壽を迎える

Jan 1 1968



室の出身で、由來大島郡は全島をあげてハワイ、米國や朝鮮その他海外へ澤山の移民を送り、従つて又多數の成功者を出している事も餘りにも有名である。

明治四十一年一月、今から六十年以前横濱からホノルルに入港した香港丸で來布した、移民の群に紅顔のまだ十八歳の青年が居た。柳行李の傍に佇み、變つたハワイの風景を珍しそりに眺めつゝ遙かに故國日本に思いを寄せている健氣な姿、これが來布六十年と喜壽を迎えられた青年移民の大谷松治郎氏であつた。

その當時、移民に加わつて來布した動機や感想を聞くに左の様に語つた。

何分半世紀以上前の事でまるで夢のようだ。大谷氏は山口縣大島郡家

會社を訪問、申込んだが、最初は却々として呉れない。若年ではあるし、又妻帯者でもなく、ハワイでの保護者の有無などで手續が頗る面倒であつたが、自分の熱意に動かされ遂に許可して呉れ、明治四十年十二月二十四日付け山口縣知事より旅券が下附され、早速渡布の準備と言つても僅か柳行李だけで他に何物もなく、翌年四十年一月元日郷里を出發し神戸岩屋旅館に投宿し、翌日香港丸に乗船し、十四日を費しホノルルに入港したが、移民の前の棧橋で検疫のためサンドアイランドの千人小屋に送られ、移民局の取調を二週間を要し、上陸を許され、川崎旅館で郷里の人々の出迎えを受けカカアコに居住する事になつた。

創立され、ケカウリケ街に新魚市場を開説し、開店希望者を募集したので場所選定のため出府、早速交渉まじり、大谷生魚店の名稱で開店した、現在創立五十七年繼續の株式會社大谷商會の發足は一九二一年の二月、氏は當時二十二歳の若年であつた。

生魚店開店の動機は氏の郷里大島郡家地方は漁業の盛んな所に少年時代からこの環境に育ち、又ハワイの漁業は日本人獨占事業と云ふべきで、若くて商魂をかきかされ、ここに着眼し、魚店を起し、爾來五十七年間、この道に精進し、今日の大發展せし所以は氏の奮闘努力によつたものである。

當時柳井に山口縣からのハワイ移民を募集する防長移民會社があつて、絶えず希望者を募集していたので

早速就職口を探していたところホテル街の山本赫郎さんの山本商店にスクールボーイとして入店し、傍らパウアヒ街にあつたミール

魚市場開設

生魚行商の免許第一號

創業五十七年を迎える 大谷商會と傍系會社

スールの初等英語科に入學後、更にウオニールス商會に就職し、夜はサウス街浄土宗開教院の夜學校に通學し、その後馬哇島に渡りハワイナの同郷人經營の柳原商店に入店した。

二カ年後ホノルルでダグター三田村敏行、中村源策兩氏發起で布哇漁業會社が

創設され、ケカウリケ街に新魚市場を開説し、開店希望者を募集したので場所選定のため出府、早速交渉まじり、大谷生魚店の名稱で開店した、現在創立五十七年繼續の株式會社大谷商會の發足は一九二一年の二月、氏は當時二十二歳の若年であつた。

又開業當時ハワイでは生魚行商は公に出來ない時一九一三年四月縣政府より正式に許可を得、ライセン

ス第一號を獲得し現在百數十台の行商車が盛業しているが、大谷氏が元祖である同氏は又商賣柄漁業會社や漁業家とは密接な關係を有し、戦前戦後を通じて氏がハワイ漁業界に貢献し残した足跡は亦甚大である。

ユナイテッド漁業會社創立以來の社長で戦前ハワイ産業の一つに數えられた漁業が一時一世漁業家の減少や二世の轉業などに依り漁船所有者達に恐慌を來した際政府を動かし沖繩連合會などの協力を得て琉球政府と交渉の結果、沖繩青年漁業實習生二十名宛招聘に成功した事も特筆すべき事である。

株式會社大谷商會は今春で創業五十七年の歴史を有するが、今日の隆盛に至るまでには其の経路必ずしも平々坦々たるものばかりでは無かつた、一九二〇年アラ市場に移轉合資會社に改名、擴張と共に日本及び米國の大會社と提携、食糧品や冷凍魚類などの大量輸入を開始し、更に一九三九年三月アラ市場をアラマーケット會社より買収し、株式組織に改組と同時に當時十萬弗を投じ改装工事中落成あと二週間と言う際不慮の出火で類焼し、更に再建に着手同年十二月四日現在のマーケットプレース會社建物が完成し十二月七日オープンハウス、祝賀日に日米戦突發し大谷社長は同夕監禁の身となり、戦時中は米大陸抑留所に收容され苦難の四年を過し終戦一九四五年十一月末歸還爾來二十三年に至る。

尙ほ株式會社大谷商會の傍系會社はマーケットプレース會社、ケワロ灣の製氷會社及びスモーク・オブ・

ハワイ等何れも大谷一家の株式經營、社長は大谷松治郎氏で同氏は又家庭的に恵まれた人で、一九二一年十一月結婚五男四女の子福長者で、長男治郎一氏はマーケットプレス會社支店配人、ハワイ・ナンヨナル銀行及びキャパタルインベストメント會社重役、二男明氏は同商會々計支配人、三男健次氏は同商會副社長、四男敏郎(博士)氏はワシントンD.C.のナショナル・ガ

研究所に就職、五男英雄氏は同商會重役、長女フロレンスさんは豊之家、三女グレースさんは吉村家、四女エブレンさんは清田家にそれく嫁している。

ハワイ在住六十周年を迎えた大谷商會社長大谷松治郎氏、小さい方來布した時の青年大谷氏

小幡生

日本人商工会議所

Nov 21
1919

ゆうべ總會

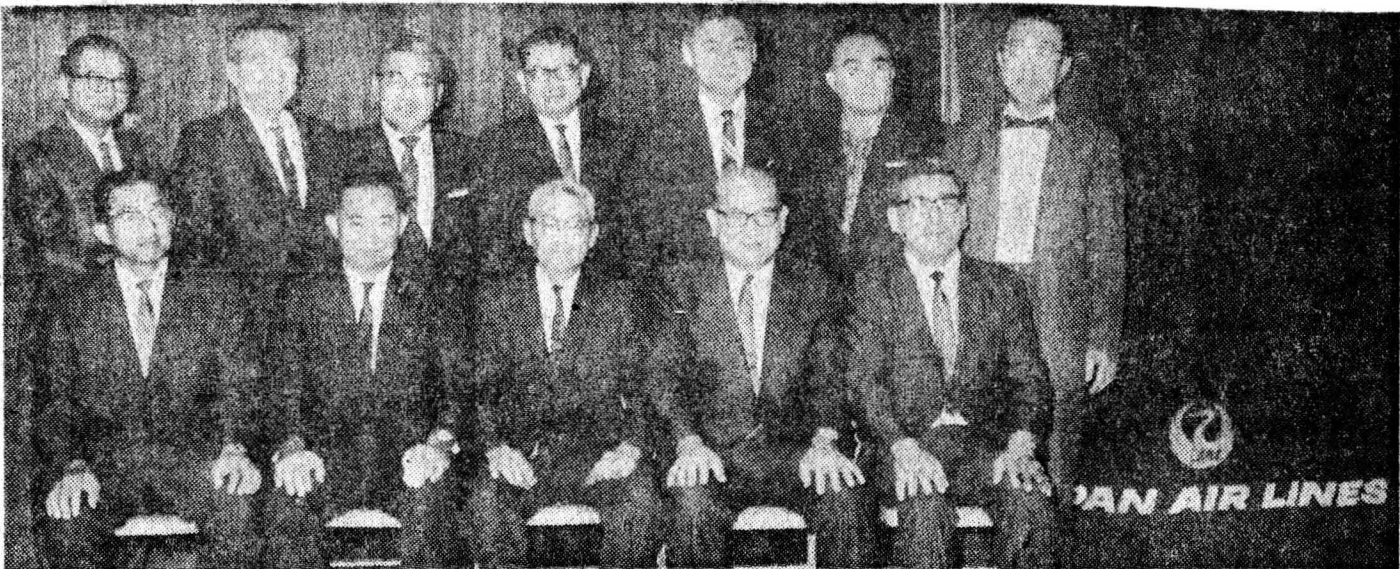
役員
改選

ホールに幕を奇麗した、京都西陣、川島織物の調製で明るい涼しい感じのするカーテンである、同夜の總會で萬場拍手を贈った

新役員選舉

新會頭ウイリアム辻氏

決定發表された
會頭 ウイリアム辻
次期會頭 橋本輝雄
第一副會頭 シドニー小笹
第二副會頭 梶川 秀雄
書記 ジエームス藤川敬三
監査 フレッド田村
コンラッド赤松
ウイリアム長沼
新役員の就任晩餐會は明年一月五日、同ホールでの新年宴會で行われる



寫眞は新役員諸氏 左より、前列小笹副會頭、橋本輝雄、辻新會頭、橋本大剛會頭、梶川副會頭、(後列左より)赤嶺監査、田村會計、藤川書記、神里常務副會頭、河野元會頭、河村監査、長沼監査の諸役員

スマイザー氏の講演

夕食後にハリー連蔵氏のMCで、來賓の紹介、スターブレチン社主筆パッド・スマイザー氏の「一九七〇年期の日米關係」についての講演があつた、同氏は去る九月、日本を訪問して朝野の名士とインタビューしまた萬國博會場を見學したそれら管見記はスターブレチン紙上に連載され好評を博した、政治的、經濟的、國際的の各見地から日米關係を解剖して、兩國のリーダーたちが平和を目標として理解と協力をつづけていく限り日米關係は好望であると言つたが、ワシントンではニクソン・佐藤會談がスムーズに進捗した日の夕であったので同氏の講演はタイモリーで、この外、興味深く聞かれた

日航より 幕寄贈

日本航空では商工の文化ホ

會議所史編纂募金

一萬五千ドル應募

日本人商工会議所史編纂費の募金運動は先月來行われているが、佐藤太一、河野秀雄共同委員長以下委員諸氏の活動と會員の理解、援助により十一月二十日まで報告では應募額二萬五千三十五ドルで二萬ドルの目標を遙かに突破する好成績を挙げた

一千ドル 寄附組は以下の通り
中央太平洋銀行、シチー銀行、グレート・ハワイアン・ワイオナンシャル(ノーマン因幡)國際興業、磯島武夫、マノア・ファイナンシャル(山本博敏)オクシデンタル保險(L.T香川)S.掘田建築請負及び建築材料會社(堀田繁)尾崎商會(尾崎半)S.M飯田商會(飯田鴻一、西本豪)佐藤服裝店(佐藤太一)

ロバート佐藤)サイビコパンファイツク(ジョージ福永)セブン・アツパ・ボトリング會社(ウイリアム辻)住田慎三郎、ロイ高桑、タイムス、スパイ・マーケット

開業五十周年を迎え

サービス・モーターズを改名

サーブコ・パシフィックと

05/11/1969



故福永秀一氏の創業

一九一九年故ビクター福永秀一氏がハレィワで自動車修理業を開業、それ以来今日まで五十年サービス・モーター株式会社は畫期的な飛躍を遂げたが、創業半世紀を記念に社名をサーブコ・パシフィック株式会社と改

めることになった。去る九日、カイマナ・ホテルでジョージ福永社長は、この改名について次のように挨拶した。

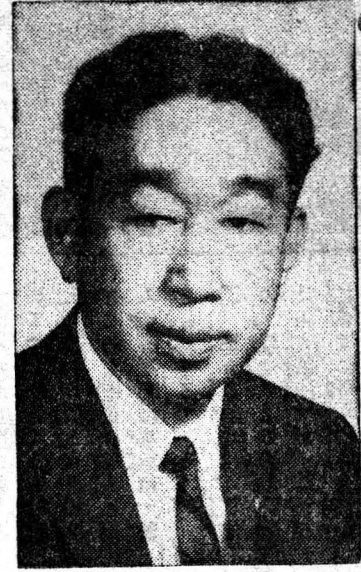
「この五十年間我々の会社は順調に行つたときもあれば、わしい道もあつた、しかし現在お隣様で、シボレー、トヨタ自動車販売、ギブソン、イージー・アプラインス、楽器販売、等幅広い事業に發展できた。ハワイは太平洋の中心であるという地理的な重要性にかんがみ、また総合企業にふさわしい社名にしようというわけで、今度サーブコ・パシフィック株式会社とする、これで今までの古いイメージから新しいイメージに衣がえし、更に大きく發展したい、今後ともよろしく」

新役員紹介

席上新しく改名したサーブコ・パシフィック株式会社の役員が紹介された。

社長 ジョージ福永
副社長 トーマス福永

後藤院長引退

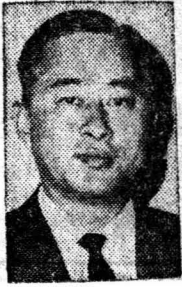


去る九月二十八日には四百六十万ドルの巨費を投じて建築された新病棟の完成を見たクアキニ病院を往時の本造建物から今日の大病院にまで育て上げた、後藤健治院長が今月末を以て引退することになった。

後藤氏はハワイ日系人間に多くの人材を出している、ハワイ島コナ出身者で、一九〇四年コナ・ブアコで出生した、後出府して當市のマツキャンレー高校を経て、

副社長會計 樋本 輝男
小賣業總支配人 ジョージ賀屋
卸賣總支配人 トーマス畑中
ワイパフ支店長 ワレス東
モーター・インボーツ支配人 マックス・マクミラン
向、サービス・モーターの創立者ビクター福永氏は一九六〇年他界している。寫眞は右九代社長福永秀一氏、左ジョージ福永現社長

田阪氏が院長に昇任



後任院長には副院長田阪又一氏が昇格することになつている、田阪氏はヒロ出身で病院管理學を専攻しており、病院運営の適任者と目されている。

(寫眞は田阪氏)

日本人商工会議所史出版

経費二万ドル募金各委員会と氏名を発表

二年余の努力で漸やくまとまる



家訓 庭

日本人商工会議所の歴史編さん実行委員長・佐藤太一、河野秀雄、委員・ジョージ・福永、神里政人氏はきのう来社した。「日商工の歴史」刊行について、佐藤太一氏は次のように語った。

佐藤太一氏談 日商工の歴史の編さんは、二年半あ

去る六日開かれたキックオフ・カクテル宴で委員

のり来社した。「日商工の歴史」刊行について、佐藤太一氏は次のように語った。佐藤太一氏は、二年半あ

048 1969

時当時、仏青、領事館などに保管されていたものが、洪水などのため、残っているものもなく、文書、写真などは一般の方々のご協力にたよるほがなく、難航を極めました。ようやく目鼻がついたという所へ来ましたので、何分よろしく後援を願います、と語った。

刊行の趣旨

日商工は移民百年に次ぐ日本人の歴史であり、一九〇〇年三月創立されたもので、一九七〇で満七十年を迎える。この意義ある年に日商工の歴史七〇年を編さん、日英両語の書籍として後世に残すのは、若き日系ジェネレーションのためにも、ひびくは広く日本人のハワイにおける歴史として遺すためのものである。

日英両語、二百五〇ページ、内五〇ページは写真

サイズはスタンダード・サイズ七折半×十折半、特製のカバー付、美しいデザインを施したもので、十二月三十一日完成の予定。

基金募集委員

名誉総委員長 飯田鴻一
△会頭 ジョージ・福永
△共同委員長 佐藤太一、河野秀雄
△副委員長 樋

本照雄、シドニー小笹、ロイ村上、高桑周次郎、ウイリアム辻、富田市太郎、共同会計 森部隆一、梶川秀雄、共同書記 ジェームス・K米村、神里政人、監査 コンラッド・赤嶺、ジェームス・藤川、ギヤレット・外田、ウイリアム長沼

顧問

安達正幸、安里貞雄、栗村徳善、堀田繁、ジョージ・藤沖、古岸熊次、古岸昇、パロン後藤、後藤健二、塚野カズ、ラルフ・本田、ノーマン・稲葉、石井一夫、磯島武夫、ロレンス・香川、クラレンス・加理

本片桐正利、小林金衛、小林虎男、松井登太郎、三保克朗、三田博、森藤定人、ジェームス・森田、村重基之、仲嶺真介、ジョン・西本、西本豪、岡田賢次、岡崎久朗、尾上久次、尾崎沢次郎、尾崎裕リチャード、崎元、ホレス・迫田、ロバート・佐藤、三枝欽三、重本王輔、ロイ相賀、ウオルター・相賀、住田慎三郎、ハリイ田川、高桑俊一郎、アルバート・照屋、時岡政之、築山清之助、山本広敏、エドワード・山崎、吉上生ポール、円福、上条文雄

幹部委員

ジョージ・福永、辻ウイリアム、佐藤太一、河野秀雄、松井登太郎、高桑周次郎、神里政人

委員

クラレンス・近末、ハリイ・遠藤、アーネスト・古川、ロナルド・藤井、S古川、白水和一、アーネスト・原

ワレン比嘉、フランク・井上、出雲サトシ、川勝常雄、ハリイ・河本、ラス・テイ川村、ロバート・嘉屋木村忠義、古生正男、久保田行男、ベリー・三力谷、ポール・宮城、森岡忠男、ロイ・村中、村田和直、中丸みどり、若田隆、西島テオドラ、大部喜代可、岡田賢次、岡原時蔵、サム・沖永、島田クライド、杉山寧、ウオルター・田川、ウイリアム・高林、山城常雄、フレッド・田村、ジェリー・古谷、バート・東海林、ラルフ・豊田、ハロルド・山本、ジェームス・吉村、リチャード・吉野

編さん部委員

編さん長 山本常一、△編集顧問 豊平良金△会見記者 川添善市△研究部員 北野耕二、鶴田初子、前山稔司△技術部 吉田信二△翻訳 河本美代子 (以上一部姓名音訳)

増えている日系老人

一日も早くケアホーム實現へ

Nov 24 1969

話の専門家の分野各

ホノルル日系婦人會では、昨日タイソン・カピオラニホテルのアカラ・ルームでランチョンを開き、次の三氏からケアホーム建設事業に關する

お話をきいた

ゲストスピーカーは州政府老人政策委員のマーガレット・ベネット夫人、フアング・ウオ・チング博士、クアキニ・ホームの宮城定雄主事の三氏で、このほかにクアキニ病院理事のハリー田川氏、婦人會のケアホーム委員を長らくつとめ健康上の理由でこのほど役目をポール田村、安達正之、兩夫人と交替した山崎昇夫人らが來賓として出席した。ベネット夫人は「ハワイ州は他の州にくらべ老人人口は少ないが、こんご壽命が伸び老人はふえる傾向にある。州全體の人口の約五・三パーセントが六五歳以上でこのうちの半分以上が日系人で占められている、ハワイは三世時代に入つて生活費が高くなり、住宅がアパート形式になり、夫婦共稼ぎの時代に變りつつあるため

婦人會の集會で各氏が力説

これらの老人を收容するケアホームの施設はこれからもつと必要である、大小合せて百四十五のケアホームがハワイ州内にあるが、このうち個人の家庭で老人を養つてゐるところもある。日本人の家庭では最近十五軒の家がケアホームとして老人を預かつている。こういつたホームには三つの形がある、ケアホームはナイスイング・ホーム（醫



のまわりの世話ができる元氣な老人を收容する場所。切なことは話相手、つまりで、ケアホームに最も大い社会との交流がなくてはならない、婦人會の皆さんは十年來このケアホームのための募金活動をしていられるが「ラウンド・ブレイキングはいつですか？」と語つたチング博士は募金活動の方法について話したが「皆さん、早くとりかからないと建設費は一年に十パーセントづつ上昇しているから、毎年十パーセントづつ損している勘定になる、募金事業を成功させるためには委員長になる人が誠意を持つた人で、社費からも尊敬されてゐる行動的な人物がふさわしい

外部に依存するばかりでなく、婦人會のメンバーが積極的に寄附する氣持がなければいけない、またお金を集めるのはそんなにむづかしいことではなく、三回か四回に分割して寄附してもらう方法をとるとよい、この事業のために誰か専門家をやつて實行にうつすとよい、問題は決心してすぐにはじめることである」クアキニ・ホームの宮城主事は同ホームの運営について語つた、クアキニ・ホームでは現在四十九人が在院しており、この人たちは自分で費用を拂つてゐる人社會奉仕局の補助で入つてゐる人もあり、またホームとしては共同募金の援助もつけているという、年齢は六十五歳以上だが、事情によつてそれ以下の人を收容することもある、食事は殆んど日本食、醫療の必要がある時はクアキニ病院でう

けており、娛樂プログラムは外部の援助をうけてゐる。こゝに入るためには入る人自身がサインするようになつており、子どもが勝手にいれることはできないといふハロルド小田夫人の司會で質問も活発に出た、會長土肥夫人の挨拶、山崎夫人

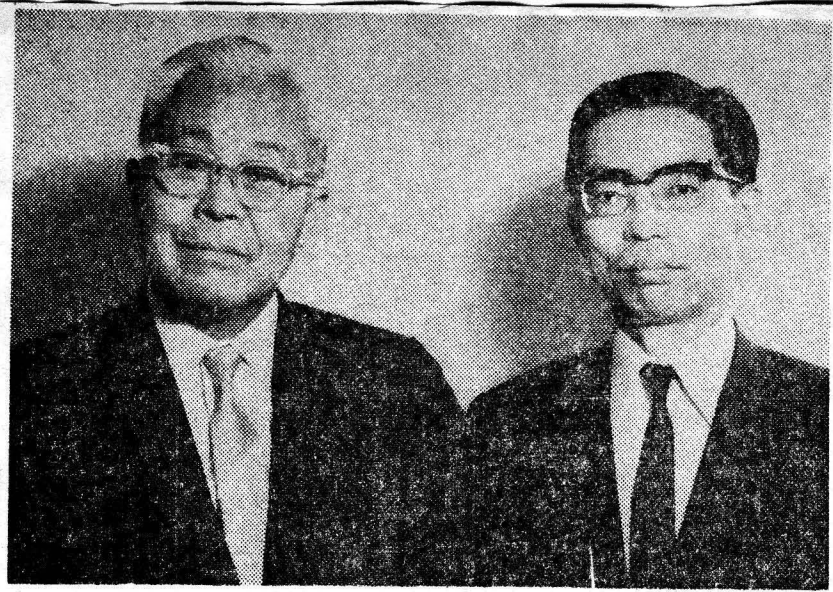
の辭任挨拶があつた。また白菊クラブから二百ドルのチエツクがケアホーム募金としておくれられ、同クラブの香川、榎本兩夫人から席上土肥夫人に渡された寫眞は左から田村夫人、チング博士、山崎夫人、土肥夫人、田川氏、ベネット夫人、宮城主事

シチー銀行 創立十周年

日系各位に感謝

June 19 1969

既報のごとく日系銀行として、親しまれて来たシチー銀行は、本日（六月十九日）創立十周年を迎えることになった。此の間に於ける同行の発展はハワイ銀行史上を稀に見るもので、開店當時二〇〇萬ドルであった資産が最近では約八、四〇〇萬



ルと四十倍以上に伸びていくのが目につく。本日挨拶のため副頭取大部長喜代守氏の案内で来社した伊藤頭取は十周年を迎える感想を次ぎの如く語った。「一九五九年六月十九日郵便本局筋向いの小さな店に開店してから今日まで丁度十周年を迎えた譯でありま

御事寫眞は 御申込次第 直ぐに調製 布哇タイムス社

すが、この十年間を振り返つてみますと、私としてはまことに感慨深いものがあります。本日このほんのりと迎えますことは、もとより日系各位の御支援と御愛顧によつて非常な伸展を遂げ得たからであり、此處に更めて衷心より厚くお禮申上げる次第であります。シチー銀行は今後共誠心誠意の御信頼と御愛顧を得るよう引き続き努める所存ですので、皆様の大なる御支援

をお願い申し上げます。只今十周年を祝つて、本店及び各支店に於て些細な記念品を差上げておりますので何卒御来店の上お受取り下さいます様御案内申し上げます。なお、私は八月おひまを頂いて引退することにしておりますが、シチー銀行のサービス精神は私が居ると居ないとに關係なく、今後共永久に続く創業の精神でございまして、今後共宜しく御引立下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。（寫眞は左から伊藤大（部兩氏）

外務省調べ

（東京發）外務省領事移住部は一九六八年度現在の海外在留邦人数の調査を行ったが、その結果を「海外在留邦人調査統計」

とまとめ、このほど発表した。これによると、海外にいる在留邦人数は三二五、二八五人、二世、三世などの日系人は九三六、二九六

在外日系人は 約百二十万人 June 19 1969

送金額で米が筆頭

（東京發）外務省領事移住部は一九六八年度現在の海外在留邦人数の調査を行ったが、その結果を「海外在留邦人調査統計」とまとめ、このほど発表した。これによると、海外にいる在留邦人数は三二五、二八五人、二世、三世などの日系人は九三六、二九六

る日本国籍者と日系人の総数は一、二六一、五八一人、百萬人以上の人々が海外で活躍している。また日本国籍を有し海外に永住している者は二七、八八七人、商社員など長期滞在者（三カ月以上）五三、三九八人が世界の百七カ國に散在して活躍している。地域別にみると南米が圧倒的で二一〇、五〇三人、次いで北米

△米國二千九十四萬一千ドル △カナダ七十五萬九千 △メキシコ十四萬六

平井勝利氏の他界

馬哇下パイア町在住、京籍熊本縣下益城郡小川町川尻平井勝利氏は豫て病氣中の處本月十七日早朝永眠、その葬儀は翌十八日午後五時より、ワイルク仲村葬儀所が八一、七九八人である、また海外移住の日系人はざつと百二十萬、この人らの日本送金額はどの位になるのだろうか、海外移住事業の調べ次の通り

を果すことができたのは會員の協力は申すまでもなく正金銀行時代以後、州商業會議所並びに日本商工會議所の兩會頭時代以来各界の知己友人の支持の賜であり感謝の言葉もない、常議員として會議所に在るので可かお手傳いさせて頂ける

にパイア満徳寺植岡宗孝開教使導師、パイア臨濟宗大城強司開教使の参列にて營まれた

司會者林田秀△燒香遺族代表パイア・カミニニテ會部彌吉△弔下パイア・カミニニテ會代表六戸正壽、一般代表渡部彌吉△謝辭遺族代表濱田逸雄の葬儀後ワイルクの記念公園墓地に埋葬された、なお故人は永年に亘りハワイ邦語教育界に盡せし、オアフ島ワイアル本願寺學園を振出しに、馬哇マカワオ日本

語學校長、ケアア日本語學校等を歴任し、今時大戦の勃發にて監禁の身となり米大陸に護送され、配所の月を眺める事四年にして一九四五年八月ニユー・メキシコ州サンタフェにて終戦を迎え、同年十一月布哇歸還が許されて家に歸り、戦後の社會事情より推して身を實業界に轉じ、下パイア町に平井商店と名稱して商店を営み今日に至つたものである、家庭はミニキ夫人との間に三男二女と愛孫十人がある

今月末限りで引退する日本商工會議所専務副會頭の安達正博氏がジョージ・福永讓市會頭の案内で今朝挨拶のため来社した

一九三一年横濱正金銀行、外國人財産管理、フアースト・ハワイアン銀行（舊ビショップ）等を経て一九六四年日本商工會議所専務副會頭に就任、今日に至るその間各校PTA會長、歸



商工専務副會頭 安達氏引退 June 19 1969

と云う、不動産買のライセンスを持つているので、それを生かし、自由な立場で社會のお役に立ちたい、三カ月は會議所からの補助があるののでその間に何か考へたい」と

會議所からの廣報レターによると同氏の略歴は次の通りである

一八九九年日本に生れ、一九一三年来布、一九五三年米國に歸化

太平洋學院及びハワイ大學を卒業

一九三一年横濱正金銀行、外國人財産管理、フアースト・ハワイアン銀行（舊ビショップ）等を経て一九六四年日本商工會議所専務副會頭に就任、今日に至るその間各校PTA會長、歸

シチー銀行新頭取に ジエームス森田氏就任

July 30 1969



ホノルル・シチー銀行伊藤幸一頭取引退の後を受けて同行取締役会長のジエームス森田正實氏が現職のまま本日附で頭取に就任した。森田氏は、ハワイ島南コナ・ケアラケア故郷田馬氏夫妻の長男として生まれ、ハワイ大農法科を経てジョージタウン法科大学に學んだ。全米及びハワイの辯護士組合員で、ハワイ及び米國大審院に出廷できる有資格者である。

新頭取は同行發起者の一人で、一九五八年から銀行創立の下拵えのため實業家を集めて發起者クラブを組織した責任者で、ホノルルに銀行が今一行必要であるということに意見の一致を見一九五九年六月十九日ホノルル・シチー銀行の設立が實現した。

二百萬ドルの資本金で成立した同行は十カ年の間に約四十五倍の八千九百萬ドルの大銀行に發展し、これは

全米でも異例のことである。創業當時二十三名であった行員も現在百六十二名に膨張した。

郵便本局近くの借事務所を發足した同行は、一九六六年三月に現在のリチャード街に立派な十階建新社屋に移り、市内マカレーとカパラマの二カ所に支店を開設した。

「今日の發展を招来したのは一に伊藤幸一前頭取の指導よろしきを得たことと同氏の高潔な人格と手腕によるものである」と森田新頭取は讃辭を呈し、更に過去に努らぬ業績を上げて、發展途上にあるハワイ經濟界に貢献したいと、抱負を語った。

眞實はジエームス森田新頭取

實業界でも幅広く活躍しており、下町改善協會の副会長、同理事、ホノルル商業會議所、ホノルル日本人商工及び米國赤十字社等の各理事であり、ハワイ觀光局の理事で前局長である。オアフ島癌協會の一九六九年度募金委員長でもある。更に以前地方輸出擴張評議員及びハワイ經濟指導評議員であった。

常陸宮と夫妻より養老院へ

アツブル・ジューズ

July 29 1969



研究所に客員研究員としてお通いになつておられます。妃殿下は其後も積極的に福祉事業に献身する方々を御慰勞目つ御敬禮はす御氣持から東京近邊の各種施設を御視察になつておられます。

丁度昨年の今頃ハワイを御訪問になりましたことを思い出されクアキニ養老院の方々に御無沙汰したからとの思召で日本の林檎で出来ましたアツブルジューズを百個御年寄りの皆さんへ下さいましたので来る六月三十日横濱出帆の日本郵船の船でホノルルの總領事館宛送りますから、七月七日以後に同館と御連絡の上御受領下さいまして養老院の方々に御傳達戴きたくお願い申し上げます、兩殿下

(總領事館) 昨年ハワイ移民百年祭に際し常陸宮同妃兩殿下はクワキニ養老院を訪問され、入院中のお年寄りの方々を見舞われましたが、恰度一年後の去る六月これらの方々に對しアツブル・ジューズ二箱をご寄贈に傳達されました。

されたいとの意向により同月横濱から發送されました、これが去る二十四日ホノルル港に到着したので早速二十六日(土)午前十時に在ホノルル吉岡總領事から入院中のお年寄りの方々に傳達されました。

一年前のハワイ訪問

思い出されて...

以下は常陸宮附東園基文氏よりの書面
久しく御無沙汰を致しておりますが其後もお變りございませんか

當呂兩殿下殊の外御機嫌よく入らせられますから何卒御休心願います
殿下には去る六月二十日より財團法人癌研究會の癌

より後藤院長を始め皆さんによりしくお傳へ申す様にとのことでございました。一年前を思ひ違かに皆様の御健康をお祈り致します。六月二十五日
常陸宮付

東園 基文
クアキニ養老院長
後藤健治殿
寫眞は吉岡總領事よりアツブル・ジューズを受取る(左より)後藤、仲嶺宮城の諸氏

シチー銀行 人事更迭

伊藤氏 引退 新頭取に森田氏

Apr 17 1969

ホノルル・シチー銀行の伊藤幸一頭取が七月三十一日限りで引退することを昨日の取締役会で発表した。取締役会では、後任頭取として取締役会長ジエーム・森田正實氏を選出した。森田氏は今後も会長として在職することになった。

伊藤氏は一九五九年同行が設立されると同時に招かれて副頭取に就任した。一九六一年ピーター・福永秀一頭取死去の後を承けて頭取に就任し今日に至った。

同氏は一九〇二年三月三十一日の出生で、一九二五年神戸高商(現商大)卒業と共に三井銀行神戸支店に入行。以来四十四年間の銀行生活に終止符を打って勇退するもの、三井銀行では、

上海、東京、ニューヨーク各支店を経て本店調査課、文書課、外国為替課にあつた後、東京支店外国課及びニューヨーク支店支配人を歴任、一九五六年には三井銀行重役に選ばれた。

ホノルル、シチー銀行創設者の一人として有数の日系大銀行に育て上げた功勞者である。勇退後も同行取締役として行運の進展に参畫する。同氏はホノルル商業會議所、ホノルル日本人商

工會議所並びに經濟研究クラブの會員である。

森田新頭取も同行創立者の一人で一九六一年以来、取締役会長で取締役會議長を兼務していた。

同氏は下町改善協會第一副會長で、ハワイ觀光協會の前會長である。ホノルル市郡檢事、ウイルソン・トンネル工事特別顧問並びに、

ジョン・ウイルソン市長時代の求刑官等に歴任した。ハワイ辯護士協會並びに全米辯護士協會會員である。

ハワイ日系最初の銀行頭取となつたジエーム・森田正實氏はコナ生れの人財の一人で、初期の日本語學校の



欧州旅行にも行く 閑暇を得た伊藤さん



伊藤幸一氏は今年に亘る顧客本位の奉仕生活から解放されるわけで、八月一杯ハワイに滞在した後、かねがねやりたいと考えながら果し得なかつたという、な事を樂しみたいとその心境を語つた。

差當つてヨーロッパ周遊などを計畫中の趣きである。

写真は伊藤前頭取

ハワイに残る明治

天長節祝賀會盛況

秋晴れの昨日曹洞ホール

Nov 3 1969

◎：ホノルルの秋を飾る名物行事の一つに数えられていた布哇明治會の明治天長節祝賀會は、昨日サンデー午前十一時からヌアヌ街曹洞宗ホールに催されたが、折柄秋晴れの好天に恵まれ、特に都部方面からの出席者が多く、その數三百名に近い盛況を呈した

◎：會場正面には例によつて明治大帝の大肖像寫眞が飾られ、それに白の菊花大輪や緑の松、さては紅白の氣分が溢せられて、祝賀は特に當市兩邦邦日刊紙代表の外にジャパン・タイムス、毎日新聞、時事通信のホノルル駐在員も招待され、布哇に残る明治會を日本に留めたい一役買つた

◎：重水會長はその式辭において、明治天皇の五箇條の御誓文中の「廣く會議を興し萬機公論に決すべし」を引用し、約百年も前に民主主義の本義を説かれた大帝の偉大さを賞揚した

◎：又二世、三世の中からも米國中央政界は云うまでもなく州政界、更に財界、教育界各方面に幾多有爲の人材を出しているが、こうした人達が明治精神を體する草分け移民の子孫である吾等事實を指摘し、もつて草分け同胞に萬陸の敬意を表した

◎：次いで吉岡總領事は昨年にも今年も引き続き、布哇明治會のこの催しに出席し得ることを喜ぶと云い、昨年は感懐深い移民百年に相當

云う、日米兩國にとつて重大意義を有する年である、自分としては、その會談の成功を信じ、日米兩國は益々親善を深めるであろう、しかもこれは日米兩國が對等の立場に立つての外交である點を強調し、もつて出席者達に多大の感銘を與えた

◎：吉岡總領事は又、布哇明治會が、出先官憲の手及ばぬ事務、たとえば荒廢しつつあるマキキ海軍基地の修復を思い立つたことについて、深甚なる感謝を表明した

◎：この事については重ねて重水會長からも今日までの経過の説明があつたが、日本側でも海上自衛隊を初め各方面で多大の關心をもち、これが達成に協力しつつあることが明かにされた、詳細は追つて發表される

◎：厳肅な第一式に次いで一同折詰辨當に冷酒一本と云う清楚な午餐を共にした、次いで優美な日本舞踊や詩吟など豊富な余興が紹介されて、出席者一同大満足であつた、なお當日出席の會員に對して美事な「浩宮様寫眞アルバム」が進呈された

海軍墓地修復 明治會の新計畫發表

△昨年度被叙勳者田中ハル女史と講道館七段を許された木村喜代一兩會員に對してお祝のレイと記念品贈呈 島本副會長 栗村 徳善

△來賓萬歲 山本 常一

△明治會萬歲

病中有感

竹井 蘇人

今度自分でも信じられぬ様な、はずみと誓うか、無爲の奇禍に遭つて一命危しと思われた事二度、一カ月の入院、二カ月の仰臥を余儀なくせられ、天井を見つめながら仕方なしに歌に詩に迷想の時を過す結果となつた、その間の雜作を記しました

病窓瞥見
病牀旬日幾危難
三尺窓中月色萎
夢走故山馳萬那
家人勿感常心安
病牀旬日幾危難
三尺の窓中月色寒し
夢は故山に走せマノアに馳す

家人感うる勿れ常心安し
洛北所見
夜來霖雨霽
洛北自鮮明
鳩舞深秋色
切空爆音行
夜來の霖雨霽れ

一片彩雲連海嶠
萬那山峽好風吹
自嘲半世紀如夢
孤韻往年客心悲
一片の彩雲海に連つて

マノア山峽好風吹く
自嘲半世紀如夢の如し
孤韻往年を顧みて客心悲し



式順

△司會者 山中 富人
△日米國歌の齊唱 一同
△式辭 重水 會長
△祝辭 吉岡總領事

(寫眞は萬歲を三唱する出席者と祝辭をのべる吉岡總領事)

1969 11 93

高小荒地の整理 1961
Dec 9 1961

高小荒地の整理 1963
Dec 6 1963

高小荒地の整理 1961
June 17 1961

高小荒地の整理 1962
May 28 1962

高小荒地の整理 1960
Oct 13 1960

高小荒地の整理 1965
July 9 1965

高小荒地の整理 1964
June 26 1964

高小荒地の整理 1965
July 23 1965

高小荒地の整理 1963
July 11 1963

高小荒地の整理 1966
May 28 1966

高小荒地の整理

高小荒地の整理 1967
Mar 28 1967

高小荒地の整理 1968
Oct 29 1968

高小荒地の整理 1969
Apr 12 1969

高小荒地の整理 1969
May 6 1969

高小荒地の整理 1969
May 27 1969

1967
1968
1966
1965

高小荒地の整理
Mar 28
1969

照屋氏兄弟の July 12 1968 イリマ・ホテル きのう賑かな開館式

ワイキキのノホナニ街四五五、アラワイ運河近くに新築された照屋兄弟のイリマ・ホテルは、昨十一日午後五時半より正面入口で約五十分の間にわたり厳肅で、賑やかな開館式を行った。初めに河野秀雄日商工會頭の司會で請負いのS・K小島、事業監督のリチャード・三力谷、支配人ジエームス・米屋の諸氏の紹介、持主アルバート照屋、ワレレス照屋兄弟及び家族の紹介などがあつた。新ホテルの工事費は二百五

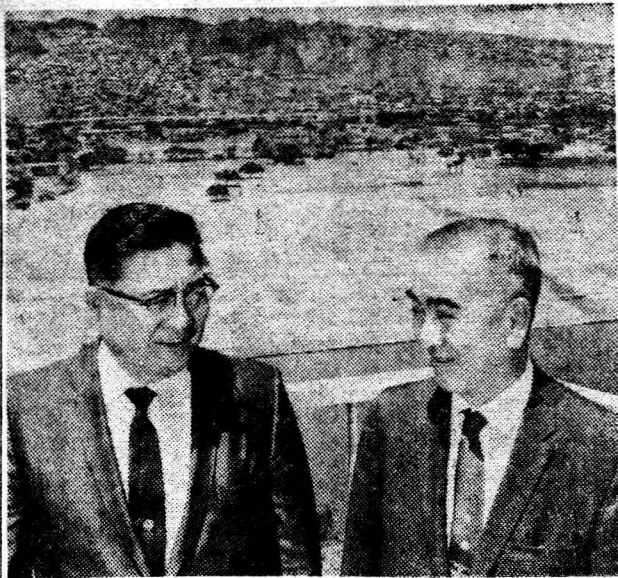
十萬ドル、ルーム數九千十室であるが、各ルームは備々として、イーディー・アライアンス納入の新式家具を備えて豪華なものである。ホテル代はスツデオは、シングル十六ドルから十八ドル（ダブル十八ドルから二十ドル）スツはシングル二十ドルから二十二ドル（ダブルは二十四ドルから二十八ドル）となつて

いる。同ホテルの特徴はベント・ハウスと十階にあるサンデッキで、ワイキキとその周辺の眺望をほしのままに出来る。各室も普通サイズより大きく、キッチン、ラジオ、空冷

器を完備している。イリマ・ホテル支配人のジエームス・米屋氏はホテル、観光業關係のベテランで、照屋ブラザース社の經營者

アルバート、ワレレス照屋兩氏は、一九三九年にアダバタイザ社隣りにタイムス・グリルを開業、十年後に南キング街のタイムス・スーパリー・マーケットをオープンした。

照屋ブラザース社はオアフ島内に七スーパリー・マーケットを所有、經營している。なお照屋氏兄弟は沖繩小祿村出身系である。



天皇の誕生日祝賀式

けさ公邸で厳肅に舉行

今夕は盛大な祝宴を開催

今上(みかど)天皇陛下(みかど)の第六十八(むそじゅうはち)歳の誕生日(たんじうび)祝賀式(しゅっかしき)が、けさ(けさ)十時(じゅうじ)からホノルル(ホノルル)総領事館(そうりょうしきん)で厳肅(げんぷ)に舉行(けいぎん)された。また(また)本(ほん)日は春(はる)の定期(ていぎ)叙勲(じょく)として、ハワイ(ハワイ)の功勞者(こうらうしや)深尾(ふかお)泰次(たいじ)、豊平(とよへい)良金(りやうきん)、山縣(やまがはら)平治(へいぢ)、中本(なかもと)順一(じゆんいち)氏の被叙勲者(へいじょくしや)名も發表(はつぱつ)され、意義(いぎ)一入(いつにゅう)か

いものがあつた。祝賀式(しゅっかしき)は清水(しみず)領事(りやうし)の司會(しゐ)で左(ひだり)の如(ごと)き式順(しきじゆん)があつた。
 △國歌(こくか)齊唱(せいぢやう) 吉岡(よしかわ)總領事(そうりょうし) 村上(むらかみ) 協會長(けいごうぢやう) 村(むら)永(なが)日(ひ)商(しやう)會(かい)頭(とう)
 △天皇(てんかう)陛下(みかど)下(げ)萬歲(ばんざい) 吉岡(よしかわ)總領事(そうりょうし) 式後(しきご)一(いつ)出席者(しゅっせきしや)一同(いどう)祝盃(しゅっばい)をあけ天皇(てんかう)、皇后(こう后)兩陛下(りやうみかど)下(げ)萬歲(ばんざい)を祈念(いのり)した。

日米兩元首のため乾盃

に五万人

締め切り(しめきり)までに二萬三千八百八十人(にまんさんひゃくはちじゅうはちじゅうににん)がお祝(いわ)いした。この日(このひ)の人数(にんず)は午前中(ごぜんちゆう)の参賀(さんか)と合わせ五萬八千人(ごまんぱちせん)となつた。



ハワイ同胞(たいぼう)が天皇陛下(てんかうみかど)下(げ)の万歲(ばんざい)を三唱(さんぢやう)し、寫眞(しやしん)上(じやう)は吉岡(よしかわ)總領事(そうりょうし)の挨拶(あいさつ)、下(した)は飯田(いひだ)元老(げんらう)の音頭(ねだう)で天皇陛下(てんかうみかど)下(げ)万歲(ばんざい)三唱(さんぢやう)した。

シチー銀行副頭取に 大部喜代守氏返咲く



シチー銀行(しちーぎんぎん)の副頭取(ふくとうと)であつた大部喜代守(おほたけよしのり)氏が三年(さんねん)ぶりに同じ職(おなじしやく)に返り咲(かへりさき)いた。大部(おほたけ)副頭取(ふくとうと)は、これまで三井銀行(みづほ)の外國部(こくご)次長(じぢやう)として東京(とうきやう)・本社(ほんしや)に勤務(くわむ)していた。「なつかしい皆(みな)様に(に)一々(いちいち)参上(さんじやう)してご挨拶(あいさつ)申し上げたいのですが、まだ落ちついていませんので紙上(しじやう)を通じて皆さん(みなさん)によろしく……」と挨拶(あいさつ)していた、家族(かぞ)は一カ月(いっかげつ)ごに來布(きよ)する。寫眞(しやしん)は大部(おほたけ)シチー銀行(しちーぎんぎん)副頭取(ふくとうと)。

秋の定期叙勳

在任者 **磯島氏ら四人に榮譽**

△勳六等瑞寶章



現伊勢本請負會社社長、
現ハワイ島廣島縣人會
會長

伊勢本久人

在留邦人の福祉功勞
(本籍地廣島、七十一才
現住所ハワイ州ヒロ市ビ
イラニ街六四八)

△勳六等瑞寶章



洋園時報社長兼主筆
金城 珍榮
在留邦人の福祉功勞
(本籍地沖繩、六十八才
現住所ホノルル市アレワ
ドライブ一四〇一A)

△勳六等瑞寶章



元ハワイ報知記者
前山 凜司
在留邦人の地位向上、日
本文化の紹介功勞
(本籍地新潟、七十才、
現住所ホノルル市北スク
ール街六一二B)

していた両親が日本滞在中
山口縣で出生、名古屋商業
學校卒業後廣島の加藤商會
に入社、貿易業の見習いを
する、一九二三年來布、太
平洋學院に學び、中退後、
ホノルル市フォート街に父
親が經營していた磯島商店
に入社、家業を通じて優秀
な日本商品をハワイに紹介
宣傳してきた功ははかりし
れない、父の跡を繼いで二
代目社長に就任、戦後ワイ
キキに支店を擴張、實業界
で活躍、日系社會の向上に
貢献した、一九五四年ハワ
イ經濟研究クラブ會長、一
九五六年日本人商工會議所
會頭、一九五七年クアキニ
病院理事、また氏は多趣味
な人で、ゴルフ、碁をやり
ハワイ棋院の副理事長、ま
たハワイ裏千家支部の顧問
でもある

【在ホノルル日本國總領事館發表】ハワイにあつて、報道・商業・貿易・公共事業等の面において、多年、日系人社會の向上發展のために盡力し、顯著な功績があつた、左記四名の方々が十一月三日付をもつて、叙勳の榮譽に浴せられましたこの榮譽に浴せられた方々に對し、衷心より御祝申し上げます

△勳五等瑞寶章



磯島 武夫

元日本人商工會議所會頭
(六十八才、ホノルル市十番街一三三八)
在留邦人の地位向上に努めるとともに、日本文化の宣傳紹介に盡くした

略歴

明治三十三年十一月十日、既にホノルルで商店を經營

1968
No 2

北後
少

観光物産展開催に

津田知事ら来布

07 15 1969

二十日から白木屋で開催

神奈川縣

ハワイと最も縁故のふかい神奈川縣が十月二十日から六日間、アラモアナ白木屋百貨店で、神奈川縣ハワイ観光物産展を開催する。

ふえる一方で、昨年は五十七人増加した。一方、日本に來る観光客は昨年五十一萬人、そのうち米國人二十四萬人（ハワイから約九%）となつてゐる。これは航空運賃が安くなるので観光客の交流はますます盛んになるものと期待される。

來場者の抽せんで

二名を日本に招待

備するため、津田文吾知事夫妻を初め三橋良夫、觀光課長、氣賀清見秘書、村上三治、宣傳係長などが昨夜の日航機で來布した。

神奈川縣觀光・物産展のよびものは、物産展示、即賣觀光映畫上映などであるが、來場のアンケート回答者を抽籤し二名一日本へ招待する。

「神奈川縣は全國でシリカが、人口は五二〇萬でトブ、毎年二十二、三萬人も

同觀光・物産展の主な内容として、
◇開催主旨
國際觀光都市ホノルルにおいて日本を代表する神奈川縣の觀光地と物産を宣傳、

小型車の販賣戰で

ダットサン 優勝す

07 15 1969

ヴォルクスを引離してリード

西ドイツ製の小型車ヴォルクスワゲンの「ビートルズ」又は「バググ」は賣上げでは今まで、ハワイの外國製自動車のトップを獨走していたが、最近トヨタ、ダットサンに追い抜かれて第三位に落ちた。

併し、これはハワイだけでソトサン一、三〇九台、トヨタ一、〇五二台、米大陸では強敵のトヨタを押えて、四對一の人氣を保つてゐる、いくらか下向き傾向であるとは言われてゐるが、

カーテナル・メーリング・サービスで集計した統計によれば次のような数字が出てゐる。
△一九六七年九月末、トヨタ一、八八九台、ダットサン一、七三三台、ヴォルクスワゲンは二、五二五台と飛躍をとげ、押しも押されぬ第一位に昇つた。ダットサンは二、二五一台で第二位、二、二二六台のヴォルクスワゲンは第三位に甘んじてゐる。

最近のヴォール・ストリート・ジャーナルによれば全米で外國車の賣上げが七パーセントの伸びを見せたにも拘らず先月などはドイツ製は一九パーセント後退した。

過去十カ年に亘る米國自動車産業の手に負えなかつたヴォルクスワゲンの輸入阻止が、日本から輸入の外車によつて達成されたのは皮肉である、同誌は論じてゐる。

ちなみに、トヨタ自動車は一九一九年創業以來、滿五十周年を迎えたサービスモーター社によつてハワイで一手販賣されて非常な好評を受けてゐる。

ホノルル日本人商工會議所
 は、昨二十四日午後五時半
 からバハラ・レーンの花
 の家・に於て、一九五五年
 度上半期總會と創立五十五
 周年記念祝賀晚餐會を開い
 たが、夫人同伴者も多く、
 出席者百五十名を越える和
 かな盛會であつた。
 總會は左の通り行はれた
 △點呼 成立宣言
 △上半期物故會員に對し一
 分間の黙禱
 △會頭挨拶 堀田 繁
 △會務報告 書記村重甚之
 △會計報告會計中丸三度理
 右兩報告を異議なく承認
 △青年商工報告
 前會頭 中田 高明
 △報告に次いで議事に人つ
 たが提案なく、閉會
 總會に續いて會員懇親會に
 移り、ビンゴその他のゲー
 ムで楽しい一時を過ごし
 た後、五十五年祝賀晚餐
 會に入る。第一式は磯島副
 會頭の司會で左の通り行は
 れた。
 △挨拶 司會者磯島 武夫
 △式辭 會頭 堀田 繁
 △祝辭 總領事金山 政英
 △祝辭 本田 政亥
 △商工萬歲 豊平 良金
 △來賓萬歲 田川 一三
 續く第二式は、米村信預司
 氏の司會で、クラブ・オエ
 トシス出演中の藝人がビ
 ル・パチエコ氏に引率され
 て出場、歌や舞踊で大いに

賑はつた後、脇本勝一氏の
 司會で楽しいゲームが再開
 され、最後に呼物の福引が
 開かれ、佐藤領事夫人の米
 一俵が當るなど大賑ひの中
 に散會した。
 寫眞は出席者の一部と式
 辭を述べる堀田會頭一本
 社撮影

幸
 々
 了

合氣道創始者 植芝盛平先生逝く



合氣道創始者植芝盛平先生が去る四月二十六日午前五時東京の合氣道本部で御他界になつたことが、ハワイ合氣會に届いた。植芝先生は和歌山縣田邊市に生れた、生來武道好きであつたので起倒流柔術をはじめ、柳生流、合生流、寶藏院流等よい先生があればその門をたゞき、最後に大東流を學んだ。

あるいは日露戦争に志願して實戦に自らの力を試し、あるいは開拓民の長となつて北海道に活躍した、その間、一日として武道は脳裡を去らず、遂に木劍一本を以て全國を行脚したりした。

長い修業と心身を掛けての努力の結果、遂に大自然の眞の心を身を以て體驗したのである、そして「眞の武道とは、争はずして宇宙の氣をととのえ、世界の平和を守り、森羅萬象を正しく生み出し、あるべきところにあらしめて守り育てることである、したがつて武道の修業は、相手を倒すことではなく、神の心を心身の中で鍛練することである」と先生は、言はれるのである。

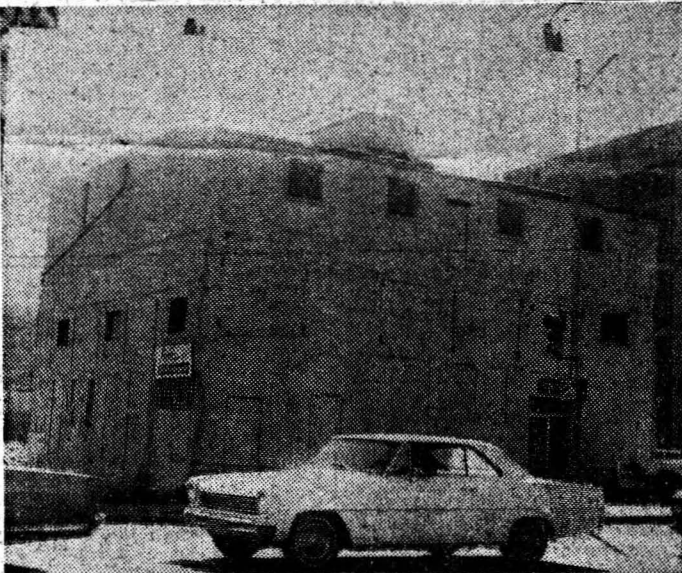
苦心し、現在の合氣道を創設するに至つたのである。ハワイに合氣道が最初に紹介されたのは一九五三年の三月である、植芝盛平先生の命により、現、合氣道十段、本部師範部長藤平光一先生が來布され、合氣道の普及につとめられた。

一九六一年三月にはハワイ合氣會本部道場が、新築落成、植芝盛平先生は藤平先生を供につれて來布され、道場開きの式が盛大に舉行された。

合氣道は益々發展の一路をたどり、現在ハワイ全島に三十のハワイ合氣會所屬の道場があり、合氣道の修業にはげんでいる、ちなみに植芝盛平先生の追悼告別式は来る五月四日(サンデー)午後二時、ワイアラエ街三二二四ホテル合氣道場で行はれる。寫眞は在りし日の植芝先生。

爾後その精神を如何に體に表はし、技にあらはすかにある。

ペンタニア街の 飯田翠山堂立退く



六十一年の長い間、ペンタニア街角で贈答用品の店として内外人間で親しまれてきた、日系人経営屈指の老舗飯田翠山堂は、クイ開發の余波を受け市郡政府より強制的に立退きを命ぜられ取り壊すことになつたので、在庫品一切を一昨日曜から五月三日(土)まで特別割引大セールを行つてゐる。

日本から直輸入した瀬戸もの、漆器類、かけ軸、花瓶、家庭用品一切をダウンタウンの飯田翠山堂、又イイダス・アラモアナ及びアラモアナ・センターのイイダス・アラモアナの三店合同で原價を切つての大特賣、尙ギフト・フロム・イイダスでは絹地、日本紙の屏風を大特價で賣り拂つてゐる。

懸案の日系婦人 統一團體結成

「馬哇日本文化クラブ」(馬哇支局)先般來より本島に於ける日系婦人を中心としたる婦人團體編成の運動が始められた事は所報の通りであるが、愈々それが具體化し四月廿九日午後七時よりワイルタの馬哇ポイン・スカウト隊本部ビルにて會合し、種々協議の結果馬哇日本文化クラブと名稱して發足する事に決定し、直ちに役員を選定に移り選挙の結果、初代役員として次の諸婦人が挙げられた。

- 役員の陣容
- 會長 伊積 滋子
 - 副第一 植岡ユキエ
 - 副第二 パウセー木下
 - 日語書記 松本 静子
 - 英語書記 ジェン中村
 - 會計 東福寺アヤチ
 - 副 査 蕨 若松
 - 副 査 柏 アツ子
 - 副 査 早瀬 夏代
 - 副 査 安井 松乃
 - 顧問 大畑ドクトル夫人
 - 前原 ヨシ 梨羽クレイ
 - 加藤 コシ 古生フサヨ
 - 新保 環 渡部 文子
- 以下略
- なお、同會では来る五月廿七日にカフルイのコミュニティー大大学のクラス・ルームにて、發會式をあげる豫定を以て準備交渉に着手する事になつた。

下町の飯田翠山堂には店の前と横に充分パーキングが出来るのでその點便利である。

因に飯田翠山堂のオフィス兼倉庫はカカアコのコーラル街三三九アウアヒ街角で、来る五月十五日から營業を開始すべく目下その準備が進められてゐる。

(寫眞は近く取り壊されることになつた下町の飯田翠山堂)

May 1 1969



散髪ハナハナ・ハウス

地所貸すマイカイ

布哇島コナ 河原清作

昔、我が約移民が初めて日本から来たのが、明治十八年（西暦千八百八十五年）で今年が七十一年目、其後明治二十七年、八年日清戦争の時、其間が途切れ、其後は二十九年から官約移民がなくなつて移民會社の出来、當市哇の耕主組合との間に結ばれた契約移民時代でありました、所が三十年の五月此の契約移民がなくなり、其後は自由自費の移民時代となりました此の四方山話は其頃オアフ島ワイパフ耕地に新潟縣人で阿部某と云う眞面目で實直な模範労働者が居りました

支那人や農場監督、大ルナからも信用が厚かつたので仕事は水理員で水源地から灌漑地までの見廻り役たる大デツチメンでした此の人は仲々の親切なる方

で、パウハナから友人や近所の人々は無料で散髪をして上げて居りましたが、段々と上手になり、理髪店を思ひ立ちました

就いては第一番に大ルナの許可を得べく、ある朝大ルナが仕事場に来るのを待つて居りました、大ルナは獨逸人でパリンと云う人、馬を走らして来たので、阿部さんは口をモググといわせて「グード・モーネン ミスター・パリン」と云えば、先方もグード・モーネンと云ひました

阿部さん曰く「ミト、サンデー、ホノルル・ゴー、パバ、ハツパイ散髪ハナハナ、ハウス造る地所貸すマイカイ」と云つた

大ルナは一向不可解で不得要領であつたが、自分の役目を急ぐのでオーライと返事して行き去つた

阿部さんは来るサンデー、ホノルルでババ類を買ひ歸りて早速散髪所を建てました

ある日大ルナはこれを見て歸り、事務所に歸つて、日本人の通譯に向つて、阿部は何か建てたが誰の許可を得たか、彼を呼んで聞き質すべく、聽て阿部さんがオフェイスにやつて来た

通譯が大ルナの面前で「阿部さん、あの建物は誰の許可ですか」との質問し、それに答えて「ミスター・パリンがオーライと云われたからです」

すると向う側に居つた大ルナが笑顔で「そんなら阿部お前が以前に言つた通り話して見よ」とのこと、阿部さんは再びオフェイスの連中の面前で申上げて曰く「ミト、サンデー、ホノルル、ゴー、パ

山岳博士志賀先生とハレアカラ登山

三保老生

それは一九一四年（大正三年）の八月だつたと思う、山岳博士として日本一の有名者であつた志賀先生のお伴をして吾等のハレアカラに登つたのは

既に四十六年も昔のことであるが、幸にしてあの當時の記念寫眞を見出したので、當時の思い出を書いて見たいと思う

志賀先生は羽川と號しホノルル金曜會の招聘で一九一二年の六月に布哇にお出でになり、連續七回の大講演會で、在留民に多大の感銘を残して一應日本へ歸朝、今度はシカゴ大學の招聘で翌々年の一四年に二度目の布哇訪問で、馬哇島のハレアカラ火山にも登りたいと

のことで、當時東部馬哇の有力者であつたパイア耕地の日本人監督桑原重太郎氏を指してお出でになつたものと思ふ

桑原家では早速出入りの人々を招いて山海の珍味(?)を盛えて歓迎の宴を開き、その夕方オランダ迄は自動車で行き、其所からランチの有住愛吉氏を案内として一同乗馬で登山したのだつたが、同行者は自分と昨年亡くなつた國重武一氏とは記憶しているが、他の人々は判明しない

兎も角志賀先生から日本各地の山々、中にも旅順の戦蹟、乃木將軍やステッセル大將のことなどについて耳新しいお話を聞き、先生の

乗馬姿の話題にお上手でなかつたことなどが記憶にあるが、その他のことは判然としなれないが残念だ

その後志賀先生がホノルルに歸り、相賀氏邸に一時を留して行かれたことも知り、さてはそれ程までにあつたのかと今更の如く有難く感じたのである

念のため志賀先生の詩を意譯して書いて見ようか

馬を太平洋の中央に立つ海抜一萬三十二尺、全島波に浸し玉兎走る、南は大空低く、兩手で掴むべく、夜は岩窟に投じて天明を待つ、下方の入日噴火の如く赤し

嗟自分は生れて五十一年始めて平生の癖である山岳の美に飽く、詩は拙なるも實地實際一言の虚辭もなし

志賀先生はそれから日本へ歸り、布哇の各地で蒐集された種々の標本、繪畫、土

8173 1960

器、石器の類を帝國ホテルに陳列して記念の展覽會を開き、朝野の好評を受けられた由である。

寫眞は志賀先生を迎えての記念撮影で、當市スペインサ一街九六二桑原徳一氏（桑原重太郎氏の養子）所藏

- (一) 宗岡、パイア校、教員
- (二) 濱村松一夫人(三) 桑原重太郎翁(四) 志賀先生(五) 福田牧師(六) 石田ケアア校長(七) 伊藤郵便局員(八) 呼寄美人花嫁(九) 辻パイア校長(十) 圓山ハマクアポコ教員(十一) 西村ハマクアポコ校長(十二) 三保布哇新報員、

- (十三) 國重大ゴツタ(十四) 倉本老夫人(十五) 奥

瀧青年の諸氏で、以上十五人のうち現存するのは奥瀧

三保、濱村の三氏と思われ

日本人商工会議所

今年度役員選定

Jan 22 1963

會頭には佐藤洋一氏



ホノルル日本人商工会議所は昨夜一九六三年度總會を開いたが、香川武雄會頭の挨拶、西本毅書記の事務報告、出雲會委員長の新會員紹介、加藤青年商工副會頭の報告あつて後田川光雄役員推薦委員長の報告に從つて、新役員を選挙を行つて、次の諸氏が選定された

- 會頭 佐藤洋一
- 第一副會頭 村重甚之
- 第二副會頭 住田慎三郎
- 第三副會頭 西本毅
- 書記 福永讓二
- 監査 藤川敬三
- 河野秀雄 迫田正男

また理事は次の二十八氏に決定した

- 安達正倅 古屋熊式
- 後藤健治 羽田野林三郎
- 本田親人 堀田繁
- 石井一夫 磯島武夫
- 伊藤幸一 西本育麿
- 野添勝藏 岡崎久朗
- 神永幸三 佐々木久
- 島會國男 田川光雄
- 時岡政幸 辻川一齊
- 山本英雄 山根隆男
- 山内勝 山内隆男
- 寫眞は新役員：左から
- 前列：西本、村重、香川
- (前會頭) 佐藤、住田
- 後列：古川、福永、藤川
- 迫田の諸氏(本社撮影)

新しい犬取締法 昨日から實施

Jan 22 1963

ツラブルは殆んどない

ホノルル市郡政府の新しい犬取締法は昨日から實施となつたが、人々は新法律をよく理解していると思へ、戸外を歩き廻つてゐる犬は見當らなかつた、ただ二三の抗議が動物愛護局へ入つたばかりである、同局では犬の飼主に注意を與えただけであつた、しかし再び違法行為があると罰金を課せられることになる

アラ・モアナセンター 総支配人に西本氏昇進

Jan 22 1963



一九五六年以來デリングハム會社のハワイ土地會社に勤務して來た西本氏はハワイ島生れで、ドレク大學法科出身 (寫眞はイガーン西本)

(14)

バーンス知事

彼の内閣にも三日系任命



バーンス知事は、先週二つの新しい内閣ポストの任命を発表したが、二人とも、ハワイの行政史上に或る種の意義ある一頁を記録したこれで、十三の内閣ポストの州局長の地位のうち、十二名まで任命済みということになった譯であるが、知事は残る一局「企業局を經濟開發局に吸収合併するよう州會に提案するだろうと傳えられているので、もしこれが事實となれば、バーンス氏の内閣組織は殆ど完了したことになる。

まず財政局（財務法規管理局）長に任命されたサンドニ橋本一郎氏はバーンス内

は大變古いが、州行政の最高レベルにハワイ日系人が進出するようになったのは戦後のことで、むしろ殆ど最近の姿であると言わなければならない。バーンス知事が、ハワイ民主黨委員長時代に、同氏の推薦で、當時の縣知事（一九五一年—一九五三年）であったオーレン・E・ロング氏（民主黨）が高橋榮現州會上議を縣財務局長に渡邊道雄氏（音譯）を縣検事總長に任命したのが、日系人がハワイ縣知事の内閣ポストに就いた最初のことであつた。



閉のポストに就いたバート小林孝明検事總長及び、松田富士男運輸局長に次いで第三番目の日系人であり労働・産業關係局長に就任したアルフレド・ローレタ氏は、内閣メンバーに選ばれた最初の比島系人である日本人のハワイ來住の歴史

またバーンス知事が、代議士時代に、ダニエル青木俊道氏（音譯）を行政補佐官に、平井清一氏（音譯）を調査補佐官に、伊佐ナカ子嬢を秘書に任命するなど、五人の日系人を採用したがこれがワシントンの中央政界に關係する代議士事務所で働いた最初のハワイ日系人であつた。

青木行政補佐官及び伊佐秘

書は引續き、掘尾報追秘書官、和田原行政事務員（音譯）及び加藤事務員などの日系人とともにバーンス知事のオフィスで働いている。また州政の高いレベルにある最も若い行政官であり、且つ日系婦人辯護士兼公認經理士（CPA）のリリー岡本夫人は會計検査局長という要職に就いている。

とにかく行政府で三人の日系人が、内閣ポストの局長に就任したのは、ハワイ行政史上最初のことであるがすでに任命された十二ポストの中で占める割合は二五%に過ぎず、立法府で州會定員七十六議席のうち、ちようど半數（五〇%）に當る三十八議席が日系議員によつて占有されているのと比較すると、行政府えの日系人進出はむしろ遅々としたものである。

Jan 22 1963

日本人商工會議所

今年度役員選定

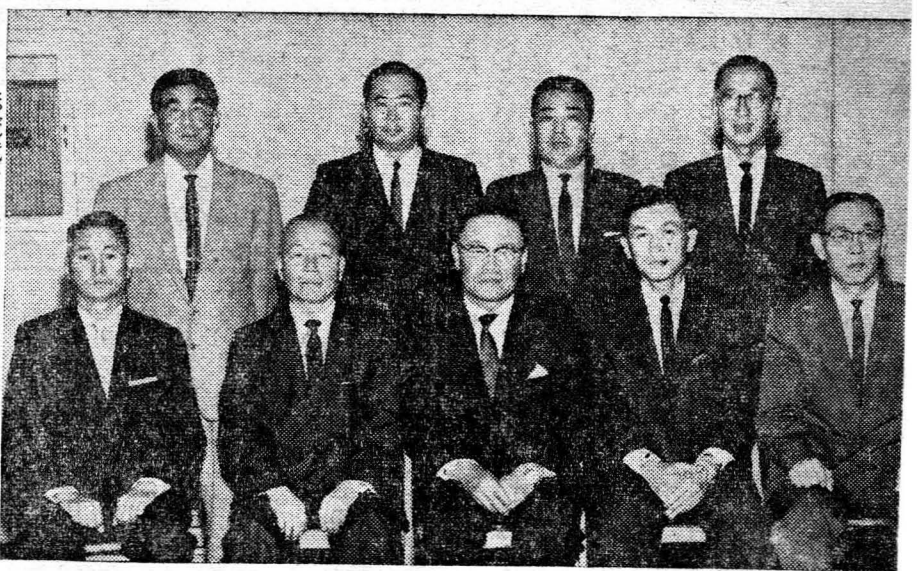
會頭には佐藤洋一氏

ホノルル日本人商工會議所は昨夜一九六三年度總會を開いたが、香川武雄會頭の挨拶、西本毅書記の事務報告、種本輝夫會計の會計報告、出雲會委員長の報告、加藤青年商工副會長の報告、C加藤青年商工副會長の報告があつて後田川光會頭の報告もあつた。

役員推薦委員長の報告に從つて、新役員を選挙を行

い、次の諸氏が選定された。

會頭 佐藤洋一
第一副會頭 村重甚之
第二副會頭 住田慎三郎
第三副會頭 西本毅
會計 古川讓二



また理事は次の二十八氏に決定した。

河野 秀雄 藤川 敬三
安達 正倅 古屋 熊式
後藤健治 羽田野林三郎
本田 親人 堀田 繁
石井 一夫 磯島 武夫
伊藤 幸一 西本 育慶
野添 勝藏 岡崎 久朗
神永 國男 田川 光雄
島岡 政幸 辻川 齊
時岡 英雄 山根 隆男
山本 英勝 山内 一雄
山河 英勝 山内 隆男
寫眞は新役員：左から
（前會頭）西本、村重、香川
（前會頭）佐藤、住田、古川
後列：古川、福永、藤川
追田の諸氏（本社撮影）

新人物地帯

大擴張工事期成の

重任を負う

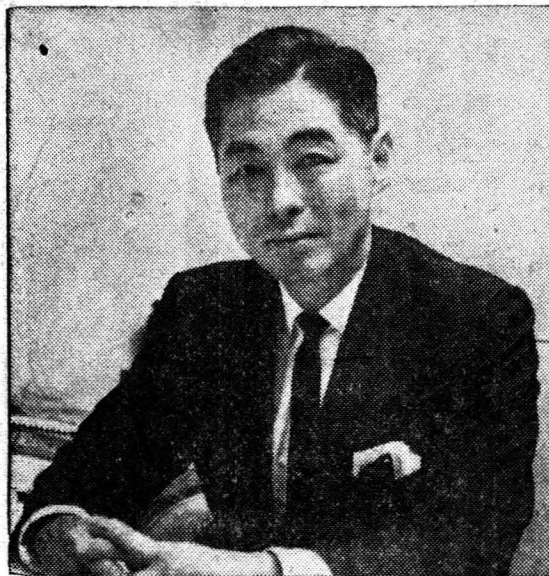
河野秀雄氏

Nov 26 1961

クアキニ病院新理事長河野秀雄氏

えは、誰でもすぐクアキニ病院と名をすその病院理事長にこの程河野秀雄氏が就任した

ハワイの三大総合病院の一つクアキニ病院は年毎に充實され、第一級病院としての陳容はすつかりとものつている、六十五年前日系人慈善會の後押しで設立され、二十世紀の暮あけと共に設立され、現在では近代設備と優秀な看護施設をもつた西ホノルル第一の偉容を誇っている、一九一四年に約一萬弗で買ったクアキニ病院だが敷地が見事な成長をして今では四、五一九五〇〇弗にもなっている、四五〇〇倍になったわけだ、小さな出發からここまで進



展して行くには、クアキニ病院長は勿論であるが、同時に歴代理事長のひとかたならぬ努力と手腕がものをいつてきていて、理事長という立場は、病院を一流にするか二流にするかの鍵をにぎっているといつても決して過言ではない、つまり

飛ぶかおちるかをきめる病院経済の切りまわし一さいが理事長の責任となつてどつしり河野氏の上にかかつて

「病院経営には、中庸がない、第一級にするか、それともやめてしまふか、そんな覺悟でやっています」自動車はパーク出来るが、飛行機は飛べなくなるとおちてしまふ、病院とはそんなものらしい、激しい時代の變化に一足先んじて進むと共に一般保険制度や老人醫療法案などで社會保障が

飛ぶかおちるかをきめる病院経済の切りまわし一さいが理事長の責任となつてどつしり河野氏の上にかかつて

「病院経営には、中庸がない、第一級にするか、それともやめてしまふか、そんな覺悟でやっています」自動車はパーク出来るが、飛行機は飛べなくなるとおちてしまふ、病院とはそんなものらしい、激しい時代の變化に一足先んじて進むと共に一般保険制度や老人醫療法案などで社會保障が

あつたかもしれない、しかし日系人が一致團結して支援してきた努力が實のつたことは誰も認めるところである

河野秀雄理事長は、河野證券の社長で、誰でも加入出来ない太平洋沿岸證券取引所の會員となつている、だからファイナンスにかければベテランだし、基金募集が仕事の一である理事長の椅子には適材である

それでも病院の経営は經濟問題だけでよくなるものじゃないと注意をうながす

「その點クアキニ病院は、設備が立派だし看護施設も行きとどいていて、何よりも特徴として認められているのは患者に對するパーソナルタッチだ、これは病院がどんなに大きくなつても失いたくない」と河野氏は語る

設備がよいと一流の醫者が集まる、そして社會は看護の萬全を要求する、しかし生きるか死ぬるかの患者は、設備と醫者と看護婦ブラス、温かみのある個人的な接觸が何よりも治療となる、一人一人に行届いた面倒をみることはほど大切なことは、河野理事長はこんなクアキニ病院の良さを心から喜んでゐる風であつた、クアキニ病院も次第に日系の日系の...という時代がなくなつてくるだろうすでに三割、四割他人種が入つてきている、更に大きく飛躍するためにも日系先輩が祈りをもつて建設した

クアキニ病院を力をあわせて支持したいものだ

河野秀雄氏と睦子夫人との間には二男一女があつてそれぞれ大學高校で勉學中である

寫眞は河野クアキニ病院理事長

ハワイの叙勳者発表

勳五等瑞寶章

橋本 万植氏



勳五等瑞寶章

佐藤 太一氏



勳五等瑞寶章

河本 勝一氏



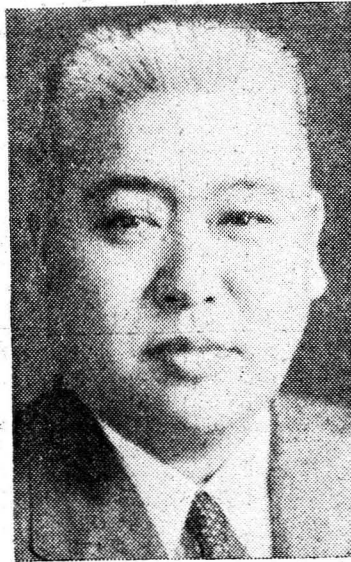
藍綬褒章

上杉 等氏



藍綬褒章

阿部 三次氏



勳五等瑞寶章

辻 徳市氏



勳五等瑞寶章
辻 徳市氏

河本、佐藤、橋本、辻四氏に

勳五等瑞寶章贈らる

阿部、上杉兩氏には藍綬褒章を

十一月三日、菊花賞の文化の日を以て、日本政府は、二千七百九十一人の叙勳、賜賞者を発表したが、その中、ハワイに在留日本人一河本勝一、佐藤太一、橋本萬植、歸化市民辻徳市の四氏には勳五等瑞寶章を、また阿部三次、上杉等兩氏には藍綬褒章がそれぞれ贈られたことが明らかとなった。この度、叙勳、褒章の榮譽に浴した人々の賞賜、功績概要、主要経歴氏名、本籍、現住所は左の如くである。

勳五等瑞寶章 河本勝一 (八五)

本籍 山口縣
現住所 米國ハワイ州ホノルル市十一番街九四三
経歴 現山口縣人會會長、元布哇日系人連合協會會長
功績 ハワイ邦字新聞界および在留同胞の社會的發展と福祉増進に盡した

勳五等瑞寶章 佐藤太一 (七十九)

本籍 山口縣
現住所 米國ハワイ州ホノルル市クエネ街二四五

勳五等瑞寶章 橋本萬植 (八一)

本籍 山口縣
現住所 米國ハワイ州ホノルル市クエネ街二四五

勳五等瑞寶章 辻徳市 (八十五)

本籍 山口縣
現住所 米國ハワイ州ホノルル市クエネ街二四五

藍綬褒章 上杉 等

本籍 廣島縣豊田郡河内村
現住所 リリハ街二六
経歴 ヒロバ願寺學園を振り出しにカカアコ地方學園まで五十八年間の教員生活

藍綬褒章 阿部三次

本籍 布哇島コナ出生
現住所 ホノルル市ギニリツツ街二二二
経歴 ヒロ警察署副署長、布哇縣會初の日系上院議員

また公報はないが 傳達式は十日頃に

ハワイ叙勳者の發表につきけさ猪名川總領事に電話したところ「まだ日本政府から公報に接していないので何とも申し上げられぬ、しかし昨年

光榮は皆様のお蔭 在布六十八年の河本さん

今度叙勳の光榮に浴した河本勝一氏は最近日本訪問から歸布したばかり、カイクキ第十一番街九四三の自宅に電話すると「思いがけない光榮に浴しましたが、これは私の力ではなく皆様のおかげだと衷心感謝しています、今後も皆様のキビに附して益々、社務公共のため微力をいたし以て皇恩の萬分の一にも酬いたいと念願しています」と語った

河本さんは山口縣岩國市通津の出身、十七歳の時、志しを立てて來布、布哇在住六十八年の大部分は布哇で暮らした。その感激は大きい。

先輩の指導の賜物 趣味生活没頭の佐藤さん

「まだ總領事館からは通知がありません、私としては全く豫期しない破格の光榮であります、誠に有難いことです、私自身はとるに足らぬつまらぬもので、今回の光榮は、先輩諸氏から受けた指導の賜物であり、他方一般皆様の御協力、援助があつたためです、私は長生きしたばかりに今回の光榮に浴しましたが、一緒に働いた人で早く死亡したために、ごうした光榮に浴さない人達のことを、頭に浮びその冥福を祈るや切であります」とけさマイレ・ウエー二二三四の自宅でその感激を吐露する佐藤太一さんである、氏は山口縣下松市花崗の産、布哇在住六十年、その間日本人慈善會、

日本人病院、養老院の建設につくす外、布哇教育、布哇中央學院、商業組合、日本人商工の諸役員をつとめて來た、健康を害したため七十歳の時佐藤クローデアは今息運に譲つて引退、その老後を好きな園芸、読曲、茶道などの趣味生活に没頭して、寸暇もない昨今の佐藤さんの自畫像である

2011/02/28 9:00 AM
100

2011/02/28 9:00 AM
100

2011/02/28
9:00 AM

2011/02/28 9:00 AM

2011/02/28 9:00 AM
2011/02/28 9:00 AM
2011/02/28 9:00 AM

2011/02/28 9:00 AM
2011/02/28 9:00 AM

2011/02/28 9:00 AM
2011/02/28 9:00 AM

1969
1897
72

1969
1897
72
2011/02/28 9:00 AM

六八年度の會頭に

河野秀雄氏就任

昨夜役員、常議員を選出

Dec 1 1967



河野秀雄氏
常議員に就任
昨夜役員、常議員を選出

工 商 日 本 会

工 商 日 本 会
の 定 期 総 会
が 昨 夕 六 時
半 以 前 同 議 所
ホ ー ル で 催 さ れ
た が、主 行 事 と し
て 一 九 六 八 年 度 の 新 役 員 と
常 議 員 が 選 出 さ れ た。

河野秀雄氏が新任役員と常議員に選出された。河野氏は、銀行のラリー・ランソン氏（市場部長）が、大人の非行化問題と題してスピーチを行った。フレッド・I田村氏の司會のもとに會議は次の通り進められた。

一、開會の言葉、西本會頭
二、次の優秀會員が紹介さ
れた

△第二十二回日本全國々民
體育大會へ招待された古生
正男氏

△ホノルル貯蓄貸付協會カ
パブル支店長に榮轉した作
右月氏

△クアキニ病院理事長に任
命されたハリ・M田川氏
△商議所活動報告、ウイ
リアムJ辻氏、△會計報告
ギヤレットS外田氏、△新
會員紹介、古生正男氏、△
新役員候補者発表、三保
克朗氏

投票の結果、一九六八年度新
役員は次の通り決定された

會 頭 河野 秀雄
副 會 頭 ジョージ福永
第二副 ワイリアムH辻
第三副 橋本 輝夫
會 記 ロバートM嘉屋
會 計 ギヤレットS外田
監 査 ジョームスK藤川
 ジョンI西本

なお飛入り余興としてシテ
イ・パンクのジャック若山
氏の漫談があつた

寫眞は左から（前列）福
本、西本（會頭）、河野
辻、（後列）赤嶺、藤川
橋本、西本育蔵の諸氏

大人の責任

ラリー・ランソン氏のスピ
ーチの要旨「子供の非行化
は親にその責任の大半があ

川崎寅雄氏の叙勳祝賀會 ハワイ協會で開催

1967
Nov-25
Nov-25
1967

「子供を責める前に先づ
親自身を反省する必要があ
る、子供というものは親に
對して絶対的な尊敬を持つ
てゐるもので、子供の親に
對するこの絶対的な信用を
裏切つてはならない、子供
が何か悪事あるいは失敗を
した時、親は、何故そんな
ことをしたのか」と質問を
するが、この様な質問をす
ること自體親は子供の日常
生活に對し關心を抱いてい
ない浮左である、親は子供
との間に密接な話し合ひの
場を作らねばならないの
又私が皆さんにお聞きした
いことは、商議所の會合に
出席していつも感じるごと
く、出席者に若い年代層が
實に少いことである、これ
は若い年代の人々にとつて
も興味ある話題と、議題を
我々が提供し得ないことが
原因ではなからうか」

「ハワイ・タイムズ東京支
社」日本ハワイ協會では、
今回の生存者叙勳で授勳し
た川崎寅雄理事を主賓に、
叙勳記念祝賀會を、十一月
十八日（土）午後一時、東
京八重洲口のレストラン
ト・ハワイで開催した
参加する者、濱田音四郎會
長以下およそ二十五名、今
は先ず川崎寅雄氏と最もゆ
かりの深い小澤武雄理事が
川崎氏の日本外交に對する
功績と逸話を紹介、次いで
増田友吉理事から協會より
の記念品を贈呈した
川崎氏はレイを首にかけて
終始微笑をたたえ、英語と
日本語を混ぜたユーモアた

つぶりの演説を試みて、謝
辭を述べた
會は、重食のあとも賑やか
に續けられ、午後三時すぎ
散會した
なお、この會は、茶菓のあ
とは、理事會に切り替えら
れ、豊壽園温泉病院の紹介
永井海苔の説明、明年六月
十二日羽田發の移民百年祭
ハワイ旅行の計畫説明など
があり、活發な意見が交換
された

△川崎寅雄氏は十一月三日
勳三等瑞寶章授與の發表に
接し、勳記と勳章を受けた
のち、十三日に天皇陛下に
拜謁した、功勞としては海
外との交渉、とくに日米親
善に對する功績を認められ
たものである

寫眞はレイをかけている
のが川崎氏、その左が濱
田理事長

1941
11/11



今年の歸化市民に

表彰される時岡氏

Sept 13
1968



市民デー

来る九月十七日(火)市民デーに、二つの式典が催されるが、同夜イリカイ・ホテルにおける市民デー式典に、

事同日夜、イリカイ・ホテルにおいて二三〇名の新しく市民になった人々に歸化証明書を授与する豫定である。時岡社長と同時に今年の市民として表彰されるのは、ライフ・パークのテラー・プライヤ氏である。時岡氏は一八九七年五月二日日本で生まれ、一九〇九年来布、小學校からマツキンレー高校を一九二一年卒業後ハワイ大に進んで一九二五年B.A.學位を獲得した。尚勉學の意に燃える時岡社長はハーバード大に留學し、一九二七年ハワイから日本人として始めて修士號を同大から獲得した。

時岡氏はハワイ島ハマクア地方の耕地支配人をふりだしに牛乳業にも關係、現在

ナショナル金融會社、ナショナル投資證券會社、アイランド保險、トレッドワイン保險、各會社並びに國際インターナショナル貯蓄附協會の社長、更にサンフランシスコの日本文化貿易センター開發會社、サンフランブルーマー會社の社長でもある。社會面ではライオンズクラブ、ホノルル日本人商工會議所、マキキ聖城教會の會員である、またクアキニ病院理事長をつとめたこともある。現在ハワイ州従業員退職制度の顧問である。時岡氏の外に歸化市民として選ばれたのは下村文治、富山哲夫、パロン後藤、足立正伴、松井登太良、金城善助、バツク・フング・ウオング、ノバト・ピラヌエバ諸氏がいる。

(賞眞は時岡政幸氏)

創立五十年迎へた 木曜午餐會

十月三日に祝賀の催し

Sept 21
1968

一九一六年四月から一九一八年八月まで、ホノルル總領事として在勤中、閑さなれば同好者を引率してタララスタス登山を試みたり、官邸裏を流れるヌアヌ川の岩石の苔をタワンで洗い落したり、異色總領事の一

人として忘れられない、故諸井六郎氏が現在のヌアヌYMCA木曜午餐會の生みの親であつたことを知る人は多くないでしょう。木曜午餐會は諸井總領事の發議に加えて、毛利伊賀、原田助、奥村多喜衛、相賀

安太郎(何れも故人)ほか數名の先輩有志の賛同を得て一九一八年九月十九日フォートとベニヤード街角の(現在ロング・ストア)ヌアヌYMCAにて發會式をあげたのであります。以來、星霜茲に五十年、その間毎週木曜に集會午餐會を共にし、ローカルの方々や寄港名士を招待しては講話を依頼、これによつて相互の親しみと智徳啓發の上に

景勝キパフル方面 自然美の保存

米人富豪から私有地寄贈

Sept 25
1968

大なる貢獻をなして来たことは、同胞社會の認めるところであり、先頃物故された古生美男校長など常に「木曜午餐會は私の學校です」と會う人ごとに推賞され、會のために多大の盡力を惜しまなかつたほどであります。

月日のたつのは早いもので、木曜午餐會も去る九月十九日を以て滿五十年を迎えたことになつたので古參關係者や會員諸氏の御來會を仰ぎ、向日頃何かと御盡力下さる報道機關の方々をお招きして、祝意を表し今後ますます本會使命の達成に邁進したたく思ふのであります。

向これを機會として一般諸氏の入會を歓迎します、本會には面倒な規約も何もなく、男女を問わず木曜日にヌアヌの午餐會に出席されれば會員の資格が得られます、五十周年祝賀の場所及び時日左の通りです。御來會下さい。

(馬哇支局)馬哇島の仙境キパフル地方の自然美がハワイ漫遊客稱讚の聲が廣まつて、ハナよりキパフル方面への訪問觀光客も昨今繁くなり道路改善の問題等が台頭し特に同地方自然美の保存と觀光地としての公共施設などが論議されているが先般來米大陸の有名人士が實地視察の爲來訪し、その中でロックアエラ財團のローレンス・ロックアエラ氏秘書ジョン・ポイエ氏の外、アロター・ゴドアルン氏、チャール・リンドバーグ氏、ジャン・ル・マント・ハヤルス氏、エール・ペーカ氏、ハミルトン・マコフィ夫妻一行の來島となつて話題となつているが既にロックアエラ氏はキパフル地方布哇傳説の秘境七池を含め五十八エーカーの土地を買収し追つて布哇自然保存會に

寄贈の旨發表し更にハミルトン・マコフィ夫妻も買収した廣い土地寄贈の申出があつた旨報じている。なおキパフルには布哇日本人移民の先驅者石井仙太郎翁の墓碑があり、百年祭馬哇實行委員會の記念事業として建立されたものである。

△時日十月三日(木)正午十二時
△會費キヤフエチリヤ式ですから隨意キヤツシヤに拂つて下さい

新時代の美業家

時岡政幸氏の横顔

aug 1960

時岡政幸氏は布哇に於ける新進美業家中、特色あるエキザンブルである。氏は幼少の頃より奥村牧師の訓陶を受けクリスチャン精神を吹き込まれて成長して来た紳士であり新時代に於ける指導的実業家として尊敬されてゐる。

時岡氏は岡山県瀬戸町に生れたレッキとした一世、と二世の中間的存在である。彼の一門からは文務大臣をやつた小松原英太郎氏が出てゐる家柄なのである。少年時は日本で育ち十一才の時に親の呼寄せで来布したマツキンレーを経てハーバード大學を卒業してゐるが、自らを「愚マイ」と云ふほど身なり等として気にかけない。彼は、どちらかと云へば野暮つたい程性格は地味、學校を出てからは

直ちにその頃住友と所謂ビッグ5の合資会社だつたク国際信託に入社、その後現在のナショナル・モーゲージ支配人と云ふ地位に至るまで一貫した生抜きの金融メンで、それだけに実業家としての信念とエネルギッシュな性格を符合はせてゐる。酒も煙草もやらぬ彼はシヤバツ気とか俗気と云つたものではなく、つまり品行方正にして敬ケンなクリスチヤンだが、それでゐて聖者くさくはない。云々と阪本登美男君はハワイ人物論に評してゐる。

彼が日商工会頭時代、皇太子様を日本人として送り迎えたかつたため帰化を遅らせたと云ふ秘められた話もある。現在の池田総理大臣とは会頭時代より親

密な友好関係にある。彼は三越ビルを七階建てに改造し米大陸まで飛躍発展の計画を立てゝゐる。趣味はゴルフ、外に夫人と仲良くカイガラをコツコツ集めてゐる。夫人との間に二男一女を挙げ、長男幸雄君はケイアン大学卒業後父の会社に入り目下店務に精進し、二男誠君は桑港で勤務、長女光子さんは四村猷氏に嫁して一子を挙げて幸福な家庭生活を営んでゐる。

新聞雑誌記者物語り

「一九三五年前の追憶」

June 1961

△ホノルルの日本人社会には大小長短取り混ぜて四大新聞と三雑誌？がある。曰く布哇報知、日布時事、布哇新報、日曜タイムスと商業時報それに「更生」及び本誌等々で誠に盛んである社長級は相賀安太郎、牧野金三郎、曾川政男、坂口利男、土屋精一、天野勝一の諸氏がそれだ。

△主筆並に編輯長格では、寺崎定助、河村啓太郎、浅海庄一、曾川政男、坂口利男、土屋精一、早川次郎(更生社) 諸氏と記者には

と仲良くカイガラをコツコツ集めてゐる。夫人との間に二男一女を挙げ、長男幸雄君はケイアン大学卒業後父の会社に入り目下店務に精進し、二男誠君は桑港で勤務、長女光子さんは四村猷氏に嫁して一子を挙げて幸福な家庭生活を営んでゐる。

日布に中村、ヒル谷、川添河村、山本、湧川、豊平、三隅、田丸、報知には浦田後藤、本田、内田、今井、藤川、津島の諸君と曾川、坂口、長岡諸君で陣容実に堂々と辺を払ふの観がある△そこで近々此等言論界の名士を網羅して料亭で一大懇親会を開き、天下国家を論じては如何との議がある發起人は相賀、牧野の先輩を煩はすいとは恐縮だから先づ新進気鋭の坂口タイムス社長、曾川新報社長、天野更生社長等が發起となりそれに記者連中を打つて一団としたらすこぶる面白いだらうと云ふ話だ。

△当夜の会費は時節柄一弗の軍部人事論、河村記者の家庭講和とラヂオ放送論、中村招月記者のゴルフ哲学後藤記者の雄辯術、川添記者の邦文速記学論、本田記者の電車日誌と女性哲学、山本尚美記者の新婚の初夜と其後の心理、浦田記者のスポーツ心理、ヒル谷記者の港外三哩沖と内外名士論内田記者の校長実談、豊平記者の産業経済論、津島記者の現代女性観、田丸記者のスポーツと恋愛の関係藤川記者の新婚より愛児への父性論、湧川記者のマルクス論、今井記者の広告勸誘哲学、長岡記者の帰化米人論等々で実に多士済々である。

△来賓を招待するかどうかは衆議に一任し若し招待するとしたら、知事、市長、総領事、陸海軍司令官、上下両院議員、各商業団体、料理屋の女将等々の顔触も悪くはない。懇親大会の宣言文はエチオピヤ王に対する激励文とイタリー首相に対する訓戒文を議決して打電するのも無益ではあるまい。

(一九五五年八月 実業之布哇より)

外国人百九十人に 明治百年記念叙勳

ハワイ関係者 野田、村重氏ら五人

第一次発表

東京（共同）二十三日發政府は、さきに明治百年を記念して外国人百九十人の叙勳を決定したが、このうち六十一人が二十三日（日本時間）付けて第一次発表された。このうち米国人は五十七人で、ハワイ州からはグレッグ・マナス・シンクレア氏（勲二等瑞寶章）、フランク・エルバート・ミドキツフ氏（勲二等瑞寶章）、ウィリアム・ハーデー・ヒル氏（勲三等瑞寶章）、野田儀角氏（勲五等旭日章）、儀角氏（勲五等旭日章）、村重甚之氏（勲五等瑞寶章）の五氏が叙勳の榮に浴した。

▽同 フランク・エルバート・ミドキツフ（八十歳、ホノルル市マアパリ・ドライブ四一五）日本人社会、向上、展に盡力した功績

▽勲三等瑞寶章 ウィリアム・ハーデー・ヒル（七八歳、ハワイ郡ヒロ市ケオケア・ループ街）日系人社会の向上、展に盡力した功績

▽勲五等旭日章 野田 儀角（七八歳、ホノルル市マカナニ・ドライブ二三八九）日系人社会の向上、展に盡力した功績

▽勲五等瑞寶章 村重 甚之（七三歳、ホノルル市キラウニア街三五〇）日系人社会の向上、展に盡力した功績

▽勲二等瑞寶章 グレッグ・マナス・シンクレア氏（七八歳、ホノルル市リン・ドライブ三八一）日本文化の紹介に盡力した功績



一八九〇年カナダのオンタリオ生まれ、ミネソタ大、コロンビア大卒、一九二一年から一九一五年までと一九二二年から一九二六年まで慶應大学など日本で教鞭をとる、一九二八年ハワイ大教授となり一九四二年から一九五五年まで同総長、現在ハワイ大名誉名譽総長



北卡罗ライナ州アソニビル生まれ、一九一三年ハワイ島ヒロで寶石店を開業、その後ハワイ島で各種の事業に關係、ハワイ島の經濟發展に盡力、一九二八年ハワイ縣會下院議員、一九五三年いらいハワイ縣會、ハワイ州議會上院議員、上院議員、一九四八年いらいヒロ電氣會社社長



一九二五—三〇の五年間、ハワイ・リーグの審判員として内外人に親しまれたほか、野球界に盡くした功績は大きい

△フランク・エルバート・ミドキツフ氏

一八九七年イリノイ州アンナ生まれ、コルゲート大卒業、イニール大哲學博士、ブナホ・スクール、カメハメハスクールで教べんとする、一九一七年ハワイ國民軍初めの日系部隊の結成に盡力、米國赤十字ハワイ支部などハワイ州各種團體の役員を勤め、一九五三—五四年太平洋信託統治領高等辨務官、現在カメハメハ・スクール、ビショップ財團各理事

△野田儀角氏

ベース・ポール・アンパイヤー、ステイヤ野田として親しまれて同氏は、熊本縣人の兩親のニワ耕地時代に一八九二年二月十六日同耕地で出生した、布哇中學、太平洋學院で學んだ後は獨學で今日の地位を築いた、力學、篤行の士である

△村重甚之氏

一八九六年八月ホノルル市に生る、兩親は山口縣人、一九一七年保險業界に入り、一九二三年にはボンナム・ヤング商會保險部ヒロ支店長であつた、一九四四年出府して同じくマニユアクチニア保險代理人として今日に及んでいる、業績が認められ同社の社内報で表彰されて世界的に著名となつた、性温厚直撃で日系人各方面の團體に奉仕し、一九五九年には第十一代日本人經濟研究クラブ會長に選ばれ、一九六四年には日本人商工會議所會頭に選ばれた、クアキニ病院建築理事、本派本願寺教團地方理事として奉仕する傍らカイク・ライオンズの第一副會長でもある

日本國政府は、明治百年を記念して、多年に亘り、わが國との親善の増進又は社會福祉の向上發展に盡力された方々の中、特に功績のあつた外国人（日系外国人を含む）に對し、叙勳を行ふ方針を決定し、その結果、ハワイより日・米親善・日系人社会の向上發展又は、日本文化の紹介等に特に顯著な功績のあつた五名の方々に對し、十月二十三日付をもつて、畏きあたりよりの叙勳の御沙汰が發表されました

日本では、本年が明治百年に當り、各地で盛大な記念行事が行われております、ハワイでも、本年は日本人移民百年の年に當り、去る六月常陸宮・同妃兩殿下をお迎えして、記念祝賀式典が盛大に行われましたこと、皆様御承知のとおりであります

に紛れて年輪は忘れていゝ有様である

勳章近く傳達

けさ總領事館發表

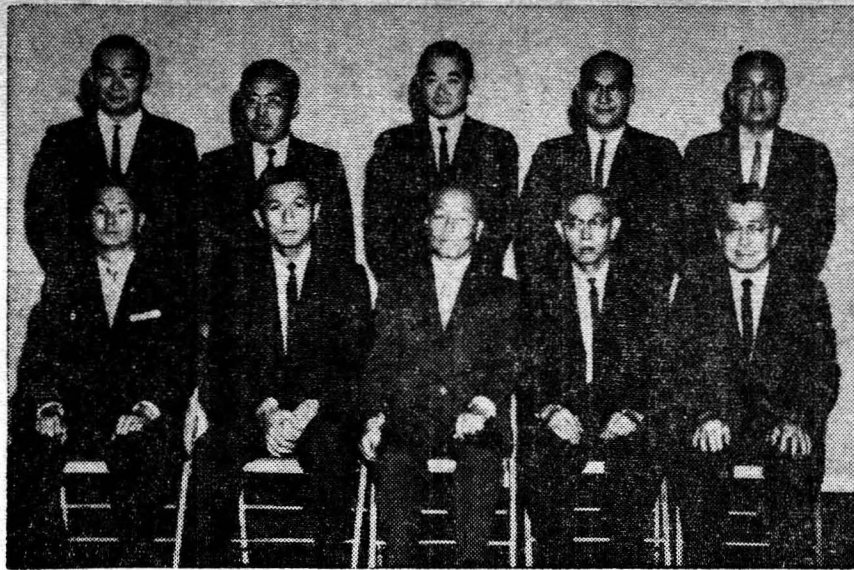
榮譽に浴せられた方々に對し、衷心より御祝いを申し上げます

なお勳記は東京より到着次第總領事公邸において傳達される豫定であります

1967
1917
52

ホノルル日商の新役員 若くて働き手ぞろい 新會頭に村重甚之氏選出

Nov 27
1963



ホノルル日本人商工新役員(寫真前)
列左より西本第二副會頭、佐藤副會頭、村重新會頭、
住田第一副會頭、柏第三副會頭、後列左より福永書記、
藤川監査、島田會計、樋本、辻兩監査一本社撮影

昨夜の總會

ホノルル日本人商工會議所では昨夜六時から日商工會館で吉田總領事夫妻の送別會を兼ねた定期總會を開き、一九六四年度の新役員を選出した。
先ずカクテル・パーティー、晚餐を終えてから吉田總領事夫妻の送別會に移つたがその前に故ケネディ大統領に對し一分間の黙禮をさされた。
送別の辭作藤會頭△レイ贈呈△記念品贈呈村重第一副會頭△謝辭吉田總領事諸氏

定期總會議事

次いで定期總會の議事に入つた。
開會挨拶佐藤會頭△庶務報告福永書記△會計報告古川會計△新會員紹介西島會員部委員長△ジエノ△商工報告加藤會長△新役員推薦委員紹介佐藤會頭△役員選舉△新理事發表△閉會の辭佐藤會頭

新役員氏名

會頭 村重 甚之
第一副會頭 住田慎三郎
第二副會頭 西本 毅

マウイ島雙脚の闘士 寺下倉一氏夫妻奇特

Nov 29
1963
こんごは兩邦字新聞に寄附



第三副會頭 柏 至朗
書記 福永 護二
監査 島田 國雄
齊 樋本 敬三
藤川 敬三

新役員就任式 と新年宴會

なお、ホノルル日本人商工は明年一月五日サンデー、新役員就任式と新年宴會を開催する

(馬哇支局) 不慮の遭難に

て片足を切断し一時は人生への希望をなくし失意の中より敢然として立ち上り、自宅の台所を職場として夫人アキ子さんと共に、日本すしをつくり致々營々と働き貯蓄した金を社會のため

めに惜しみなく寄贈され、世にも珍しき奇特な夫婦、馬哇ワイルド在住寺下倉一氏夫妻の事は屢々報じた通りであるが先年はホノルルのクアアキニ病院に千弗、同養老院に百弗の寄附をなし更に本年は馬哇日系人協會

に五百弗の寄附(當時所報)があつたが、今回又ハワイの日刊新聞報知、タイムスの兩邦字新聞社に寄附の申出があり五百弗を二分してその中二百弗を本社に五十弗を支局へ贈りたいとの事である、又更に次の如き言葉を添え
布哇在留同胞社會の文化向上と權益擁護のために敢闘を續けつゝある邦字新聞社の健在は力強き次第にして尙今後も我等の指導機關として御教導のほどを祈るものであります、然るに新聞社の事業は勞多くして報酬少く特に經濟面への實收は現今の社會事情より推して考えさせられるものがあり、尙ほ將來も多難な時代の起伏が豫想されていますこの際本年度の感謝祭を迎え甚だ僅少なれども記念寄附をさせて頂き、いさゝか感謝の意を表し、今後その使命に生きれ正義人道の味方として思想指導、日米文化交流と人類愛と世界平和に貢献の程を祈りますとの事である

寫眞は寺下氏を中心に記念撮影、右報知支局の小田氏、左濱田支局長

記念碑に代えて

aug 1960 松井右衛門



当ハワイへの日本移民に關しては、漁師などのヒョウウ着者は別として集団移民としては官約私約自由の何れでもない、いふなれば誘カイ乃至は脱出の様な形で明治元年六月?日に英國船サイオト号で送られて来

た所謂元年者を基準とすべきであるが合法的移民と云へば矢張り明治十八年二月八日に官約第一回移民として東京市號で来布した九四四名であるから、その七十五周年を記念するお祭行事をもつのは意味ないことではない。お互に忘れ勝ちな

大に催され、日本郵政省では記念スタンプ(官約移民と縁の遠いホウリのデザインはどうかと思ふが)を發行して協力支援して貰ふ

念誌を發行してお祭気分を盛りあげるらしいが、本市民誌より経済面に於ての日系発展、惹いてはハワイ全体の前進に功績のあつた方々の思出話を書けと頼まれた

が、挙げられた人々には有名入ばかりで機会ある毎に紹介され、感謝され表彰もされているので已に知悉されてい、筆者の如き第一世としては最年少の一人であつて未だ在住五十年にも達しない者では別に新事実や珍らしいエピソードを知る

ではあるが、それに従いて来る一般は預るとして、その事業なり団体なりの中堅となり最高リーダーを援け所謂エンの下の力持ちとな

れず終いといふ申沢のない場合も多い様に思ふ。過ぎし七十五年間の日系活躍の各方面に於て副と名のつ

礎石的役割を忠実に勤めて下さつた多数の方々の功績を何かの方法で後世に残し伝えたいと筆者は常に考えている。

謝の誠を捧げ且つは三世四よつて開拓時代の先輩に感謝の誠を捧げ且つは三世四

実業界の元老

飯田鴻一氏の片貌

中央太平洋銀行の現頭取飯田スイ山堂主人、飯田鴻一氏は大阪に生れ、大阪商業を卒業した十九の秋、嚴父松吉氏の呼寄せで来布した。

父祖代々の「商家」と云ふのだから、根ツからの大阪商人である。然し同氏にはそう云ふ臭みがなく風格から見て善良な大家の旦那さんである。とハワイ人物新地図の著者阪本登美男君は評してゐる。

氏は戦前から日系指導層にその名を連ね、日本人商業組合の理事長や戦後復活した日商工の二代目会頭に迎えられる等、いまでは住

田代蔵氏と共に日系人社会の元老の一人として社会的に重きをなしてゐる。

一九〇〇年のベスト焼払

事件で商品の全部を丸焼きにされた先代松吉氏は、文字通りハダカ一貫一ドン底の貧乏から立ち上つた人で、親子は異国の空できびしい辛酸を味つたと云ふ。

「親父は何事も細心にして粘り強い人でした」と先代の氣風「何事も細心」を修身として受継いで来た訳である。

趣味は舞踊、長唄、生花お茶、庭園となか／＼多芸で、還レキをすぎたと云ふのほゞまだ／＼つや／＼として若い者をしのぐ元氣さである。

尚飯田氏は調和道の会長であり「百歳会」の創立者であり同胞社会の保健長寿のために常に留意指導を怠らない人物である。

氏は戦時中、ルイジアナ

(寫真は松井登太良氏)

(一九六〇・八・二)

州リビングストンに抑留生活不幸にして夫人を失ひ空ケイを守つてゐるがその子女は成人して店務に従事し或は他へ嫁して何れも繁榮幸福の生活を営んでゐる中央太平洋銀行は帰する所重役の協力と飯田頭取の信望と相待ち益々發展の一路を進みつゝある。

戦時悲報

△一九四二年の夏頃であつたか、ちよど私共インターニーがルイジアナ州キヤンブ・リビングストンに抑留中不幸にも飯田鴻一氏夫人の死を伝へて来た、飯田さんはホルルの亡妻の葬儀に最非出席して最後の告別をしたいと念じてその筋へ嘆願して見たが時恰かもミドウェー海戦中であつた為め許可されず涙をのんであきらめる外はなかつた。実に同情哀切の極みであつた。

日商工新役員決定 會頭本田親人氏

「公明選舉」で圓滑に運ぶ

Jan 26
1961



昨夜の總會

ホノルル日本人商工會議所ではきのう午後六時半から日商工會館で定期總會を開き新役員選舉を行つたが前もつて選考委員、役員候補を發表、公明選舉を期したので非常にスムーズに運び、新會頭に本田親人氏（オフィス・アブライアンズ支配人）が選ばれた外、ニュー・フロント時代に相應しい新鮮・強力な一九六一年度の日商工會員を決定した。會員七、八十名が出席していた。

主なる議事

開會の挨拶三保會頭△庶務報告住田慎三郎書記△會計報告中田高明會計△新會頭紹介三保會頭△ジ

（特に櫻祭りの協力をアピールした）△前會員並に前常議員に感謝決議△言論機關に感謝決議△役員選舉は新會頭に本田親人、第一副會頭に香川武雄、第二副會頭に佐藤洋一、第三副會頭に村重甚之諸氏が選考委員によつて推薦されたが、議場からの推薦がなかつたので無投票で當選が決定した。

書記（一名）會計（一名）監査（三名）は倍數の推薦があつたので選舉を行つた結果、書記に住田慎三郎、會計に中田高明、監査に原田信太郎、小林金衛、照屋武雄諸氏がそれぞれ當選した。

日本人商工の新役員顔ぶれ

- | | |
|-------|-------|
| 會頭 | 本田親人 |
| 第一副會頭 | 香川武雄 |
| 第二副會頭 | 佐藤洋一 |
| 第三副會頭 | 村重甚之 |
| 書記 | 住田慎三郎 |
| 會計 | 中田高明 |
| 監査 | 原田信太郎 |
| 小林金衛 | 照屋武雄 |
| 顧問 | 飯田代藏 |
| 前會頭 | 三保克朗 |

一九六一年度新常議員氏名

一九六一年度の新常議員

- （二十五名）は、郵送によつて行われたが、左の諸氏が當選した。
- | | |
|---------|---------|
| 安達 正之 | 古川 健治 |
| 古屋 龍三 | 後藤 ワレン |
| 羽田野 林三郎 | 比嘉 ワレン |
| 堀田 繁 | 石井 幸一 |
| 磯島 武夫 | 伊藤 幸一 |
| 岩下 廣 | 加里本 桂想 |
| 川原 繁 | 米谷 ハロルド |
| 森原 ボール | 中丸 三度理 |
| 西本 育爾 | 岡崎 久朗 |
| 迫田 正男 | 島田 國雄 |
| 田川 光雄 | 時岡 政幸 |
| 富田 テオドア | 上條 文雄 |
| 山本 英雄 | |
- 繼續常議員
- | | |
|---------|--------|
| 赤嶺 喜清 | 安保 豊 |
| 安里 貞雄 | 粟村 徳善 |
| 近末 康人 | 淵野 平吾 |
| 福永 ジョージ | 原 秀雄 |
| 林田 秋芳 | 今本 テード |
| 稻葉 政人 | 河野 秀雄 |
| 國行 愛輔 | 松井 登太良 |
| 森藤 定人 | 仲嶺 眞助 |
| 尾崎 澤次郎 | 崎元 善隆 |
| 佐々木 松雄 | 相賀 重雄 |
| 高吹 昇 | 山縣 太郎 |
| 山崎 隆男 | 内 隆男 |

櫻祭りクイーンに

本田れい子さん

Mar 9 1964

新會堂に七千余の觀衆



今年の「櫻祭り女王」を選び出すコンテストは、ワード街、カピオラニ街角に最近完成したばかりの市立大圓堂のこけら落としとして、一昨土曜夜七時から行われたが、集まった觀衆七千二百有餘になり、さしも廣き大會堂が殆んど満員の盛況を呈した。

十五人の候補者が初めはそれ、華麗なイーヴニングガウンで現れ、二回目は振袖のキモノ姿で出て、紹介に當つているフラン・ヴァランティ氏（KGMBAチウンサー）によりインタビュースされた。

審査の結果、女王にはヴィアン・れいこ本田さん（一九）が選ばれ、割れるような拍手が送られた、本

田さんはオフィスアプライアンス會社社長、元ホノルル日本人商會頭、本田ラルフ親人夫妻の三女で、ハワイ大學教育學部在學中、身長五フット五インチ、体重百十五ポンド、容姿、體格の勝れた才媛で、昨年はハワイ大學のカパラバラ日本人クイーンにもなつた美女である。

侍女四人

なお、侍女四人は次の人が選ばれた。

- △清水キヤロル・かつ子（十九才、ハワイ大學在學中、市内カマイレ街一〇二八、清水學氏夫妻の愛娘）
- △工藤メリアン・ふじえ（十九才、ハワイ大學在學中、市内カリヒ谷、ヌマナ・ロード三〇八六アルフレッド工藤氏夫妻の愛娘）
- △胡チレイ・アン・ふみえ（十九才、ハワイ大學在學中、市内ロウク・セルルイス・ハイッ、ドル街二九一〇ロバート胡氏夫妻の愛娘）
- △大川マートル・れい子（十九才、ハワイ銀行勤務中、市内カイクキ、セスター街一三六〇チャールス大川氏夫妻の愛娘）

また夢のようです
本田さん語る

尤奮おさえきらず嬉し涙を流している本田嬢は感想をきくと

「クイーンに選ばれたなどまだ夢のような感じがします、本當に光榮の至りだと思えます、櫻祭女王としての責任をこれまでの女王の人々のように盡したいと思えます」

両親の本田ラルフ親人氏夫妻も大喜び、本田夫人は「大勢キレイな人がいるので勝てるかどうかと思つていましたが、ヴァレンティ氏のインタビュで大変よく答えられたので入賞しなくてもよいと嬉しくあります」

第一式

なお、コンテストに先立ちハーバート鳥養氏の司會でブレイズデル市長の祝辭、チャールス加藤青年商會館及びコントラッド佐々木櫻祭總委員長の挨拶、昨年の櫻祭女王ジョイス水尾さんの紹介などがあつた。



人氣女王 互選女王

また人氣女王にはキヤロル清水さん、互選女王にはキヤロリン山本さんが選定された。

寫眞は右から：清水、山本兩嬢

日本の人の 大會の感想

女王コンテストに招待され見物していた東京都民踊團



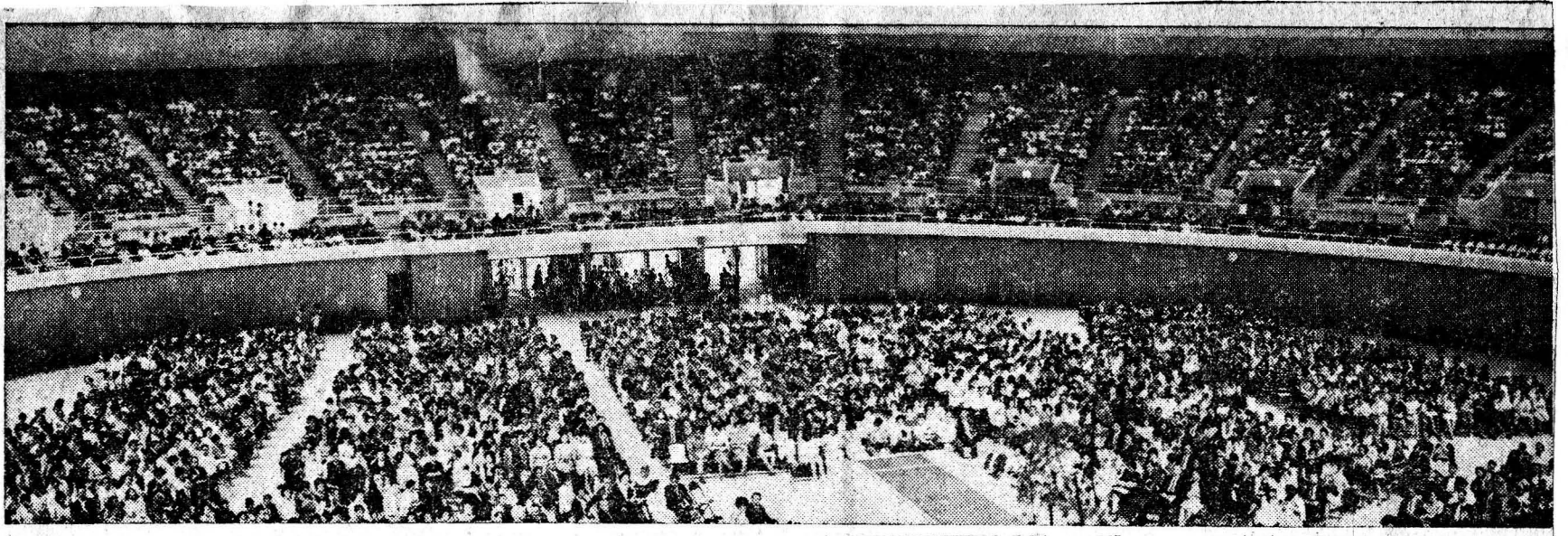
新女王に抱きついて喜ぶ両親の本田親人氏夫妻

の一人高浦格氏次のように感想を語つていた

「日本の美人コンクールなどと違つてコンテストの進め方や會場の雰囲気などが大變珍しく興味がありました、日本ではこのようなコンクールには本人の關係者や専門家が興味を持つたけですがここでは一般の多くの方が關心を持つていて熱心なのに注目されます、キモノの方で最敬禮したり餘り舊時代的なのは一寸變に感じました、もつと樂にやつてはと思いましたが、三世嬢がキモノに慣れずそれで

も日本人の娘らしさを見せようと努力しているのは涙ぐましいばかりでした」

七千有余の観衆で殆んど満員となった大圓堂



女王と侍女たち 右から：横内ゆきの、工藤ふじえ、本田れい子（女王）、清水かつ子、胡子みえの諸嬢



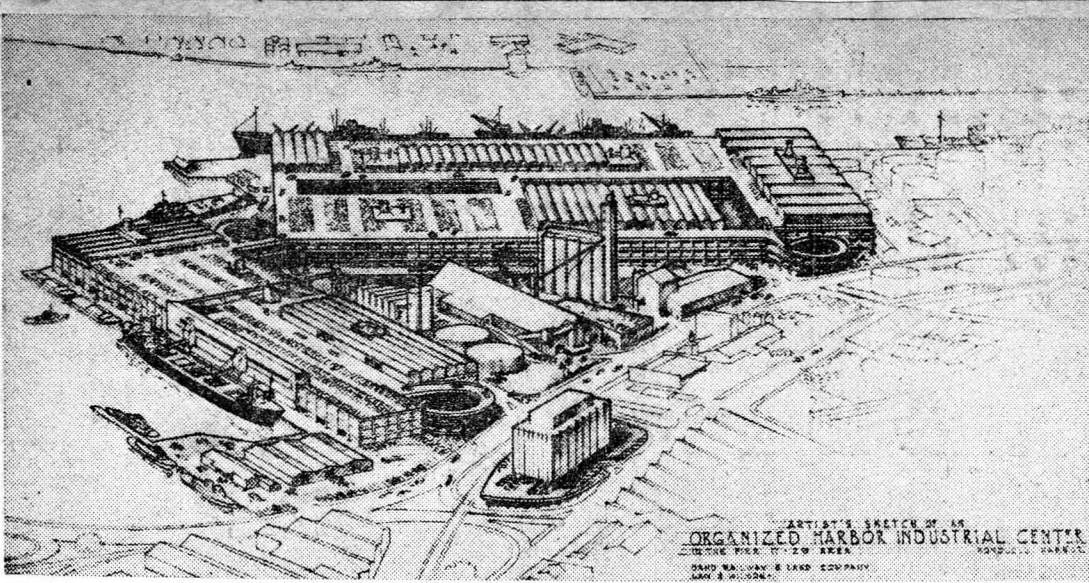
優勝杯を傍らに喜びに満つ女王本田れい子さん

イビリー―棧橋區に

大産業センター

―オアフ鐵道會社企劃―

Sept 18
1961



ARTIST'S SKETCH OF AN ORGANIZED HARBOR INDUSTRIAL CENTER IN THE PORT OF HONOLULU, HAWAII. DRAWN BY JAMES E. LADD, ARCHITECT. HONOLULU, HAWAII.

イビリーの五十五エーカーの棧橋區域土地を利用して工費五千萬弗の大産業センター(Industrial Center)を建設しようという計畫がオアフ鐵道・土地會社社長ローウエル・S.デリングハム氏により先日發表されたこれに關しデリングハム氏は次のように語った

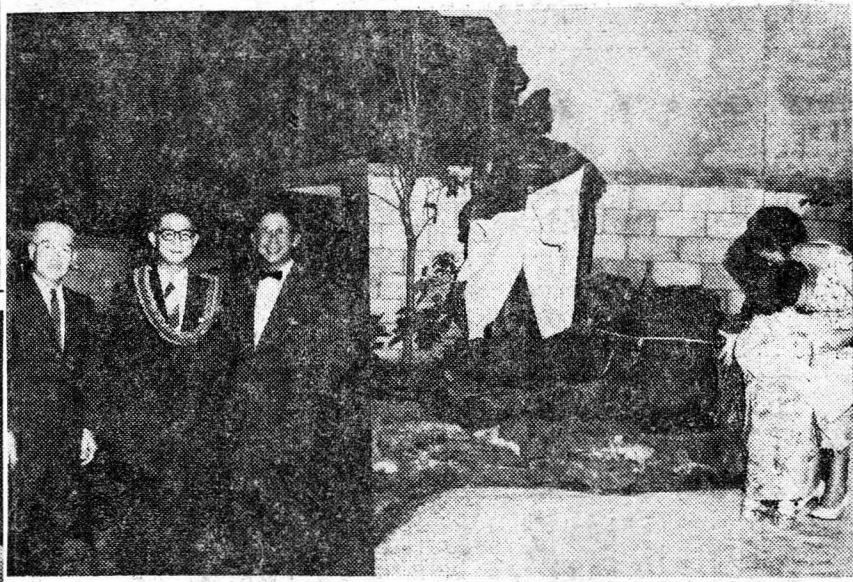
『第十七棧橋から第二十九棧橋に至る間の建築は明年開始される筈で、五カ年後完成する豫定である、現在の計畫では多種類の商品の貯藏庫、船舶出入、一般のビジネスなどに適するプランをしてある、またレストランその他の重要なサービス機關設置も考慮しているこの棧橋、港灣區域の開発を行うことを本會社が決定したのはビジネス區域に近いホノルル港區域に今後はこの種のセンターが必要と考へたからである、これに關しては本會社は充分研究

日米親善に寄贈された

噴水、龍仙人の除幕式

きのう日商で盛大に舉行

Sept 19
1961



を遂げた、オアフ島の産業實情を見ると、商業センターに接近している工業地工の設備が甚だしく不完全である事實である

寫眞は企劃中の港灣・帯業センター見取り圖(ロイ・エンド・ウイilson設計會社提供)

石川博資氏の美舉

日米親善と文化交流の一助にと言つて有名な帝産オート石川博資氏がホノルル日本人商工の文化センターに寄贈した噴水、龍仙人の除幕式がきのう午

後五時半から、吉兆の小雨降る中、いとも盛大に舉行された

此の龍仙人は彫刻家八木竹水氏の作、高さ八呎、青銅すくりで、重さ千三百斤もあるが、周圍の池は老舗するがやの五百年記念に當り岡本善右衛門氏が寄贈したものである

第一式は香川武雄副會頭によつて、左の如き式順があつた

△武辭會館運籌委員長田川光雄△惠贈者(代表)啓

介(レイ贈呈)司式著△目錄呈惠贈者代表石川良並△目錄受納會頭本田親人△除幕アン・チュン嬢市川キヤロ嬢、田中ミチル△噴水開初め石川良並△祝辭日本國領事上村清記△萬歳三唱飯田鴻一△閉式の辭司式者

なお、この除幕式のため嚴父に代つて來布した石川良並氏は、藝術寫眞家で、きのう日商會館でその作品展が催されていたが、傑作揃いであつた、石川氏は二十三日に歸國する豫定である

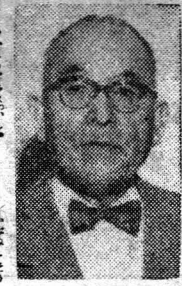
寫眞は噴水龍仙人の前で左より田川建築委員長、石川良並、本田會頭諸氏

國際劇場、市郡に賣却

一、二年は現状維持

大映では新劇場建設を計画

July 18
1962



國際興業會社では、株主總會の決定に基づき、國際劇場をホノルル市郡政府に五十二萬五千ドルで賣却し、全株主に對し一株につき二十七弗の清算支拂いをなしている。

現在、國際劇場を經營している太平洋映畫會社々長木村宗雄氏は、今後の劇場運営につき左のごとく語つて

國際劇場は一九四一年に創立され、當時一株十弗であつた、その後、配當はなかつたようであるが、今度の市開發計畫で賣却を決定し一株につき二十七弗清算支拂いを行つている。

これまで國際劇場は太平洋映畫會社が國際興業會社からリースしていたが、これからはホノルル市政府からレントすることになる。

市政府では、はつきりした

契約は結ばぬが、取りこわすにしても國際劇場は最後まで残すからまだ一、二年は使用出来るものと思う

永田社長が 來月に來布

それで大映では國際劇場に代る新しい劇場を建設したい計畫であるが、何分にも土地と建物なら百萬ドル仕事だから大變である、このことにつき來月、永田社長がヨーロッパからの歸途、ホノルルに寄港するので、充分検討することになつて

日本劇場と アジア劇場

私はまたアジア劇場周辺の土地と建物をビショップ信託から五十二年間リースしているが、これも明年六月以後はどうなるか解らぬ。

あの一帯(日本劇場も含む)は、新しい公園地となるので、何れ取りこわされるものと豫期している。

寫眞は木村宗雄氏

大井哲夫氏の後任

小野寺恭孝氏

けう挨拶のため本社訪問

July 19
1962



貿易界進出のため七月三十一日限り退職することになつたホノルル日本人商工會議所専務副會頭大井哲夫氏の後任に決定、既に就職している小野寺恭孝氏が今十九日大井氏の案内で挨拶のため來社した、小野寺氏の原籍は青森縣弘前市で兩親が南樺太本斗在任中一九三一年十二月十八日出生今年滿三十歳の働き盛りである。

青森縣立木造高校を卒業して渡米、ケンタッキー州のジョージタウンカレッジとケンタッキー大學に學んだが學校では經濟商科と會計學を専攻した、學校卒業後は駐日米空軍の通譯、公認會計會社で會計士、ジョージタウン

大學の經濟商科部助手、シヤトル市ドーシー家具百貨店經濟部長等を歴任し實地經驗を積んでゐる、今度は夫人同伴日本の兩親を訪問してシヤトルへの歸途、ホノルル寄港中、會議所の募集廣告を見て、應募、採用されたもので、就任に當つての抱負を次ぎの如く語つた。

「將來は布哇に住みたいとかねて念願した所、偶然にその實現を見ました私は日本にも米本土にも生活しましたが、布哇ほど人情がこまやかで親切な所はないと感じています、皆様の指導によつて職責を全うしたいと思つています、萬事どうぞよろしく」

なお、小野寺氏の會議所での資格は専務理事である。

(寫眞は小野寺恭孝氏)

五人の子供と共に

仲よく働いた

佐藤服装店 佐藤多美代夫人

May 12 1962

あすは母の日

○あすは慈愛深い母の日であるが、特に日本人の母性愛は、世界に冠たるものがあると言われている

○ハワイ日系人間には、大勢の子供を立派に育て上げた良妻賢母が多いが、アラモアナ・シヤンピング・センターとフオート街に大きな近代的店舗をもつ佐藤服装店の創業者佐藤太一氏(七十五歳)の夫人多美代さん(六十六歳)も、日本人の母として推賞に値する

四十五年前寫眞結婚で來布

佐藤夫人談 私は今から四十五年前、寫眞結婚で來布しました

○當時、佐藤は既にカメラブライ・レインで帽子店を開業していたので、初めからブライ・レインには行かず、お店の手傳いを始め

ました

○翌年、長男洋一(四十四年)、佐藤服装店の總支配人が生れ、續いて次男重文(四十一歳)、アラモアナ店支配人)、三男英世(十三歳)、フオート店支配人)、長女高見正子(在ニューヨーク)、次女榊永美枝子(榊永齒科醫夫人)と五人の子供が出來ました

○來布後四、五年してホテル街精々堂前に帽子店を開業、五人の子供を育てながら、相變らずお店の手傳いをしていました

○體も丈夫だったので朝五時半頃に起きて、夜の十時過ぎまで夫婦協力して働き、三十四年前にアラ公園前の佐藤服装店を開業することが出來ました

子供たちもよく働いた

○主人は世話すぎなものですから若い時から商工の書記や團體のお世話に追われ勝ちなので、私は子供と

ました

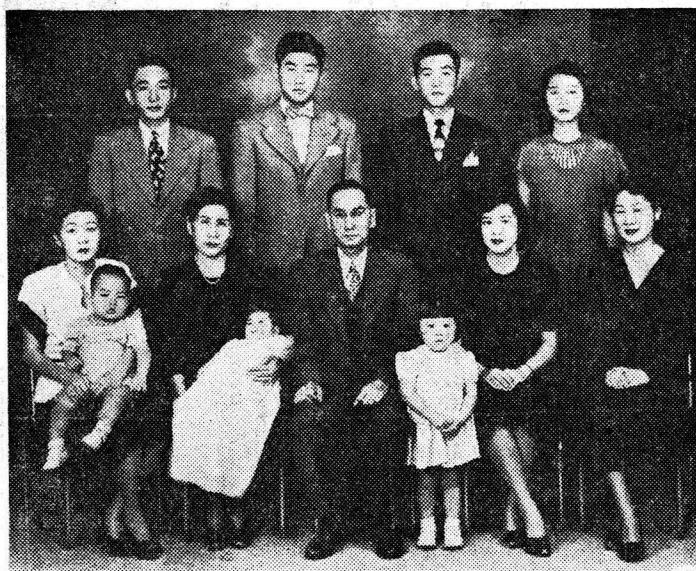
○五人の子供を抱え、忙しい商賣をやつたので、さぞ苦勞しただろうとお友達がおつしやいますが、私は健康であつたこと、子供がよく協力してくれたこと、主人も理解があつたので、今ふり返つて見ると、別に苦勞したとは思いません

○今日では子供もみな一人前にやつていますので私たち夫婦は本當に幸せだと日々を感謝して暮らしています

寫眞は佐藤太一夫妻と家族の記念撮影

一緒に家庭を守ることが多かつたようです

○それでも子供がみな小さい時から商賣すぎで、學校の休みの時など一生懸命手傳つてくれたので助かり



秋の選挙に投票希望者は

七月二日に 歸化申請

最後の宣誓式は九月六日

May 16 1962

ホノルル移民局長オソニ氏は、今秋の總選挙豫選、本選に投票したいハワイ在住の外国人は、七月二日までに歸化申請書を出すよう發表した

選挙前、最後の歸化宣誓式は九月六日で、選挙中は行わない

選挙後、初の歸化宣誓式は十一月八日となっている

米國に歸化出来る資格者は米領土に五ヶ年(軍人の家族は三ヶ年)以上在住せね

ばならぬ、オソニ移民局長は、締切り日まで待たず、出来るだけ早く申請書を出すよう希望している

日系歸化數

一九五三年	一一五
一九五四年	一五二
一九五五年	八五〇
一九五六年	五七六
一九五七年	四三九
一九五八年	六三八
一九五九年	二八〇
一九六〇年	九三一
一九六一年	五一四

教育界の元老

生涯を日語教育に

古生美男校長

各界の先輩

□マカレー日本語学校々々長古生美男氏(八二)は、ハワイ日本語教育界の大先輩で、最年長者の一人である。古生氏は明治三十七年広島縣甲奴郡双領町に生れ、広島縣師範學校を卒業し、田房(双領)小學校長、八幡農業補習學校などに前後八年奉職した後、一九一四年十二月來布してハワイ島ペイコウ本願寺學園長として三カ年務めた後一時歸國したが一九一七年再來布し、一九三八年まで、ヒロ肥料會社技師として勤務する傍ら、ヒロ本願寺中女學校教諭も兼任した、なお一九二

八年より一九三八年まではオノメア日本語學校々々長であつた。

□一九三八年ホノルル市のマカレー日本語學校々々長に招聘され、同校をハワイ最大の日語校に造り上げた、戦時中インタンされた以外、今日までハワイの日本語教育に携わること五十年の長きに至つてゐる、ダニエル井上國會上院議員もマカレー校で古生氏の教え子であり、布哇タイムスの川添樞風記者は日本での教え子であつた。

□古生氏はまた公共事業にも盡精した人で、曹洞宗別院理事長、出雲大社重役などで永い間宗教・文化方面に貢献が多い。

日本人旅館元祖

三代の小松屋

佐藤一郎氏

各界の先輩



□ハワイに於ける日本人ホテルの元祖は現在北キングダウ街四九一にある小松屋ホテルである、この小松屋ホテルを創立したのは今の店主佐藤一郎氏の祖父故好助氏である、一郎氏は小松屋ホテルについて次のように語つた。

□父は廿七歳の時、大志を抱いて母を同伴、里山口縣大島町を出て、官船移民第三回船「ンチー・オヴ・ベケン」に乗つて明治十九年(一八八六年)二月十四日ハワイに來た、最初二年はハワイ島のタカイアウ砂糖耕地で働き、一八九〇年頃ホノルルに出て、日本人で初めてのホテルを「小松屋」と稱して開業した、その時の場所はスマニス街、ヌアヌ街中間のペレタニア街で、今中國人教會のある所だつた、私はそこで一八九四年に生れ、長男が

生れたというので大祝いをした。

□當時は大島郡の移民が多数、ハワイに來ていたので父は商賣氣を離れてよく世話をし、皆から感謝されてゐた。

□その時父は私を連れて錦衣歸國した、そして父母は明治三十四年(一九〇一年)十九歳の私をつれてハワイに再渡航して來た、そして此の時はパラマの今のアケボ・アームスの所にまだ小松屋ホテルを再開業した、次にパラマの堀内商店の所へ移り、次に現在の所に移つたが、父母は一九二二年に歸國し、私がその後を受け繼いで今日まで經營を續けているのである。

□この頃は日本人ホテルは米屋、川崎、山城、小林、福河屋、九州屋、肥後屋、神州など十四、五軒出來ており、日本人旅館組合も組織された。

私の長男は四つの時死んだが、今は次男の健二が主となつて小松屋ホテルと小松屋旅行社とを經營してゐる、小松屋は三代續いてのホテルである、布哇タイムスは今度創立七十周年を祝うそうですが、私は創立以來の購讀者である。

日本品輸入商老舗

チエリー商會

現社長三枝欽三氏

各界の先輩

□元の米倉商會、今のチエリー商會はハワイ日本人の古い輸入商の一つである、米倉商會の創始者故米倉團三郎氏がハワイに來てホテル街上手のヌアヌ街に米倉商會を創立したのは一九〇〇年のことであつた。

□その後米倉商會はフオート街に移り、米倉氏が一九一八年死去した時、義弟の三枝欽三氏が繼承してチエリー商會と名を改め、戦後アラモアナ・マーケット・センターに移轉して今日に至つてゐる。

□現在のチエリー商會は各種の日本商品のほかキリンビール、山佐醬油の卸販賣を行つてゐる。

□欽三氏は今は半引退の身で、長男賢一氏、次男洋二氏が協力して經營してゐる。

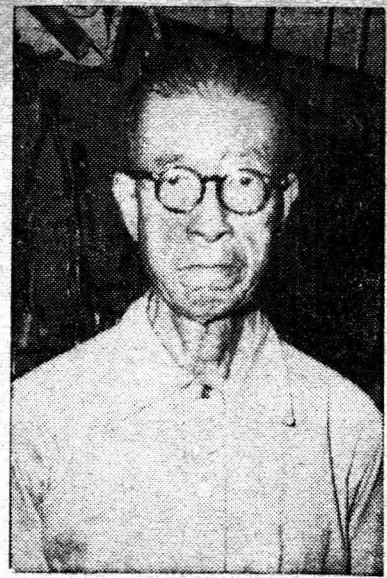
□私が來布した當時には米倉商會のほか、今はないが本重商店、福山商店、山本商店など日本品の輸入商店があつた、あの頃は日本品の輸入量は今より多かつたが、金額から言えば今の方が増大してゐる。

□三枝欽三氏は語つた、欽三氏は八十二歳の老翁だが、壯者を凌ぐ元氣で、今でも盛んにゴルフをやり、息子たち、孫たちも皆ゴルフ愛好者で一家ゴルフ家族で二つのフオートサムが出来る位だ、という。

親子二代續く

老舗・尾崎金物店

趣味人の尾崎胖氏



各界の先輩

□ハワイ日系人商社で最古のもの一つに尾崎金物店(現在北キング街一五五)がある、尾崎商會を創立したのは現店主尾崎胖氏の父尾崎三三七氏(廿三年前當市で他界)である
 □尾崎氏は日本からの商人で一九〇二年種々な日本商品を持ってハワイに来て、尾崎商店を最初ホテル街に造った、その後北キング街今のO'QUI・ホップの所

へ、それから向い側のマウナケア街キング街角で長年營業し、八年前現在の店の所へ移つたのである、各種の日本品を取扱つたが、日本酒の輸入が最も多かつた各島に支店も作つた
 □胖氏は一九一七年に來布父のビジネスを助けて今日に至つたのである
 胖氏は趣味の人で、長唄、圍碁を楽しんで居る
 尾崎氏所有のワイキキの土地は最近リースしてワイキキ・グランド・ホテルが建てられ盛大に起っている
 (寫眞は尾崎胖氏)

ホノルル郵便局に

四十五年勸績

平川督一氏

各界の先輩

□ハワイ日系人先輩の一人平川アーネスト督一氏(七九)は四十五年間郵便局に勤績し、一九五六年引退して今は恩給で悠々自適の生活を楽しんでいる
 □平川氏は山口縣熊毛郡光市室積町の出身で、一九〇四年十七歳の少年の時自由渡航で來布、最初の一年半はオアフ島ワイアラルア砂糖耕地で労働、カチケン、ハツパイコなど重労働をしたが、年は若いし苦しいので出府レスクール・ボーイをしながらイオラニ校に通學英語を熱心に勉強した
 □それから一九一一年ワイアラルア郵便局員となつた、普通連邦政府の職には非市民は就職出來ぬ規定があるが、米本土外の縣、屬領地では便宜上外國人を雇用することが出來るといふ除外

令があつたので平川氏は郵便局員となること出來た
 平川氏が戦後移民法の改定で歸化したのは一九五四年であつた
 □平川氏は一九一三年ホノルル郵便局本局に轉任し一九五六年まで四十五が年の長い間勤績し、郵政大臣から表彰された
 ホノルル郵便局も平川氏が初め入つた當時はベセル街マーチャント街角の小さい物で、局員は六十人位であつたが、現在の所に移つて今日では七百人の局員を擁する大郵便局となつた、平川氏は一九四〇年には爲替部長に昇進した
 □平川氏は日系人連合協會の役員として日本人社會のために盡力し、今年はその人々として表彰された、氏はまた日本美術愛好會、山口縣人會の役員である、氏は子六人、孫七人に恵まれて居る
 (寫眞は平川氏)

雜誌「商業時報」を

四十五年經營

土屋精一氏

各界の先輩

ハワイ日本人新聞界の大先輩でまだ報道機關に活躍している人に土屋精一氏がある「商業時報」を經營すること前後四十五年という長い経歴である土屋氏に來布當時からの話を聞いたが、氏は次のように語つた
 □私が日本から初めて來たのは廿三歳の時で、兄の牧野金三郎が布哇報知を創刊して一カ月の後だつた、當時の布哇報知はマウナケア街、パウアヒ街角の煉瓦造りの建物の二階と三階で故木村寅吉氏が編集長、寺崎定助氏が主筆、三田宙夢故井上夢禪などという記者がいた、後にはあの有名な入社した

□當時ホノルルには日布時事(相賀安太郎)布哇新報(伊藤花影)布哇日々(所謂赤新聞、鶴島半蔵)などの新聞があり、記者たちはみな若くて活気が溢れていて、その記者たちその他が上山草人、山川浦路の來布を機に文士劇をやつたこともあつた、私は報知記者中ハワイ全星野球團の團長となつて日本を遠征したのも古い思い出の一つとなつている
 □報知に七、八年勤めた後退社して、私は暫くの間土地賣買業や保險業に携わつていたが、一九二一年「商業時報」を創刊し、太平洋戰中休刊しただけで今日まで續いて經營しているのが來年は四十五年になる、長いことだ

行居勝胖氏の何の名取に...
 尾崎商店...
 尾崎胖氏...
 尾崎商店...
 尾崎胖氏...
 尾崎商店...
 尾崎胖氏...

Waikiki Grand Hotel 134 Kapahulu Av
 1969
 1892

佐藤太一氏夫妻 昨夜の金婚祝賀盛宴

Mar 21 1966

ハワイに進出中の

日本商社と代表

Mar 16 1966

一、二、三年前にくらべ半減

三大証券會社引上げ

経済の高度成長、海外進出の波にのつて、ひところ日本商社のハワイ進出は目ざましいものがあったが、豫期せぬ金利平準税と一、二、三年もつづいて

が減つたのは、金利平準税の打撃を蒙つた証券會社（野村證券のみを除く）を初め本社の経費節約、マーケット調査の不備、賣込み宣傳の失敗等が主な原因となつている

また、もう一つは宣傳も行きとどき、マーケットも安定したのでローカルの米商社又は日系會社と代理店に依頼し、支店を開張した商社も相當數ある

日本商社支店

出張員名

その證據に、一、二、三年まえまでハワイに支店の開設又はローカル資本との提携する外、駐在員を派遣している日本商社は五〇近くもあつたが、最近はその半數ぐらゐに減少している

米商社に委して引揚げ
日本商社の支店、駐在員等

- △取、大部喜代司副頭取、マーチャント街二四九電話五八〇八一
- △ハワイ・ナショナル銀行（野村證券のみを除く）を初め本社の経費節約、マーケット調査の不備、賣込み宣傳の失敗等が主な原因となつている
- △また、もう一つは宣傳も行きとどき、マーケットも安定したのでローカルの米商社又は日系會社と代理店に依頼し、支店を開張した商社も相當數ある
- △日本銀行 伊藤幸一頭
- △中央太平洋銀行 石井一夫頭取、澤田清副頭取、北キング街五〇電話五〇六二八一
- △シチー銀行
- △副頭取、北キング街九九電話五九三三四六一
- △毎日新聞 佐藤巧二特派員、ピクトリア街一四一五電話五九八八六六二
- △ハワイ松下電器 蒲部隆柴山明、カリヒ街二〇五電話八二九二八
- △三井商事 戸所今朝雄、小川忠雄、郵函二四八〇電話五七一五二二
- △西本貿易 岡崎隆、アウアヒ街六九一電話九六五六七九
- △ハワイ野村證券 佐藤光支配人、石川進
- △白木屋百貨店 河合麻生支配人、久島護、アラモアナ・センター一〇一八電話九〇五〇六
- △ハワイ資生堂 小林修徳サウス街九一六電話五六九三七
- △國際サンスター社 二宮正浩、南キング街二二八一電話五八〇七八〇
- △帝産オート 田中征治、マーチャント街二二一A電話九〇六一八六
- △東寶映畫社 久保田善巳支配人、カピオラニ街一六四六電話九九五七七八
- △東京芝浦電器 吉田秀雄仁井岡武春、南キング街一六五電話五六九二二一
- △カイマナ・ホテル カラカウア街二八三三電話九三二五五五
- △日本旅行會 吉田春雄副社長、フォート街一一九二一四電話九一四二七四

當市の佐藤服装店創立者でハワイ日系人實業界の大先輩である佐藤太一氏、同多美代夫人の目出度き結婚五十年金婚祝賀宴は、昨二十日サンデー午後五時半よりワイキキのカイウラニ・ホテル内ミートン・ハウスで催されたが、來賓内外人約一千名で、日系人社會での近來にない大祝宴であつた

同宴は長男ロバート洋一氏夫妻、次男パニー重文氏夫妻、三男ラリー英世氏夫妻及び高見アリス正子（長女）、グレン榊水真須（次女）らの共同主催になつた

その間、來賓中にはバリス州知事、クイン前知事ブレイスデル市長、夏目領事らもいた、また當夜は特別に佐藤氏夫妻の喜知である老一世たちも多數招かれてカクテル・パーティーは楽しき歡談のひとときであつた

ハワイアン音楽のメロデーの間、晚餐があつたが、プログラムは以下の通りであつた

司會者挨拶片桐政利△布味養生會員の誦曲一おきな△食前の祈り稻垣淨土宗總長△來賓祝辭（日本語）時岡政幸、同（英語）柏至朗△レイ贈呈風鈴會住田、太田兩夫人△謝辭△ボード佐藤△佐藤

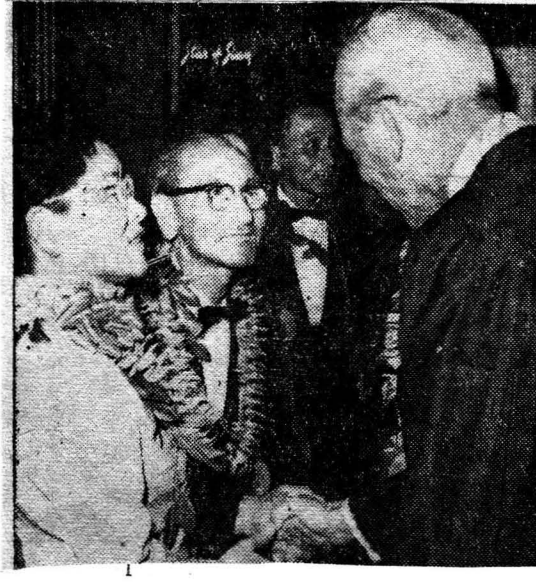
氏夫妻萬歳西本商工會頭△來賓萬歳パニー佐藤の諸氏

公共事業に奉仕

夫人は内助の功佐藤氏は今年七十三才、山口縣都濃郡末武北村生れ、布、帽子洗濯業からスタートして帽子輸入及び製造販賣業、さらに一躍して當時同胞間に唯一といわれるレデーモード洋服店を開業、命息の協力により發展してホノルル屈指の大商店「佐藤クロージアス」になつた

佐藤氏は性格温厚篤實、教養豊厚（上）佐藤家の榮え（下）はバリス知事より祝辭うる佐藤氏夫妻△本社寫眞

夫人多美代さんは妻として母として模範的な婦人である、夫と同じ趣味を楽しんでいる、なお老夫婦には十五人の愛孫がいる



氏夫妻萬歳西本商工會頭△來賓萬歳パニー佐藤の諸氏

自由渡航の商人で成功

著名服装店築く

近く金婚式祝う佐藤太一夫妻

ちやうど今から六十年前、自由渡航の商人で来布、十年後写真結婚の多美代夫人を迎え、ささやかな帽子洗たく屋から帽子店、既製洋服店から男子服装店と時代の波に乗って全米著名専門店に発展、初の親子二代の日商工会頭の記録をつくった、佐藤太一（七九）夫妻がこの二十日日出度く金婚式を祝う。在布六十年の佐藤夫妻の成功の跡をたどってみよう。

生きた商界歴史

二年前喜寿を祝い、近く金婚式と重なる祝いに浸る佐藤太一氏は七十九年の生涯のうち六十年をこのハワイに過し、自由渡航の商人として、日系人商界の発達の初期から身を起こし、今日の専門化時代の服装店の元祖となり、公共事業では戦前は永らくハワイ教育会

瀬戸物の卸し

の理事長として日本語教育に尽くした人であり、現在は店の経営を子息たちに任せ、ハワイ棋院理事長、宝生会幹事長として、夫婦同じ趣味に生き、模範的な陸じい家庭に楽しい日々をおくっているが、その生涯は日系人商界の生きた歴史でもある。

佐藤氏は明治二〇年（一八八七）二月十八日山口県下松市花岡町に、父重之、母ギクさんの長男として生まれた。商人の生れで、十七才から雑貨商として瀬戸物の小卸しをして県下を歩いた。商品は四国から唐津船に積んでくる、素焼ぎや白焼ぎを仕入れるのだった。移民県として知られる山

口県からどんどんハワイへ出かせぎの契約移民の渡航が続いたあと、自由渡航が許可されることになった。

初の自由渡航

十六から十九才まで三年間瀬戸物の小卸しをした佐藤氏は、この機会にハワイへ渡航して一旗挙げようとした決心し、瀬戸物卸しでもうけた資本を携え、山口県下から最初の自由渡航商人として、明治三十九年（一九〇六）十二月単身ドイツ船ドーリック号に乗って勇躍来布した。

英語学校へ通う

仕方なくホノルルへ戻ってきた。オアフ・カンツリィ・クラブができるので、そこへ行ってヤード・ボーイの仕事をもらい、五年ほど働いた。その時を回顧して「初めての労働なので、あの時ほどでもエラかった」と、佐藤氏は語っている。

帽子洗たく所買収

どうやら字が読み書きでき、英語で多少話してもできるようになったので、ヤードボーイをやめて商売を始めようと思ひ、一九一一年

カムヌワイ・レーンにブエトリヨ人の帽子洗たく所が売りに出たのを幸い、機械つきで言い値三五〇がで買った。

当時はバナマ帽子が流行し、帽子洗たく所は有望だと思つて、これで商売に入ることにした。これはホノルルで最初の日本人帽子洗たく所であった。

ブエトリヨ人から薬で帽子をさらすことを教わったが、さらに自身でも研究して洗たく法の改善に努めた（続く）

佐藤氏は明治二〇年（一八八七）二月十八日山口県下松市花岡町に、父重之、母ギクさんの長男として生まれた。商人の生れで、十七才から雑貨商として瀬戸物の小卸しをして県下を歩いた。商品は四国から唐津船に積んでくる、素焼ぎや白焼ぎを仕入れるのだった。移民県として知られる山



一九六四年三月喜寿記念
に撮影した佐藤太一氏（
左）と（右）多美代夫人

日本から夫人呼び寄せ

帽子店で大繁昌

maniz

先驅者の足跡

佐藤太一氏は、六十年前自由渡航の商人で来布、五年後帽子洗たく所を買取り、さらに五年後多美夫人を日本から呼びよせ、帽子店を譲り受けて大繁昌し、既製洋服店から男子服装店と時流に乗って今日の全米著名専長店に発展したが、その商界活躍の跡を統いてたどってみよう。

パナマ帽流行

(2)

佐藤氏は一九一一年カムヌワイ・レーンの帽子洗たく所を買取ってから、そこで十年間商売を続けたが、ずっと順調にいった。当時はパナマ帽子が大流行した時代で、岩上商会を通じて本場のパナマや日本からは東洋パナマを仕入れたが、

「飛ぶようによく売れるので岩上商会でも驚いていて」と、佐藤氏は当時を回顧して語っている。

パナマ帽は、白人はもちろん、ハワイ人から日本人とあらゆる人種がかぶるもので、今日の無帽時代と違って、パナマ帽をかぶらぬと流行おくれにみえたくらいであった。

夫人を呼び寄す

カムヌワイ・レーンで帽

子洗たく所を始め、どうやら商売でたちいく自信を得たし、店の方もだんだん忙しくなったので、一九一一年に多美代夫人を呼びよせた。商売を始めて五年目で夫人が二十一才の時であった。

佐藤氏のお母さんがむす子によい嫁をとさがして、山口県豊積の光市から多美代さんを迎えたもので、当時日本人社会一般風習である写真結婚であった。夫人は佐藤家に入籍してから、一年後に来布したものであった。

それから佐藤氏は夫人の手伝えを得て、店もさらに

繁昌を続けていった。

父の墓参に帰国

多美代夫人が来布して三年後、郷里の父が死亡したが、佐藤氏はせっかく商売が順調にいき出した時ではあり、帰国しても死んだ父は生き返らぬとあきらめて断わりとともに母へ金を送って父のめい福を祈った。

しかし、その後次第と老いく母の存命中に一度帰らねばならぬと思い、帽子洗たく所を希者があつたので譲り渡し、夫人を残して単身父の墓参を兼ね母見舞に帰国した。

帽子店譲り受け

佐藤氏は一九二一年帰布すると、ホテル街の渡辺帽子店が売りに出たので、居抜きそのまま全部五千円で譲り受けた。貯蓄から半額の二千五百円をチェツキで払って、店のキイをもらった。在荷品を整理しながら商売すると三千円入り、渡辺氏へ残金を払いストックを取ると五千円もあつた。しかも商品は倍に売れ、この帽子店譲り受けは大成功であった。

商売は順調にいき、やが

て婦人帽子の流行となり、造るの間に合わぬほど波に乗り大繁昌であった。佐藤氏はこの帽子店を六年間続けた。

(続く)

男子服費の半減期し

既製服店を開く

mary
1966

先驅者の足跡

今週末目出度く金婚式を迎える佐藤太一氏、多美代さん夫妻は、日系人商界の先驅者の一人である。自由渡航の商人として来布、日本人洗たく所の元祖から帽子店に転じ、さらに帽子と洋服店を開き、ここで男子服装費の半減を期し、日本人既製服店の元祖となった。専門店の先驅者の足跡をたどってみよう。

(3)

アアラへ進出

ベレタニア街の帽子店を順調に経営した佐藤氏は、一九二八年にアアラ公園前に移転進出した。ここで当時流行してきたランヤ帽子を売るはかに男子洋服店として、ここで日本人がこれ

まで扱っていなかった既製の服の販売により男子服装費の半減を図ることに着眼して、日本人既製服平の元祖となった。その動機を佐藤氏はこう語っている。

服装費の半減宣伝

『当時普通日系人の月給はわずか二五がでした。ところが洋服は皆別あつらい

の仕立て五〇がもしていました。これじゃなかなか手が出ません。なんとかスタイルのよい既製服で服装費の半減を図りたいと考え、バルチモアの既製服工場へ交渉して、日本人向きのショーサイズの洋服を三〇が位の安い値で売れるように造

ってもらうことにしました。当時は洋服の縫い賃は二〇が以上でしたが、既製服はオートメーションで大量に造るので仕立代は四分の一の五がしかつかない。既製服を着れば服装費が半減となり、経済の助けとなる、と広告のうにい文句にしたところ、これが因に当たって、はじめから幸いに既製服の商売は順調にいきましました。

会わぬはかたわ

初めは既製服、出来合いをいとう人もあつたが、こうした人には佐藤氏は『出来合いはちゃんと合うようのできてるので、合わぬというのは、自分から片輪者だというのと同じだ』と説明の上着せてみて納得させては売ったので、次第と出来合い服の合うというこ

とが理解されてきたと、開店当時を回想して語っている。

全卒業生に売る

一般の人が既製服を買うようになり、学生もまたよい客になってきた。中央学院、本願寺中学校の生徒たちがネビイブルーのスーツを卒業式に選んで着るようになった。両校の全卒業生にそろえて売るようになつた。

日本人向き選ぶ

当時の学生で、今はコンテナタル保険の副社長片桐政利氏が先日佐藤氏に本願寺中学校の卒業式にその服を買った昔話をしたという。

今は五分の一

三十八年前お客の服装費の半減で生活が楽になるようにと念願し、お客を利し自分ももうける、という商売のモットーで既製服の商売を始めたが、今では、昔月給の倍もした洋服が月給の五分の一で買える世の中となり、米国生活が当時とは格段楽になり、合理化されてきたのに隔世の感がある、と佐藤氏は語っている。

(続く)

公共事業に奉仕

父子二代商界に新記録

先驅者の足跡

佐藤太一氏は、日系商界で帽子洗たく所及び既製洋服店の元祖として先驅者の足跡を残した。商界に足場を固めたその早期から、誠実と堅実性を商界のみならず、一般日本人社会に認められて篤い信用を得た。そのため佐藤氏は、商業組合の役員から公共事業の各役員と推されて奉仕した。父の事業を受けついでロバート洋一氏は、少壮実業家として、父子二代の日本人商業会議所の会頭のほか商界での新記録をつくらせている。

(5)

英語幼稚園開く

佐藤氏が公共事業に関係した初めは、長男の洋一さんが四才になった時で、当時は英語幼稚園を出ねば公立学校の一年に入學できなかったため、日本人婦人会の応援を得て、中央学院の校舎を借り英語幼稚園を開設したのが動機であった。

その後、洋一さんの進學に伴い、中央学院の父兄として学務委員となり、理事時代、佐藤氏は各島を飛び

教科書を編集

さらにハワイ教育会の理事に選出され、理事長として一九四〇年まで七年間も勤続した。その間、全島一六二の日本語学校を統一したハワイ教育会の理事長として、日本から修身の専門家野瀬寛頭講師を招き、各島で教師のための講習会を開いた。歴史の専門家を招くほか、七年間教科書の編集と改訂に尽力した。この後は逆に日本人十軒、中国

簿記講習会開く

佐藤氏はホテル街の帽子店時代から日本人商業組合の有力メンバーで、書記、会計から組合長に歴任、組合長時代、組合員の昔ながらの大福帳的記帳を改め現代的簿記にするため、曾我部幸氏を講師として、簿記講習会を開いた。

教育事業で表彰

日本人病院(今のクアキニ病院)に恩賜記念館創立当時は、住田代蔵氏を委員長に推し、佐藤氏は副委員長として働いた。

伏見宮記念奨学会の理事を勤め、ハワイ教育会の理事長として教育方面に勤めた佐藤氏は、一九三七年ハワイ教育会から教育功労者として表彰され、金メダルを贈られた。一九三九年には日本帝国教育会から海外教育功労者として銀杯を贈られた。

産業発展に寄与

佐藤氏は既服店経営の關係から戦後の資材不足を補うのに、名古屋・岐阜の川島紡織工場のため、GHQから特別許可を得て、ニューヨークのロバート・ウーレン会社から洋服裁断クズを入手して送ってやった工場ではこれを整理して解き、製糸して染める工程を染工場や織工場で分担して洋服地を作った。それがユニフォームの着地として、広く使われた。これが数年間工場の立直りまで続き、佐藤氏はその方面の産業発展にも尽している。

洋一氏の活躍

佐藤氏は現在、佐藤服装店の社長ではあるが、経営の実際は長男のロバート洋一氏、次男重文氏、三男英世氏の三兄弟に任じて、若い世代の新経営による発展を見守っている。

洋一氏は日英両語に堪能な商學士として、父の築いた佐藤服装店を全米模範小売専門店として日系最初の表彰を受けるまで発展させるなど敏腕を奮っている。

父に次いで父子二代の日商工会議、初のホルル商業会議所小売部会頭、弁護士外の大会社の初の日系理事となり、ドール会社理事として日本との貿易にも一役を買った。父に劣らず日系少壮実業家として商界に新記録をつくり、大いにその前途を囑望されている。

(続く)

手紙のやり取り
父の足跡
洋一氏

先驅者の足跡

佐藤太一氏が六十年前自由渡航の商人で来布、五年後帽子洗たく所を開き、さらに五年後多美代夫人を呼びよせ、帽子店から男子既製服店、男子服装店と時流に乗って発展を続け、米国一流の専門店を築きあげた、成功のかけに見のがせないのは半世紀におよぶ夫人の内助の功である。立派に育てあげた子女からめでたく祝われる金婚式を明二十日に控え、夫人の内助をたどってみよう。

(6)

母堂に見込まれる

佐藤太一氏の呼びよせて多美代夫人が来布したのは帽子洗たく所開店五年後で、ホノルルに夫人が着いたのは一九一七年一月元日であった。元日にサイベリア丸で佐藤洗たく所の花嫁さんが来た、と当時新聞に大きく紹介されたという。

夫人は山口県豊積の光市の実家から下松市の佐藤家にこし入れして、一年間佐藤氏の母堂キクさんにつかえた後来布したものであった。

「お母さんは非常に厳格な人でした」と佐藤夫人は語っているが、その母堂に

洗濯と帽子造り

佐藤夫人は来布早々帽子一年振り、一九二八年三月帰

十一年振り帰国

夫人は来布してから十一年振り、一九二八年三月帰

佐藤夫人の内助

正直一途に子を育つ

Mar 19 1966

洗たく所の仕事を手伝ったが、ホテル街の帽子店を買ってから、帽子造りに精を出した。

「忙しい時は二人も雇いました。婦人の帽子から子供の帽子まではやり、私が帽子を造ったのをかぶって出ると、他の婦人がほしいといわれるので、店へ帰っ

していた。

一年で監理解除

商売はずっと順調を続けたが、太平洋戦のぼつ発で思いがけぬ試練が来た。

「夫が救急手当ての世話に走り回っている時間戦となり、心配しましたが、帰宅した夫は直ぐに抑留されました。家さがしはありませんでした。アアラの店は米政府の監理下におかれ

正直な世渡り

「禁酒時代に密議がはやり、近所にもそれがありましたが、私どもは物事を正直に真面目にやってきましたので、近所の白人さえ信用して、人差し指で私どもをさして、"サトウ・イス・ア・オネスト・メン"といってくれたほどでした。夫は子供たちに口でいうより自身でやってみせるというやり方でした。

夫婦同じ趣味

「息子たちの方がかえってよくやってくれます」と佐藤氏は店の方は任せっきり十年余り店へ出ません。という夫人は、佐藤氏と同じく謡曲(宝生会)囲碁(風鈴会)と同じ趣味に生きている。ほかに若い時から好きなお花は池坊織田博愛師、お茶は笹井宗和師に師事している。

服装店経営の長男洋一氏祖父の一字をとった次男重文氏、三男英世氏三兄弟のほか長女、ニューヨークの故高見タカタ夫人の正子さん、次女、当市グリーン柳永樹科医夫人美枝子さん、三男二女をそろって、佐藤夫妻の金婚式を明二十日(日)午後六時からグリーンセス・カイウラニ・ホテルでめでたく祝うことになっている。

父子ともに記録輝く
金婚式 北海道
一九四八年二月十八日佐藤太一氏還暦の記念撮影
右から前列正子、美代、洋一夫人、洋子、太一、康子、多美代夫人、文彦、英子(重文夫人)、後列美枝子、洋一、英世、重文の皆さん

秋の叙勳九千七百一人

ハワイ関係者は二十一人

東京（共同）十一月三日（日本時間）發政府は三日恒例の四十一年度の叙勳賜金をうける二千七百九十一人の氏名を發表した。三十九年池田内閣時代から始まつたいわゆる生存者叙勳もこんど六回目。

勳一等十五人

今回最高の勳一等旭日大綬章をうけるのは前最高裁判所長官の横田喜三郎氏で、國際法學の研究、最高裁判官として司法の發展に貢献した功績に對し贈られる。これに次ぐ勳一等瑞寶章を贈られるのは日本古美術の調査、海外流出の防止につくした、京國立博物館長淺野長武氏、神奈川縣知事として地方自治に成果をあげた内山岩太郎現知事、東芝社長、石川島播磨重工業會長の土光敏夫氏、運輸相、勞相などを歴任した松浦周太郎衆議院議員など十四氏である。

勳二等は元富山大學長の石原寅次郎氏ら百二十二人、勳三等は百六十六人、勳四等は三百九十一人、勳五等

かでも勳七等が増えた

辭退者11人

また辭退者は十一人あつた。このなかには勳二等、旭日重光章に豫定されていた森島守人氏（元衆議院議員）、社會黨の方針に従つて辭退した同黨元衆議院議員中原健次氏、ロシア文學者の中村白葉、聲樂家の柳カネ氏らがいる。

△佐藤首相談話

文化の日の佳き日にあたり各界功勞者二千七百九十一人の方々にたいし天皇陛下から勳章及び銀盃が授與されることになつた、内閣は今回の實施にあたり廣く各界、各層にわたるよう心掛けることに、いわゆる有名人名等にかたよらず天職に甘んじ世の灯となつた功勞者を持に積極的に見出すことに努めた。

この度叙勳および賜金の榮譽を受けられる方々にたいし國民とともに深く敬意と祝意を表し今後なお一層のご活躍を祈つてやまない。

ハワイ關係以外の海外受章者氏名

勳五等瑞寶章

▲安潮 盛次（七四）
本籍福島縣、ブラジル國サンパウロ市在住、現南米銀行副頭取、現日本移民救護協會顧問、日本人移住者の指導援護に寄與

▲尾山 良太（八三）
本籍岡山縣、ブラジル國パソソ市在住、農名および牧場經營、ジュートの「毛出新種」の發見に成功、生糸輸出に寄與

▲平井 格次（七四）
本籍静岡縣、ブラジル國サンパウロ市在住、現日本移民救護協會事務局長、日本人移住者の援護に寄與

勳六等瑞寶章

▲館岡 久（八一）
本籍秋田縣、米國ワシントン州ヤキマ郡ワバト市在住、元ヤキマ日本人會會長、在留邦人の地位向上に盡力

▲本保 孝保（七三）
本籍石川縣、チリ國サンチャゴ市在住、元サンチャゴ市日本人會會長、日本商品の紹介、普及に努力、チリ國における商業の發展に寄與

▲松本 圭一（八〇）
本籍静岡縣、ブラジル國サンパウロ市在住、元日伯農業協會訓練所所長、ブラジル農業に寄與

▲矢野 辨治（八一）
本籍高知縣、ブラジル國サンパウロ市在住、元コチア産業組合理事、現ジャガワレ日本人會會長、日本移民の付づく海外移住事業の發展に寄與

勳五等瑞寶章

▲吉雄 武保（八二）
本籍東京都、ブラジル國サンパウロ市在住、現日本震災同胞援護會會長、在留邦人の地位向上、日本における難民救済に盡力

▲中野 益男（七三）
本籍鹿児島縣、ブラジル國サンパウロ市在住、牧場主、現アララー日本人會會長、日系人移住者の地位向上、日伯親善に寄與

勳六等瑞寶章

▲米國人、神奈川縣出身、コロラド州デンバー市在住、元コロラド州日系人會會長、在米日系人の福祉増進と日米親善に寄與

▲山崎 節（八二）
米國人、長野縣出身、カリフォルニア州ロサンゼルス市在住、現南加州日系人商業會議所顧問、日系青少年の教育と日系人の保護と救済に盡力

日系外國人

▲勳五等瑞寶章
▲木本 博六（八八）
米國人、廣島縣出身、カリフォルニア州リドレー市在住、現リドレー市日系人の福祉増進、日米親善に寄與

▲竹中 健吉（七八）
米國人、廣島縣出身、ニューヨーク州ニューロシエール在住、現ニューロシエール日系人會理事、在留邦人の地位、福祉向上に盡力

▲作宮 宗一（七二）
ブラジル國人、廣島縣出身、パラナ州ロンドリーナ市在住、現在ロンドリーナに合日本人會會長、移住の振興、移住者の援護、在任日系人の地位向上に盡力

勳六等瑞寶章

▲吉野 平藏（八五）
米國人、神奈川縣出身、ワシントン州モーゼスレイク在住、ポテト加工工場、製油所經營、日系人の地位向上に盡力

勳六等瑞寶章

▲早野 榮藏（八四）
米國人、神奈川縣出身、コロラド州デンバー市在住、元コロラド州日系人會會長、在米日系人の福祉増進と日米親善に寄與

▲中河 頼寛（七五）
米國人、山口縣出身、イリノイ州シカゴ市在住、元シカゴ新報社社長、在留邦人の日本語教育に盡力

熊本に行つて亡父の

お墓参りもしてきた

スタイシエン登志子夫人

Aug 20 1966

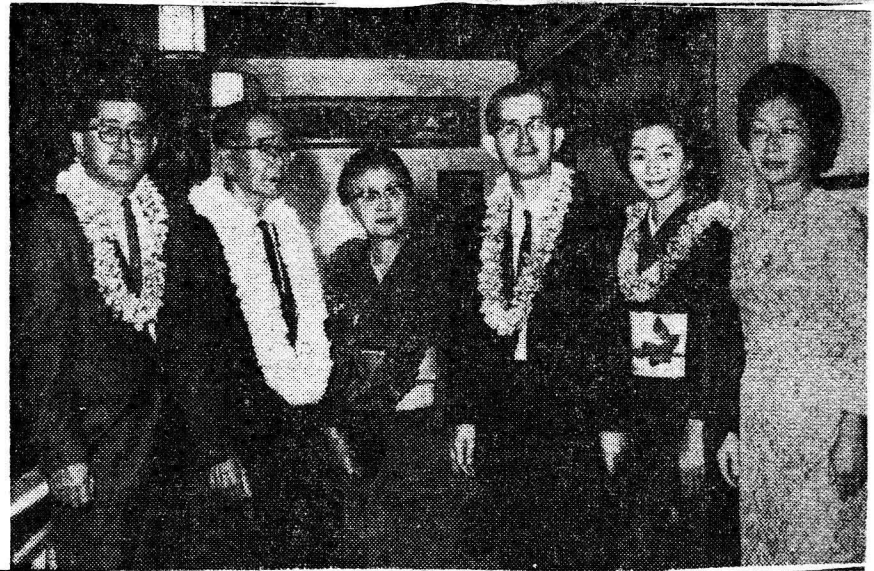


東京における第十二回原水爆反対世界會議にハワイ代表として出席したホノルルのセルマ・スタイシエン夫人がその會議を終えて後、

非合法に中共に入國して話題になつたが昨日歸國した。スタイシエン夫人はハワイ島ハイナの出身で舊姓田之上登志子さん、父親は熊本縣で既に二十二年前死亡している、七九歳になつた母親はキナウ街に住む登志子夫人のもとにずっと生活し

ていたが、今年二月亡くなつた。熊本縣には母の姪にあたる家族がいるので、そこを訪れ父の墓参りに行つて來た。このこと、危険を犯して中共入りした夫人も、やはり父親を思い出して懐しさが一杯といつた。口振りであつた。今回の原水爆反対世界會議出席と中共領域への不法入國のいきさつについては既にホノルルのテレビ局KHVHと版權の契約を結んでゐるため一切話すことができないと云うことである。登志子夫人は、不動産業を営むリチャード・スタイシ

エン氏との間に二十八歳から十七歳に至る子供五人があるが、一應子供達が大きくなつた上に時間的な余裕が出来たのでハワイ大學に人學、教育を専攻して、この六月卒業したばかりであつた。自分の夫はとて理解のある人で、私の母親も常に親切な息子をもつて有難いと喜んでくれた。今度のことには、さすがに夫も少し分心配したようだが、ホノルルを出発する折には中共に行くということは全然知らせなかつた」と登志子夫人は語つてゐる。自



分も土地賣買などするかわら、もう一度學校に行く機会をまつていたが、幸い卒業出來たので近いうちに學校教師の職にも申込もうと思つてゐると云うことである。夫人は幼少の頃日本語學校にも通ひ日本語がと

古生美男氏夫妻の結婚六十年宴

Sept 12 1966 出席者四百五十名の盛況

布哇邦語教育の功勞者として昨年藍綬褒章を授與されたマカレー日本語學校々長古生美男氏夫妻の結婚六十年(ダイアモンド)祝宴は長男治男(馬哇島ワイルク)二男正男(ホノルル)三男秀男(ポートルコ)長女本田妙子、二女法子(ホノルル)各夫妻の主催で、十日(土)夜六時よりモイリ東雲別荘に催されたが出席者四百五十名に及ぶ盛宴であつた。米人方面ではパインス州知事、ブレイズデル市長、フオング、井上兩國會上議よりの祝辭、又日本よりは椎名外相、永山前自治大臣その他より、影しい祝辭や祝電が寄せられて錦上更に花を添えた

△司會安達正之△レイ贈呈愛孫カツ子、洋子△各團休より記念品贈呈△詠曲「高砂」佐藤太一、笹井太馬齊、近藤善三△舞踊「八千代獅子」西川鯉四郎△祝辭友人駒形善彰、日本總領事館夏目八郎領事、一般連絡會長西本育鷹△各地よりの祝辭祝電披露本州親人△謝辭日本語飯田鴻一、英語古生正男△夫妻万歳日商工會長西本豪△來賓萬歳宮王重丸の諸氏
第二式は脇本勝一、市岡曉舟兩氏の司會で各種の日本舞踊や、千鳥絃樂團の演奏等があつておそくまで賑わつた
寫眞は左から二男正男、ダイアモンド武の夫妻、長男治男、二女法子、長女妙子さん、喜びの古生氏一家

西条 徳 善 井上 比 夫 の 文

前川 尚 三 山 本 在 机 関 的 研 究 員

本 田 敏 人

村 田 賢

佐 田 功 一

丸 山 敏 夫

森 部 功 一

森 前 正 人 (印)

打 包 表 之 1968 年 10 月 29 日 係 印

西 条 敏

原 上 久 二

原 山 尚 三

佐 藤 正 一 (三 十 七)

三 枝 敏 三

三 枝 敏 三

標準家族向き新住宅

四百軒・堀田不動産が開発

ツイン・ビユー・テラス

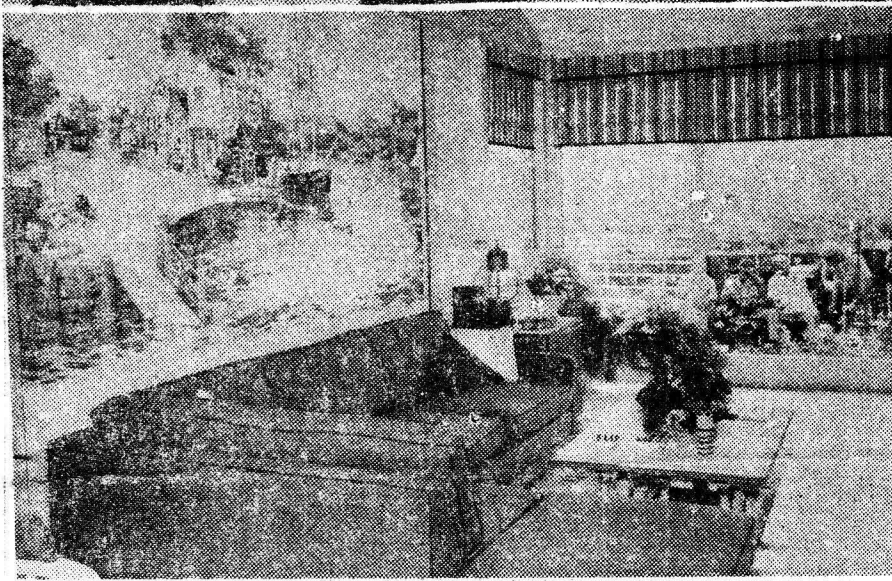
april 1969

住宅が急速にホノルルの郊外に發展しているが、この新しい住宅街を次ぎに建設している堀田不動産が、大なる儀式が行われた。

式は堀田不動産社員一同、工事関係社代表、室内装飾家ブレイク夫妻が並ぶ中でキリスト教、神式の二通りで行われた、まずキア

この「ツイン・ビユー・テラス」に建設される住宅数は約四百軒、三ベッド・ルーム、二バス・ルーム、台所、居間と標準家族向きの

住宅で、値段も三萬六千ドル（土地つき）という割安さである。各住宅ともゆつたりとして非常に明るく、天井に特に工夫がされ、光線の取入れに注意されている。購入後の支拂いも考慮され住宅の間にある道路は市の建設によるもので、この点他の住宅街と異つた特色であらう。



眺めも、交通の便もよいツイン・ビユー・テラスを賣り出し。上はテープ切。左より金澤紳士、堀田繁社長、ハーバート堀田社長下はよく設計されたパラー（本社撮影）

リュウ署長に遂に辞任

郵政省 特別補佐官に

轉職

april 1969



過去二十年の長期にわたつてホノルル警察署長の要職を占めてきたダン・S・O・リュウ氏は昨秋の選挙以来引退説が度々傳えられていたが、今度は意外な方面への轉職でいよいよ近々中に辞任することが確實になった。

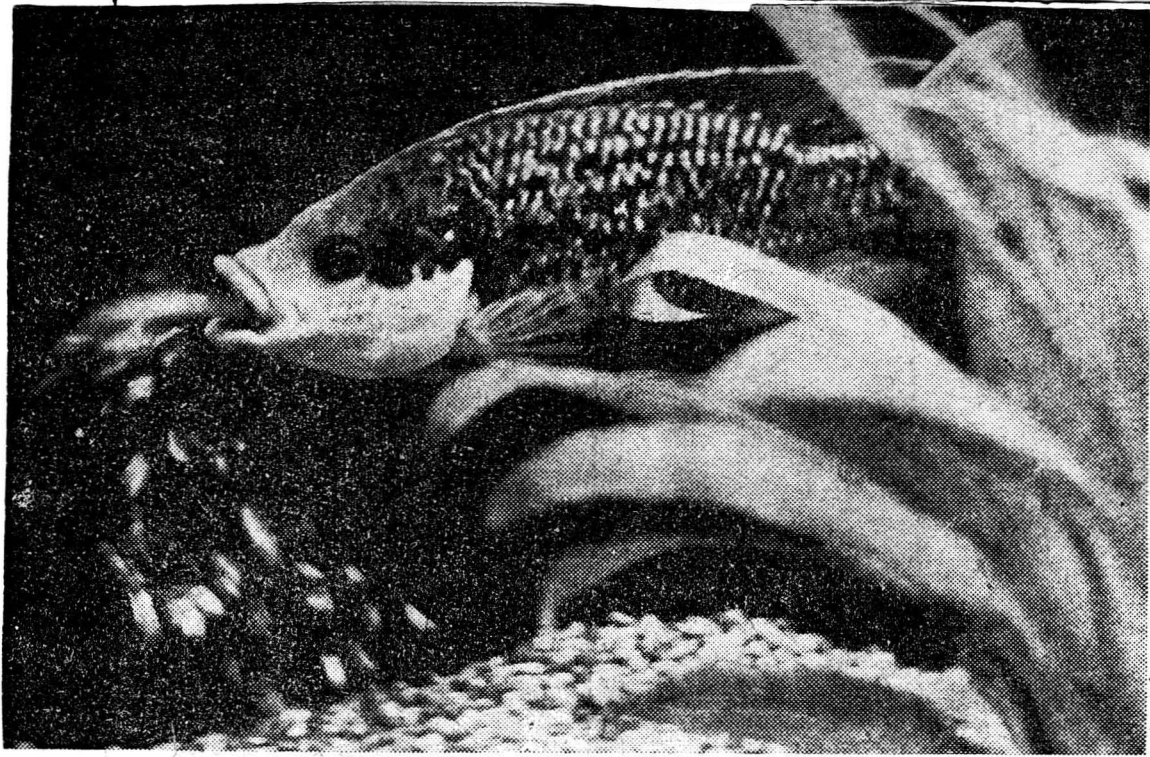
それに就いて關係方面からの正式発表をまつて當人自身は多く語ることを避けているが、ワシントン方面からの情報によると、リュウ署長の辭任は郵政長官ウイントン・ブラウント氏の特別補佐として同省の國際部を擔當するためであることが確實視されている。同氏の擔當部門はスイスのベルンに本部をもつ國際郵政機構に深くつながるもので、本年十月には同機構の年次國際會議が東京で開かれるので、リュウ氏はその準備のため六月までにワシントンに赴任せねばならないので、現職からの正式辭任もあと数日内に迫つたものと豫想されている。

郵政長官補佐としての年給は三萬ドル台だといふから、現給の二萬二、五〇〇ドルにくらべるとリュウ氏としては相當の進級ともいえる。リュウ氏は去る二月に滿六〇歳になったが、同氏が街上を歩いてくると、巡視警官として人置したのが一九三二年の經濟恐慌の一番深刻な時であった。警察署長の職が一般選挙制から任命制に改められてから四代目の署長に任命されたのが一九四九年、現職であること二〇年、歩行警官初任當時からすると三十七年の長期にわたつて警察官をつとめたことになる。

實直、不偏不黨の名署長といわれたリュウ署長も昨秋の選挙の結果、フアンイ氏が市長に就任して以来、新市長に警察署長更迭の意志のあることが屢々噂に出るようになってからは、氏自身引退の意向が傳えられていた。なおリュウ氏は宗教團體、青少年團體などにも深く關係し、あれこれ二〇餘の團體の役員または會員として、社会的つながりも廣かつた。本職方面では國際警察署長協會会長、FBI養成アカデミー委員長などの要職についたこともある。

リュウ氏今回のワシントン轉出はハイラム・フォング上議の轉任によつたものとされる。

寫眞はダン・リュウ署長



Onp 26
 上野の山
 サカナたち
 <12>
 1967

口内飼育は、種類を外部から守るので、繁殖率を高めようとする。そのうえ、どんなきつい水でも平気で住み、どんな粗食にも耐える。

からだつきがフナみたい。ありふれたスタイルは、さほど注目をひかないが、動作がおもしろい。水そうの底に敷きつめられたじりを、オスが明けても暮れても「ソソソ、ソソソ」と口で揺ら揺らさせ、せとスリパチ型の穴をつくって居るのだ。

粗食で繁殖率高い

ティラピア

サカナの世界では、妻のおめでたが近くと産卵準備のため夫は、石や草の葉のそっぴをほじめる。ティラピアの穴掘りもそのためだったのだが、妻はいつの間にか、卵を穴に産みつけずに「口にいっぱい含んだまま」か化するようになった。だから、穴掘りはいまだ、習慣の遺物にすぎないのだが...

×千 原産は東アフリカだが、東南アジア、ハワイなどに広く分布。卵を口のなかでかえすサカナは、淡水にも海にもたくさんいるが、おもにティラピアの仲間を「ウン・ブリーダー（口内保育魚）」と呼ぶ。寿命は四、五年。値段は百〜三百円。

昔は東アフリカの川や湖にしかいないものと思われていたが、太平洋戦争で帝国陸軍がこのサカナをジャワ島で見つけ、貴重なタンパク資源としてマレーシアやタイ、インドネシアなど東南アジアの住民に、養殖と食用をすすめた。FAO（国際食糧農業機構）でも帝国陸軍の遺産をけついで、いまなおティラピアの普及に力を注いでいる。

紀元節復活について 反対派

家 永 三 郎

内山神奈川県知事が紀元節復活を計画し、二月十一日には県庁で祝賀式などを行なう旨を発表して話題となっている。今までも二月十一日を国民の祝日のうちに加える法律改正案がいくたびも国会に提出され、そのつど強い反対を受けていつも流産に終わってきたが、これほど地方自治体の首長に提案させる、という新しい手が案出されたのであろうか。

復古ブームの二環

「毎日新聞」の記事によると、内山知事は「国民が自分の国の発足日を祝うのはあたりまえのことだ」と言ったという。紀元節復活案の出るごとに耳にタコのできるほどきかされてきた言いぐさで、今さら取り上げるほどのものでもないのだが、「朝日新聞」の「声欄」に人にはみな誕生日がある、その日を祝うこと、国の起源の日を祝うのは当然である。世界いずれの国でも自国創生の日を祝っているのに、日本にだけないのはどういふことか」という理由で、賛成の投票をした人がいるところを見ると、世間にはこんなことをまた本気で考えている人々も少なくないようであるから、やはりこの際くり返し議論をしておく必要がありそうだ。

科学的歴史の圧迫へ

いまわしい状況へ逆もどり



家永三郎氏

紀元節復活運動は、君が代斉唱、伊勢神宮の國教化、神社神道連の動きを総合的にとらえる中で論ずべきであるが、スベースの関係上、ここでは二月十一日の問題のみに限定し、特に私の専門とする日本史の学問的研究と歴史教育との関係からだけに論点をしぼって考えることとしたい。

神代は作りばなし
 第一に、二月十一日を建國記念日とすることがどうしてそんなに問題になるかというと、それが戦前の非科学的な歴史教育、歴史学研究の自由の圧迫につながっているからである。戦前の学校教育を受けた方々がご承知のとおり、戦前の歴史教科書では、神代の物語りや神武天皇の即位の物語りなど、歴史的事実でない作りばなしが、まるで本当にあってたてきことのように書かれていた。神代の物語りは作りばなしであり、神武天皇は美在の人物と考えられないという点を学問的に論証した津田左右吉博士は、皇室の尊厳をかけたという罪名で起訴され、有罪の判決を受けたのである。

Feb 5 1967
 家永三郎

神武天皇の即位の日に相当する二月十一日を建國記念日として復活することは、右のような醜聞のいまわしい思い出を復活させる危険を伴う。それは、戦後にせつかく確立された科学的な歴史研究の自由と正しい歴史教育を再びおしつばさないともかきらないだろう。

X X X

いくら何でも、この時世にそんなバカなことがと家鏡してはいけない。文部省は教科書検定を通じて、再び戦前の歴史教育の復活を現に推進しつつあるのである。

文部省権力の強行

私の書いた日本中高等学校教科書に『神代』の物語りはもちろぬのこと、神武天皇以後の最初の天皇時代の間の記事に至るまで、すべて皇朝が日本を統治するいわれを正当化するために構想された物語りであるが、「うんぬん」という一節があるが、昨年度の改訂版の検定の際、文部省はやはりこの一節を削除させた。神武天皇の物語りが、歴史的事実でないことを学校で教えないようにする政策が文部省の権力を通じてすでに強行されている。今日において、もし二月十一日を建國記念日とすることにならなければ、歴史教育は一体どんなことになるだろうか。想像するたもはた寒い思いがする。私は歴史学の研究と歴史教育とにたずさわるとしての立ち場から、二月十一日の祝日に強く反対しないではいられない。

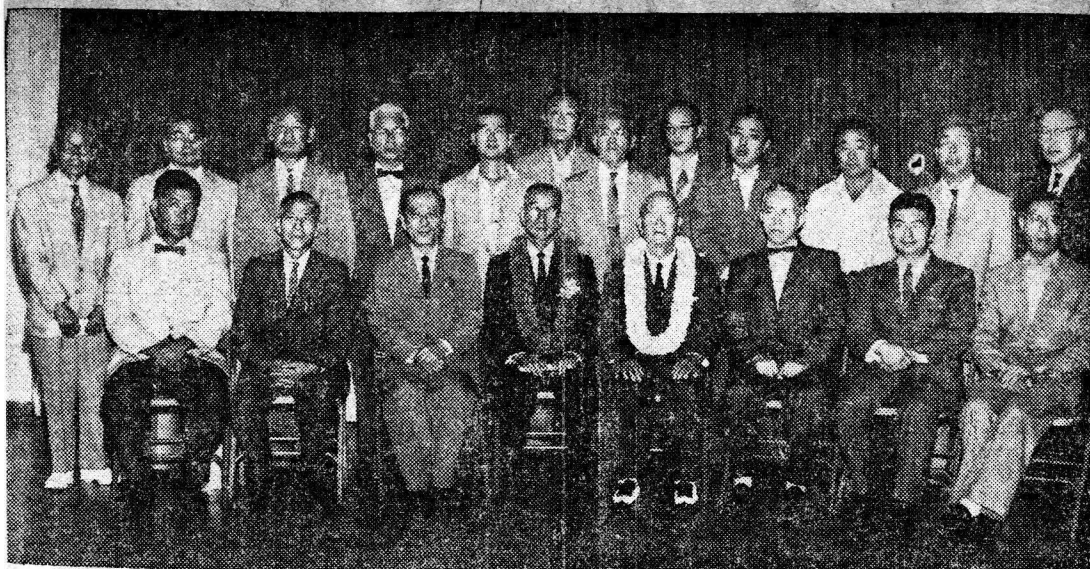
(東京教育大教授)

連協新陣容成る

會長に粟村德善氏

きのう總會に八十名出席

may 22 1961



選舉の經過

の廣島縣、廣島市よりの記念塔についての報告藤川敬三△會則の修正書記酒井幸人△役員選舉、詮衡委員長の役員候補者名發表、十分間休憩、役員投票、新役員發表△新舊會長へレいの贈呈△河本勝一氏へ記念品及び感謝狀の贈呈仲嶺眞助△退任の辭河本勝一△就任の辭新會長栗村德善△連合協會萬歲太田馨副會長△岡畑博氏を顧問に推薦

ホノルル日系人連合協會では、きのう午後一時から曾洞宗別院ホールで定期總會を開催したが、役員、常務理事など約八十名出席し、重要事項の協議と新役員の選舉を行った。劈頭、米元義正氏の司會で開會が宣せられ、左の如く議事が進められた。△先亡者に対する一分間黙禱△挨拶會長河本勝一△庶務報告書記酒井幸人△會計報告會計西本育麿報告及び協議。布哇官約移任七十五年祭

- 役員選舉に先立ち、森口富平氏から選考委員氏名を發表せよとの希望があつたので米元書記から公表された、それによると
- 岡畑 博 山 學
 - 村岡 正夫 秋田 光義
 - 谷本 基弘
- それから選考委員によつて推薦された役員候補氏名(印刷もの)が出席者に配布されたが、議場からも推薦があり、結局投票によつて新役員が選出された、結果は左の如くである
- ▲會長 粟村 德善
 - ▲副會長 太田 馨
 - ▲次長 仲嶺 眞助
 - ▲次長 吉上 進
 - ▲次長 安達 徳二
 - ▲次長 重永 茂夫
 - ▲次長 藤川 敬三
 - ▲次長 重永 茂夫
- 選考委員によつて推薦された重永氏は次長になり議場から推薦された藤川氏が當選した
- ▲書記(日) 酒井 幸人
 - ▲書記(英) 尾藤 省三
 - ▲會計 近藤 保永
 - ▲米村 樽 預司 天願 省三
 - ▲具志 保男 平川 督一
 - ▲監査 北島 城士
 - ▲島本 清一 寺前 武敏
 - ▲西本 育麿 阿部 保一
 - ▲中屋 現 尹知 松山 節治
 - ▲寺田 秀典 佐藤 兼松
 - ▲小西 照天 中川 茂夫
 - ▲次長 中野 祐之進
 - ▲企劃部長 重永 茂夫
 - ▲次長 小田 安太郎

七十五年祭 記念誌提案

河本前會長

役員改選後、河本前會長は、大要左の如き退任の辭を述べた

「私の在任した昨年はハワイ日本人移住七十五年祭で極めて意義深いものがありました。そこで私が感じたのですが、日系人の活躍ぶりをわれわれ子孫に残すため七十五年祭記念誌を日英兩語で編纂してもらいたい

各方面の協力

栗村新會長

と皆様に提案するものであります。在任中、各方面から寄せられたご厚意を深く感謝します」

要望を荷なつて新會長に選ばれた栗村德善氏は大要左の如く挨拶した

「淺學非才な私に連協の會長になれとおすめを受けました。その任に非ずと辭退しました。しかし、重ねての要望でしたので、英語に弱いのも願みずお引受けしました。引受けた以上は乾坤一番一生懸命つとめ

— 75th Anniversary 20 1965
先已整理 June 30 1964

ますから皆様のご協力を切望します。未だ新方針など樹ておらず、新役員諸氏と相談して實行に移したいと思つています。何卒第一層の協力をお願いします」

寫眞説明、前列左より富田、太田、谷村、栗村新會長、河本前會長、岡畑仲嶺、安達、後列左より平川、米村、米元、近藤阿部、尾藤、中屋、小西藤川、北島、島本、酒井の諸氏

連協代表來社

新陣容成つた連協を代表して栗村德善、河本勝一、岡畑博、太田馨、藤川敬三、仲嶺眞助の諸氏がけさ挨拶に來社した

Doctor Said He Would Die in 1892-- Local Minister Passes Away at 90

By HARRIET GEE

A man who was told he would not live to see his 26th birthday died today at the age of 90—thanks to a breathing exercise he devised 65 years ago.

The Reverend Yuukei Fujita, who was still active as minister of Chowado Henjo-Kyo Buddhist Mission, died of a stroke at Kuakini Hospital.

A long-time friend, Steve S. Chinen, head medical technologist at the hospital, said after an autopsy today that Mr. Fujita was in perfect health except for a hypertensive condition.

Chinen, a follower of Mr. Fujita's "harmony exercises," said his friend believed every man could live 100 years if he inhaled and exhaled deeply.

That is what young Fujita did 65 years ago when he was sick with tuberculosis and kidney and eye ailments and his doctor told him that he had a short time to live.

Fujita retreated to the mountains and practiced what he preached since then. He came to Honolulu in 1929 to introduce his theory, gaining followers throughout the Territory.

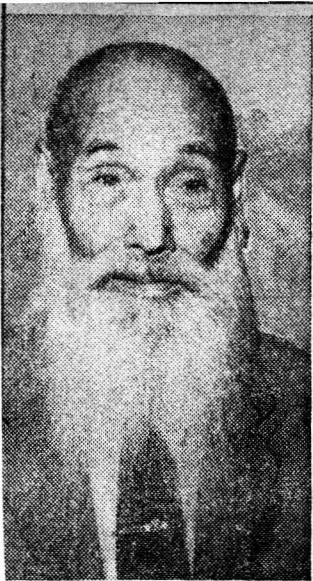
It was not long afterward that he returned to his calling as a Buddhist priest, believing Buddhism and his theory went well together.

Nine years ago, he founded the 100 Year Society to help men live longer through his breathing exercises mainly and a vegetable diet.

Also, he believed, man should keep his hands and mind busy so his body would not waste away.

Mr. Fujita will receive final rites at 4 p.m. Sunday at Nuuanu Memorial Park Mortuary, where a wake will be conducted from 8 to 10 p.m. Saturday.

He is survived by his wife and children, all in Japan.



調和道遍照教司教 藤田祐慶師逝く

may 2 1957

調和道創始者、調和道遍照教團司教藤田祐慶師（靈齋）は昨日朝総領事館へ服部総領事を訪問の途、脳溢血で車中で倒れクアキニ病院に入院したが昏睡状態のまま今日午前四時五分逝つた。

少し歩いたが、また倒れかゝるので館内から出てこられた押尾副領事や平田夫人らの手助けで又車の中に入れた、みると重態らしいので直ぐクアキニ病院に車を走らし知念さんらも出てきて入院させたが、それからずっと昏睡状態で今朝四分に惜しくも往生された最近先生は血圧が高く岡崎ドクターの話では二六〇に

私を手をとつて車外に出てうとした時フラフラして車の中で倒れたが又起き上り領事館に着いて車から出ようとした時フラフラして車の中で倒れたが又起き上り領事館に着いて車から出ようとした時フラフラして車の中で倒れたが又起き上り

去した、享年八十九歳であつた
藤田師
その日の
當日の模様につき勤勞百歳會の古生美男氏（マカレール語校長）は語る
朝藤田先生は例日のごとく朝の調和道修行を終へてから新任の服部総領事を訪問することになり、私の家の車で迎いにいって同乗してマカレール調和道會館を午前九時半頃出発しました、總領事館行きは新任服部總領事に敬意を表し、且つ今月の勤勞百歳會に總領事にスピーチをお願いするつもりでした、途中大元氣でいるく、談笑しながら總領事館に着いて車から出ようとした時フラフラして車の中で倒れたが又起き上り

ハワイの人となつてマカレールの調和道會館に住居して今日に至つた、調和道遍照教團司教、勤勞百歳會々長であつた寫眞は故藤田師

り執行される
尚ほ遺族は神奈川縣湯ヶ原に夫人芳子、孫美喜代さんがある由の外は不明である
故藤田師は新潟縣出身、明治元年二月十九日出生、國民の身心改道を唱道して調和道健康法を創始、過去六十餘年に亘り日本及びハワイで健康法を指導し、勤勞百歳會は同師の創設である戦前に幾度も來布講演したが、ハワイが好きとなり終戦後一九四九年に來布、歸國後一九五五年に、今度は永住權を獲得して來布し、

成人學校の生徒さん
全島で約一萬人
も上つたことがあつたそうです
来る日曜に教團葬
故藤田師の一般御通夜は来る四日（土曜）午後八時よりヌアヌア記念公園葬儀所で營み葬儀（教團葬）は翌五日（サンデー）午後四時より

△基礎英語科で學んでいる人々の中には、ドクター、主婦など多數優秀な人がおり
△市民権科を取つて居る人は米國の憲法、歴史、政治一般常識などを學び、良い米國市民にならうと努力している人が多く四十八教室で六三一名が勉強している
△高校卒業科は、一番人氣があり同課程を終了し試験を受けてパスすると高校卒業の卒業證書が授與される今學期は二九五名に證書が授與されているが、六月末にコースが修了し、試験を受け、證書を與へられる者が更に約百名あるものと豫想されている

可成り教育程度の高い人が多く一二九の教室で一六七九名が學んでいる
△市民権科を取つて居る人は米國の憲法、歴史、政治一般常識などを學び、良い米國市民にならうと努力している人が多く四十八教室で六三一名が勉強している
△高校卒業科は、一番人氣があり同課程を終了し試験を受けてパスすると高校卒業の卒業證書が授與される今學期は二九五名に證書が授與されているが、六月末にコースが修了し、試験を受け、證書を與へられる者が更に約百名あるものと豫想されている

可成り教育程度の高い人が多く一二九の教室で一六七九名が學んでいる
△市民権科を取つて居る人は米國の憲法、歴史、政治一般常識などを學び、良い米國市民にならうと努力している人が多く四十八教室で六三一名が勉強している
△高校卒業科は、一番人氣があり同課程を終了し試験を受けてパスすると高校卒業の卒業證書が授與される今學期は二九五名に證書が授與されているが、六月末にコースが修了し、試験を受け、證書を與へられる者が更に約百名あるものと豫想されている

1957/5/2

april 29 1957

ハワイヤ九千斤を 日本へ初輸出

小原検査官が派遣さる

(ヒロ支局) ハワイ島産のパパイヤを日本に輸出を運動中であつたが、日本政府の許可もあり、過日横濱港植物検査局より小原隆(音譯)検査官が来廣し、ヒロ市ミスター、パパイヤ會社支配人エンデー林氏及び州農林局長ケネット太田博士、同ハワイ島監督のフランク久長氏等と熱心に検討の結果、愈々近日中に輸出に着手することになつた

爲めと、パパイヤの産地、ハワイ出身でミス布哇としてハワイ宣傳の爲めつとめているデボラ儀間嬢は、約九千斤の輸出用、パパイヤを持参し、パパイヤ會社役員數名と共に、二十三日午前ヒロ發同午後ホノルル空港發の日航機で訪日の途についた

儀間嬢一行は東京はじめ日本の大都市でパパイヤの宣傳につとめ、儀間嬢得意のハワイ・アン音楽・獨唱及びフラ等を紹介するはずなりと一行は日本滞在約二週間後歸布の豫定なりと

ミス布哇 宣傳に渡日

ハワイのパパイヤ産業發展の

ハワイ産パパイヤ 東京に初荷着く

Apr 24 1969

フラ娘らといっしょに

東京(A.P.)二十四日發
一號が二十四日、東京羽

田國際空港に到着した、初荷のパパイヤは三・四トン、ハワイからおともをして来たフラ・ダンサー達が空港でひと踊りして、ハワイ情緒をふり巻いた

日本へのパパイヤの輸出については昨年夏、日米政府間に協定が成立したもの、それまではパパイヤにはミカンの害になる小虫がついているからという理由で、輸入禁止品目に入つて、た、協定に基づき、ハワイ駐在の日本検査官が塵蒸消毒を監督することになつて

値段は...

日本でのパパイヤの市販価格は大きめに應じて一つ七百圓(一・九四ドル)から千圓(二・七七ドル)程度になる

調和道藤田祐慶師の 十三周年追悼法要

Apr 23 1969

来るサンデーに開催



調和道創始者藤田祐慶先生、逝いてより十三年目、布哇調和道遍照教團では、来る四月二十七日サンデー午前八時より、マカレーのアジロバ街一七五七の會館で執

行することになった、教徒並びに有縁の人々の多數が、謂が希望されている、眞實に故藤田祐慶先生

元ヒロ市で開業 山入端醫師永眠

Apr 22 1969

(ヒロ支局) 元ヒロ市の元老開業醫師山入端松止ダククは、餘生を東京でおくつていたが、去る四月九日逝去し、遺骨は愛娘ドロステよね夫人(布大ヒロ分校教授)によつて無言の歸還をした

故山之端ダクターの追申會は遺族、親族及び友人により来る二十五日(金)夜八時より本願寺ヒロ別院に於て執行することとなつた

歴代ホノルル駐劄

日本國總領事

初代から七十五年に亘る

就任年月日 任官氏名

- 一八七五年十月 領事代理心得 J・B・ディクソン
- 一八七七年十月 貿易事務官代理 J・D・ブルウワー
- 一八八〇年九月 貿易事務官代理 ジョセフ・O・キャツター
- 一八八四年七月 領事館を設置す
- 一八八五年一月 領事
- 一八八五年 領事館に昇格す
- 一八八六年二月 總領事 安藤 太郎
- 一八八六年十二月 總領事代理 鳥居 忠文
- 一八八九年五月 總領事代理 正木 退藏
- 一八九一年六月 總領事 正木 退藏
- 一八九二年十一月 總領事 藤井 三郎
- 一八九四年十一月 總領事事務代理 成田 五郎
- 一八九五年一月 總領事事務代理 清水精三郎
- 一八九五年十一月 總領事 島村 久
- 一八九七年四月 總領事館を公使館に改め
- 翌年總領事館に復す
- 一八九七年四月 辯理公使 島村 久
- 一八九七年七月 總領事事務代理 平井 深造
- 一八九八年九月 總領事代理 齋藤 三郎
- 一八九八年九月 總領事事務代理 齋藤 三郎
- 一九〇二年八月 總領事事務代理 齋藤 三郎
- 一九〇三年三月 總領事 齋藤 三郎
- 一九〇五年十二月 總領事事務代理 松原 一雄
- 一九〇六年九月 總領事 齋藤 三郎
- 一九〇八年八月 總領事事務代理 阿部 嘉一
- 一九一二年五月 總領事 上野 專一
- 一九一二年十月 總領事代理 森 安三郎
- 一九一二年十月 總領事 栗栖 三郎
- 一九一三年十月 總領事事務代理 永瀧 久吉
- 一九一三年十二月 總領事代理 原田 明達
- 一九一六年四月 總領事 有田 八郎
- 一九一六年四月 總領事 諸井 六郎



一九一九年八月

總領事代理

古谷 榮一

一九二〇年七月

總領事

矢田長之助



- 一九二二年二月 總領事代理 内藤 啓三
- 一九二二年三月 總領事 山崎 馨一
- 一九二五年一月 總領事代理 竹内 駒治
- 一九二五年四月 總領事代理 吉田丹一郎
- 一九二五年六月 總領事 青木 新
- 一九二六年七月 總領事代理 竹内 駒治
- 一九二八年七月 總領事代理 桑本 主計
- 一九二八年七月 總領事 竹内 駒治
- 一九二八年十月 總領事 赤松 祐之
- 一九三〇年八月 總領事代理 柴田市太郎
- 一九三一年三月 總領事 岩手 嘉雄
- 一九三二年七月 總領事代理 柴田市太郎
- 一九三二年七月 總領事 岡田 兼一
- 一九三四年十二月 總領事 山崎恒四郎
- 一九三四年十二月 總領事代理 田村貞治郎
- 一九三六年十月 總領事代理 山崎恒四郎
- 一九三六年十月 總領事 福間 豊吉

一九三七年十一月
一九三八年三月

總領事代理
總領事

山崎恒四郎
水澤 孝策



一九三九年九月
一九四〇年三月

總領事代理
總領事

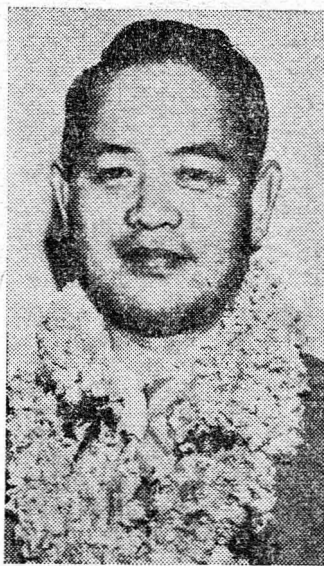
工藤敏次郎
郡司 喜一



一九四〇年九月
一九四一年三月

總領事代理
總領事

奥田治郎
喜多 長雄



一九四一年十二月八日宣戦
一九五二年二月廿八日立再開
一九五二年四月

總領事

小島 大作



一九五二年八月

總領事代理

吉良 秀通

一九五三年九月 總領事



都村新次郎

一九五四年九月 總領事代理
一九五一年一月 總領事



佐藤武五郎
今山政英

一九五七年四月 總領事代理
一九五七年四月 總領事



佐藤武五郎
服部比左治

一九五九年八月 總領事

針谷正之

明朗な空気の中に 商工新内閣の誕生

May 13
1958

立志傳中の山崎新會頭

二世側の希望

時岡選考委員長報告

一時は危まれたホノルル日本人商工會議所は、各方面から起つた圓滿解決の呼び聲に應じて、次第に諸問題も好轉、昨十二日夜モイリリの日商工會館で開かれた臨時總會では、新役員九氏の選出を終り、新會頭エドワード山崎昇氏の下に、新しい一歩を踏み出した

前役員も出席

議事進行協力

去る四月廿八日の臨時總會で行はれた「現役員には過失は無かつた、然し會議所内に融和を創る爲に辭表を受理する」との決議に基き元會頭(日青商元會頭も含む)の努力により、選考委員として時岡氏以下七名が選ばれ、その奔走により新役員候補者選考も終り、昨夜の總會で、この選舉が行はれたのであるが、その結果、選考委員會選定の候補者のうち、辭意を表明した住田慎三郎氏(監査候補者)の代りにハロルド米谷氏が選舉され、他はいづれも満場一致で當選した。尚昨夜は、辭表提出中の田川光雄、本田親人、安達正等の諸氏も出席、恩讐を越えて、議事進行に拍車をかけると共に、議場に明るい場面を展開、更に田川氏と新會頭の山崎氏は、握手して寫眞班のフラッシュを浴びる等、久方振りに會議所内に和やかな空氣が見られ、出席者達を喜ばせた(以下議事要旨)

議長 築山長松氏は、所要の爲、前回の總會直後日したので副議長柏至朗氏が議長となり、定刻七時半、五十七名(委任状を含む)出席で總會成立、先づ、時岡選考委員長から、役員候補者選考に關する経過の説明が行はれた、その要旨は次の通り

選考委員達は、日青商工業界の人達の希望を或る程度入れる事にして、今度の役員候補者の選定を行つたが、その人達の意向は次の諸點

- 一、今後の集會で、會頭は英語を用ひる事、勿論、一般會員は日本語で發言する事は今迄と變りはない
- 二、今迄の會議所の在り方は、公共事業九十%、會議所本来の仕事十%となつてゐたが、今後は、この反對にして欲しい、又、何か委員會の様なものを作つて、それを通じて公共事業を運営して欲しい
- 三、會館は是非とも持ちたい、然し、現在のプランを或る程度改め、一般から寄附を仰がないで、會議所自身で出来る範圍のものを作

りたい

- 四、役員のうち、會頭及び副會頭の一人は、日青商卒業の人達の希望を容れて欲しい、その他の役員には別
- 五、選考委員は、今回は役員候補者にならない
- 六、今回辭表提出者は、選考外に置く事
- 七、顧問、參與の制度は廢止するが、一方功勞者に名譽職を贈る事はよい

等であつた

次に住田慎三郎氏の事に就いては、一度應諾されたので、監査候補者には加はつて貰つたのだが、後で辭退されたので、總會議場でこれををはかる事に話し合ひで決まつた、尙本會議場で全役員に就いて新候補者指命がある事を希望する

選舉委員の選定

岩下磨氏は選舉委員選定に先立ち、今回の役員選舉の合法性を訊したが、柏議長は、疑義の可能性を詳細に説明の上、今回の選舉が合法的である事を證言した

ついで加里本柱想、ダン山内、クレツセン近末三氏が選舉委員に選出され、選舉事務を司る事になつた

重永氏提言

選舉に入る前、重永茂夫氏は老人組と壯年組との中間

に位する、會議所の經驗者が役員候補者に選定されてるない事を指摘、監査を五名にしてもよいから、これに該當する人を加えてはと提議した、これに對し、栗村徳善氏は、聴く處による、今度役員に選ばれる諸氏は、常議員會、各種委員會を強化する意圖で、古い人達にも充分活躍すべき分野が殘されて居り、重永氏の説は極めて尤もであるが

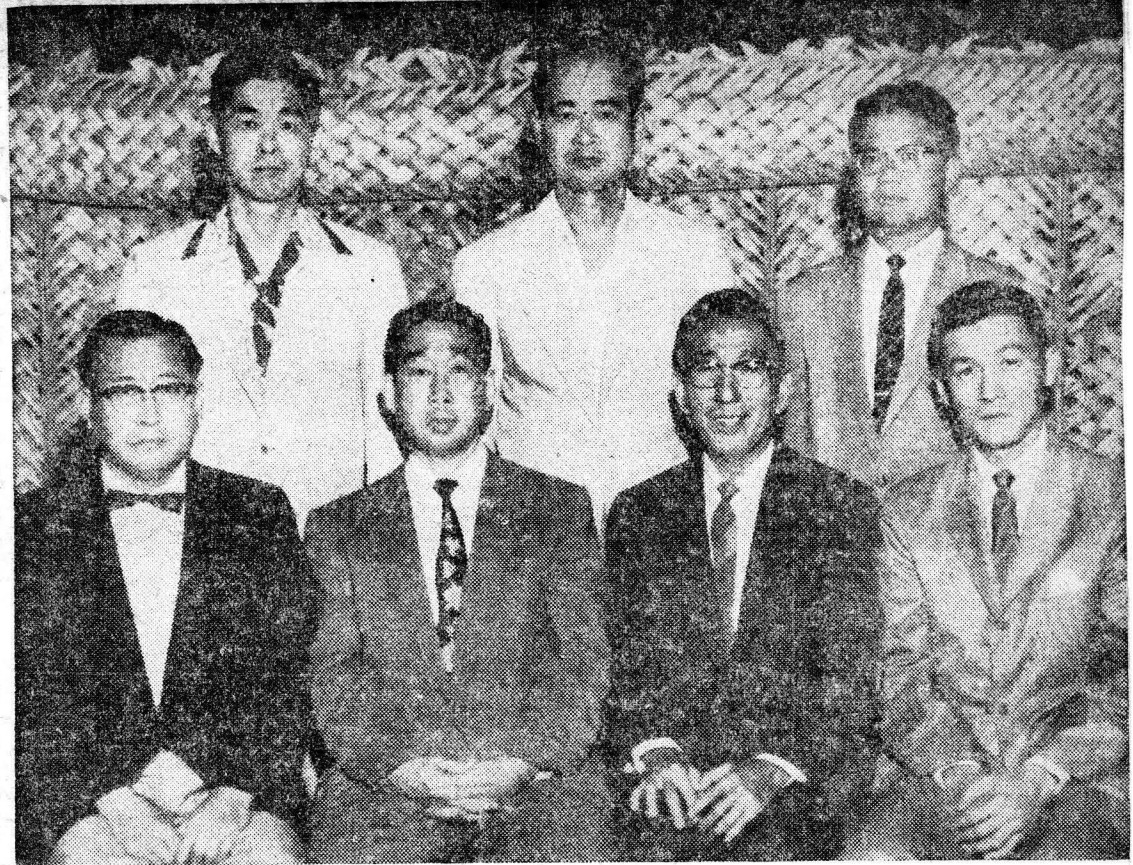
監査を五名にする事には賛成出来ない」と述べ、重永氏もその提議を撤回した

田川光雄氏の快動議

以上で論議は終了、柏議長は、會頭以下の役員の選舉に移り、時岡氏から改めて山崎氏を會頭に推す動議が提出されたが、田川光雄氏は、會頭候補推薦を以上で打ち切り、満場一致で山崎氏當選を決定する事を動議として提出した、柏議長も、田川氏の様子に苦しい立場に在る人が、この様な議事促

新役員及び田川氏來訪

昨夜の總會で選出された日本人商工會議所の山崎昇氏以下新役員は今朝、田川光雄前會頭と共に來訪、新任の挨拶及び在任中の謝辭を夫々述べた



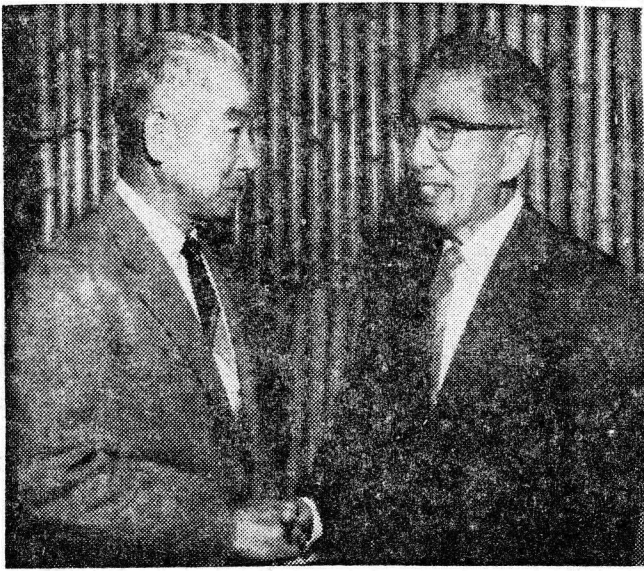
日商工新内閣誕生 昨夜モイリリの日商工會館で開かれた臨時總會で山崎昇氏以下の日商工新内閣が成立した。寫眞は前列左から、吉上生副會頭、後藤健治副會頭、山崎昇會頭、佐藤洋一副會頭、後列左から河野秀雄會計、富田恒弘書記、佐々木佐監査、寫眞洩れは照屋武雄、米谷專治兩監査

本社長野撮影

前役員に對し

感謝決議採擇

引き續き、別項(第二面)の如き山崎昇氏の就任挨拶があり、閉會に先立ち、「前役員諸氏に對する感謝決議」の動議を岡林樹治氏が提出、更に本田親人氏は、元會頭等圓滿解決に努力した人々及び選考委員諸氏に對する感謝決議を岡林氏の動議に加ふる事を提議、全員一致して之を賛成採擇して、九時閉會した



田川前會頭、山崎新會頭を激勵 昨夜の日商工臨時總會閉會後、田川光雄前會頭(左)は山崎昇新會頭(右)に「しつかりおやいなさい」と激勵、支援を惜まないと約束、山崎新會頭を感激させた

本社長野撮影

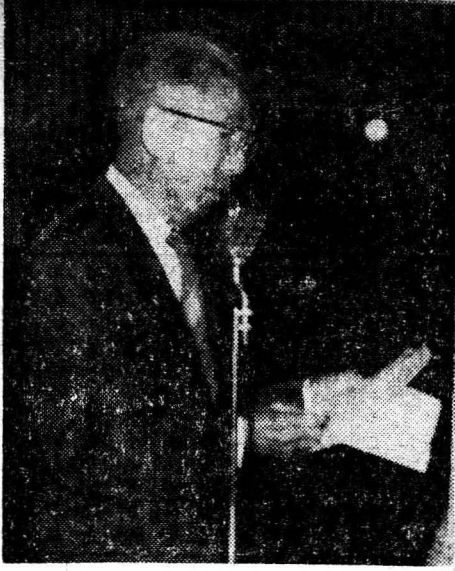
新役員氏名

- △當選の役員氏名は次の通り
- △會頭 山崎昇
- △副會頭 後藤健治
- △佐藤洋一
- △會計 富田恒弘
- △監査 河野秀雄
- △照屋武雄
- △監査 佐々木
- △監査 米谷專治

山崎會頭の就任挨拶

御指圖や忠告を喜んで聞く

私は一介の労働者出身の冒頭... May 1958



處女演説の新會頭山崎昇氏 長野撮影

なほ昨十二日夜開催されたホノルル日本人商工の臨時總會で、新會頭山崎昇氏の就任挨拶の全文

今回の就任につきまして一言御挨拶を申し上げます。皆様御承知のように、私は此の度の大役をお受け出来るような者ではないのであります。

ラハイナ出身

ハワイ島ラハイナで生まれた私でありますから、今日、田舎のおいが、ぬげきれないのであります。幸か不幸かわかりませんが、若い頃に父をなくし、日英

然し、此の度選考委員の方々から『是非に』と進められたばかりでなく、商工會議所の將來を思つて、奔走して下さる委員の方々の御熱心な態度に、つい頭がさがり、結局、おことわりする事が出来なくなつたのであります。止むを得ず、私は『では皆様が、しつかり指導も援助もして下さいませんか？』と云うなら、及ばずら、働かせて頂きましよ

う！』と云う条件つきでお受けしたような次第なのであります。繰返して申し上げます、私は此の大役には、不適當であり、自分自身の無力を恥じてゐるのではありません。依つて、皆様から、いろく御指圖や御忠告を下さるを、御承知頂きたいと思つてをります。御忠告は必ず喜んで御受けすると云うことを、ここに、はつきり御約束申し上げます。たゞ私は、此の際、商工會議所の『本来の意味』がどこに在るか？と云うことを、しつかり認識しなおし

条件つき受諾

たゞ有難い事には、ずつと健康にめぐまれて居ましたので、一介の労働者として、出来るだけの努力を続けさせて頂いた、と云うのが、正直に申し上げる私の姿であります。従つて商工會議所の會頭などと云う『重大な役目』を引受けられるような身分ではない』と云うことは、私自身、一番よく知つてゐるのであります。

て、私に出来る丈の努力を惜しまず、すこしでも御役に立たせて頂くよう念願してゐるわけでありませう。尚、こゝで申し上げるの

デマを是正

はどうか？と思つたのであります。ですが『ジュニア商工の會員諸氏に何か野心があるようなデマ宣傳が』近頃飛んでゐるようでありませう。然しながら、それは單なるデマであり、絶対に野心など常識から考へても在り得ない！というのを、此處で私は、はつきり皆様に申し上げておきたいと思つたのであります。先日、の河野秀雄氏の御言葉でもわかりますようにジュニア會員諸氏は誠に立派な態度を保つてゐられる事に對して、むしろ、私達は、心からの敬意を表したいと思つたのであります。ジュニア商工のメンバーは、私ども、ジュニア商工そのものを力強く指導役であつて欲しい！と念じてゐられることを、改めて認識しなおすべきだと私は考へます。

中間を斡旋

こゝに於て不肖私はジュニアとジュニアの中間に立つて、せめてよき連絡係りの役目だけでも果させて頂ければ幸せだと存じます。

三十七年振り歸布の... 草分翁・森川徳一氏

歸國後村長其他榮職につく

May 1958

○：青壯年時代を本島ワイアルア耕地に過ごし、錦衣歸朝後は郷里山口縣玖珂郡和木村の村長をつとめる外、現在同村の教育委員長や公民館長の榮職にある人が、三十七年振になつかしい布味を訪ふた感激實話がある。○：話題の主人公は森川徳一翁（七十七歳）にて、一八八九年、十五歳で來布。甘蔗畑の労働を振り出しに後にはワイアルアにおける日本人の最高給取りにまで出世、同耕地を訪ふ名士の世話などに當るやうになり一九二三年に歸國したものである。○：今度當市ワルター・レイン（三〇）に住む次女の袖淵品子さんと及び桑港スタ街五〇四で美術商を営む

○：森川翁の御自慢は公民館を利用した生活改善運動にて、結婚式の如き同館を利用すると披露宴の方

○：森川翁の御自慢は公民館を利用した生活改善運動にて、結婚式の如き同館を利用すると披露宴の方

は別として當費千七百圓で済むので近來は遠く他縣からもわざわざ學式に來ること、昨年十月に開所したばかりで、既に百二十組の結婚式を擧げてゐる。○：又和木村は、今や大會社の工場地帯となり、その税金のため縣下でも稀に見る裕福な村となり、幼稚園、小學校はいふまでもなく、中學校の生徒にまで村から無料で、豊食を給與してゐる由。

○：森川翁の御自慢は公民館での結婚式風景、中央で司式してゐるのが森川館長。

○：森川翁の御自慢は公民館を利用した生活改善運動にて、結婚式の如き同館を利用すると披露宴の方

ホノルル日本人商工會議所

新役員就任祝賀會

新會頭は安達正倅氏

July 14 1919

●ノルル日商上の新役員就任祝賀夕食會はゆうべ六時半から料亭「かんらく」にクイン 縣知事夫妻、ブレイスデル市長代理ハロルド米谷氏夫妻、服部總領事夫妻、ブラット・ホノルル米人商

續いて三葉會出演の日本舞踊三曲が披露されて、祝賀會を終つた。
●長唄「吾妻八景」立方一尾上菊延、唄一岡安喜吉、阪東三津政、藤間千

●寫眞は山崎會頭(右)から安達新會頭(左)に議長を渡すところ。
●岡村本社カメラマン撮影

●勢世、三味線「杆屋彌惠光、阪東丈次、鳴物」望月彦二光
●常磐津「星歌娘」立方一阪東三葉春、唄一岡安喜吉、藤間千勢世、三味線「岸澤次、鳴物」望月彦二光

●退任挨拶
●山崎昇會頭
●安達正倅新會頭
●就任挨拶

●退任挨拶
●山崎昇會頭
●安達正倅新會頭
●就任挨拶

●退任挨拶
●山崎昇會頭
●安達正倅新會頭
●就任挨拶

●退任挨拶
●山崎昇會頭
●安達正倅新會頭
●就任挨拶

●退任挨拶
●山崎昇會頭
●安達正倅新會頭
●就任挨拶

●退任挨拶
●山崎昇會頭
●安達正倅新會頭
●就任挨拶

るためである」と申し上げましたが、現在日商工が軌道に復歸したことを誇りをもつてお伝えできます。現在日商工會員は五百六十名に達し、會館建設基金申込額も九万七千ドルに達しました。

安達新會頭に會員各位が全幅的な支持を與えられるよう願ひするともに、私の任期中御鞭達下さつた皆様に心から感謝します。

安達正倅新會頭
今晩はかくも盛大なる就任祝賀會を催して下さいまして心から感謝致します。

就任挨拶
私は今山崎會頭から議長槌を受けまして四十数年間の輝かしい傳統と歴史を持ち、日系社會は勿論布哇一般社會に重要な団体として認められてゐる日本人商工會議所の第四十四代目の會頭に就任する事は私一生

に盡力せよ」と勵ましてくれましたので、この時間を唯一のモトゴとして皆々様の御指導の計に會議所本來の目的、使命遂行の爲に誠心誠意努力する覺悟であります。

昔、支那の聖人曰く「國を治めんと欲すれば先づ家を修めよ」全くその通りです。一家團樂の家庭が集つて良い社會を築きます故に、本年第一の事業は會員融和親睦のセンター會館建設の完成と存じます。

昨年以來田川建築委員長外各委員諸氏の非常なる努力の結果、約十萬弗の建築費の寄附申込がありました。愈設計圖も出来上り、本月末には建築契約し直に第一工事の會議所事務所建築に取りかかり、六月頃には第二工事の會館建築を開始する予定です。總工費約二十萬弗、勿論之は大金です。然し五十九年前僅か十名足らずの發起人が中心となつて、日本人慈善病院を建設し今日の大クアニ病院の土台を造られた我バオニア諸氏の社會奉仕精神を追慕し、又廿数名の青年達が僅か二ヶ月間に二十數萬弗のモイリリ本願寺學生會館を新築された事實を考へます時に、數百名の有

力者を會員とする我々の會議所は少々不面目否恥しい次第ではありませんでしうか。

勿論、今日まで基金申込の會員三百十數名では會館完成は不可能と思ひます。少くとも現在の二倍に増加する必要があります。會員を増加する爲には會議所と會員がもつと親密にならなければなりません。其方法として第一に必要な事は會員個別訪問です。今年には會員になつて頂くまでは何度でも訪問致します。

「安達はウルサイ奴」とお叱りになるかも知れませんが、どうかこの熱意を御買ひ下さつて御参加、御協力を願ひ度く存じます。

第二には會報を出れば少くとも年四回發行し、會務の報告や一般ビジネス界の動向紹介をかね、會員の理解と親睦を圖りたいと思ひます。

第三には言論、放送機關に御願ひして「商工ニュース」其他有益なる事項を紹介して商工の事業に對し、社會の理解援助を仰ぎたいと存じます。

かくて會員皆様の爲になり、進んでは會員増加にも努力して本年こそは皆々様の楽しい我家即ち商工會館を完成したい希望であります。

會館建設と朗かな日系社會の實現こそ、本年度會議所に課せられた最高の希望と使命と信じます。この希望實現の爲に御一同の全幅的な御支援と御鞭達を切望して會頭就任の御挨拶と致します。

9

9

日商工 新陣容

一、役員
 △會頭 安達 正倅
 副會頭 本田 親人
 柏 至朗 佐藤 洋一
 △書記 河野 秀之
 △監査 原田 信太郎
 △岡崎 久郎 照屋 武藏
 △前會長 山崎 代昇
 一、顧問 住田 代藏

一、常議員 (◎印は常議員
 會選出)
 (一九五九年度)
 飯田 鴻一

赤嶺 喜清 安保 豊
 安里 貞雄 粟村 徳善
 近末 康人 淵野 平吾
 原 秀雄 林田 秋芳
 香川 武雄 國行 愛輔
 松井 登太良 森藤 定一
 村上 清一 村田 勳一
 ◎仲嶺 眞助 ◎西 力
 ◎小野 實雄 尾崎 澤次郎
 ◎迫田 正男 相賀 重雄
 ◎杉本 清一 住田 慎三郎
 ◎和氣 林三郎 山縣 太助
 山内 隆男
 (一九五九年及一九六〇
 年度)

福永 秀一 古川 巖
 古屋 熊式 後藤 健治
 羽田野 林三郎 堀田 繁
 石井 一夫 磯島 武夫
 岩下 磨 加里本 桂想
 小林 金衛 米谷 事治
 三保 克朗 ◎森原 春
 ◎中丸 三度理 ◎中田 高明
 ◎野添 勝藏 長田 重雄
 島田 國男 田川 光雄
 時岡 政幸 ◎富田 恒弘
 築山 長松 ◎上條 文雄
 ◎米村 傳 預司

一、常設委員會委員長
 貿易卸商部 重村 猛
 小賣商部 西本 政人
 製造業部 稻葉 小一郎
 請負業部 鈴木 幸人
 觀光部 酒井 幸人
 レセプション部
 村重 義夫 覺
 沖田 國男
 島田 義夫
 古川 國男
 中田 高明
 近末 康人
 河野 秀雄
 財務監査部
 會則部
 法制部
 會員部
 宣傳渉外部
 ゴルフ部
 宣傳渉外部

1954 Feb. 13, 1954

尾上久二氏の横顔

島屋商店主尾上久二氏は日本で有名な丸金醤油の産地と紅葉の名所として広く知られてゐる四國は香川縣小豆島の出身である

尾上氏と最も縁故の深い布商の古老田中一氏の談によれば一九一六年二月尾上氏が來布したのは當時大阪の大商人目氏が帆船をチャーターして各種食品類約三十萬弗の價格ものを積載布哇に輸出した、その時尾上氏が會計を勤めてゐた小豆島の丸金醤油會社は目氏の注文に應じ醤油三千樽を積込んで布哇向け出帆直後日商店は經濟的破綻に面し丸金醤油會社に支拂ふべき代價の形が不當りになつたため長良社は貸金代價として布哇にある三千樽の醤油回収の代表者として選定來布したのが尾上氏であつた、同時に大阪の他の債權者三人も來布し其の回収整理に大問題を惹起し混亂を呈した事は當時有名な話であつた

貸金回収に來た尾上氏は未だ廿三歳の若冠の青年で

同氏は田中氏の知己であつた、當時廣島縣代議士早速整爾、横山鑛語會社社長兩氏よりの紹介状を唯一の頼りとして田中氏を訪問し同氏の使命を曉つた、然して援助方を懇望したので任侠的な田中氏は心良く承諾し滞在十ヶ月間に遂に一萬弗の回収に成功し尾上氏は立派に使命を果し欣喜雀躍して歸國した、會社側は田中氏の勞を深謝し又尾上氏の使命達成を表彰した、歸郷後如何に風光明媚な小豆島とは言へ片田舎に居る事を好まず希望に満ちた同氏は布哇の天地に活躍する決心をなし柳行李一個を携へ一九一七年七月十五日再び來布した上陸早々田中氏を訪ね前年の回収問題の謝禮を述べ更に布哇永住の決意を語つた

若冠尾上氏の性格をよく知つた同氏は心良く引受け肉身も及ばぬ親切に世話した來布二週間振りにはリバー街で故佐々木吾三郎氏經營の店を譲受け小規模に食糧雜貨店を開店し日米食料

雜貨直輸入を開始しこれが三十六年間營業してきた舊店舗であつた

開業當時十數年間は經營に相當苦心されたが如何なる難關も突破し漸次繁昌の一路を進るに致つた、この頃令弟荒治、勳の兩氏も來布し兄弟揃つて令兄の事業に助力し業務益々發展し廣大なる地所を購入し新店舗新築落成し商界に一層の重きをなすに至つた

尾上氏の今日この地盤を築きあげたのは温厚にして「誠實勤勉」の結晶の現れで全く立志傳中の人と言つて過言ではない

同氏は自ら大成を誇る事なく何時も今日あるは先輩田中氏の指導援助と一般顧客各位の御愛顧お引立てによるもので又店では献身的によく働いてくれる波會支配人はじめ各従業員達の協力にまつものが多いと謙遜に語つてゐる

尾上氏は家庭的にも恵まれた夫人(故河内文雄氏長女)との間に長男一郎次男二郎三男英雄長女和子さんは朝日サーブス・ステーションの石田久雄君に嫁し二女弘子さんの三男二女があり一

故林醫師の コナ反響

越後生

窓の話題

珈琲の賣るるコナに、戦前まで發行した故林三郎ドクトルのコナ反響である、明治三十四年二月十四日發行のミモグラフィ刷りコナ反響(第二百三號)に「創業四年の辭」がある、筆者は林ドクトル(原文の儘)

コナ反響が孤々の聲を上げたるは四年前にてありき、當時布哇に於ける邦字新聞としては、布哇、やまと及び新日本の三新聞あるの外一も之あらざりき、而してホノルル以外に於ける新聞

郎氏は同店の支配人格二郎君は店に勤めて三男英雄君は目下朝鮮駐屯中、尾上氏の趣味はゴルフ愛好家ゴルフ一問にも有名な存在で非常に評判よく中堅どころ(寫眞は尾上氏)小幡生

としてはコナ反響はその率先者たるの榮を得たりき、爾來邦字新聞、雜誌は十を以て算せらるゝ多數に至り

たりと雖も、孰れもその進歩の度著るしく「ミモグラフィ」板を以て始めたもの、石板摺を以て創めたもの、石板摺を以て創めたものも今や全く活版印刷と迄進化したり、獨り比較的壽命永きコナ反響が依然として「ミモグラフィ」板の舊態を改めず活版新聞と相伍して慚色なきは、之れまた奇中奇と言はざるを得ず元より醜より美に移り「ペターよりベスト」に進むことは何事によらず宜きことなりと雖も、さりとして今日のコナ反響が俄に活版刷りに改めんとするは恰も貧者が大厦高樓を築くと同じく決して經濟の計す所に非ず實は昨年秋頃なりしが、古ものを譲り受けて石板摺となさんかとの計畫もなしたりしが、その資本さへ出來ずして止みになりき

抑も「身分相應」と云ふことは家庭に於ける、又社會に於ける有力な訓語にして他新聞が決版に改良したればとて周章狼狽、借金しても良き器械を買ふ如きは社會の木樨を以て任ずるもの

の獎勵すべき事にあらざれば改良問題は今や中止の姿にあり、されども見よ、新聞の眞價は記事にありて体裁に非ざるを、其の主張に在りて、其の文章に非ざるを、益他に在りて利己に非ざるを、世には株式組織の新聞あり、其れ團體の機關あり、其れ大衆の報聞もありと聞く、されどコナ反響は獨立獨行、記者一人の所有にして、言はんと欲する所を言へ、書せんと欲する所を書し、一として筆を束縛する様の情實なく、權威も富貴も腕力も、ものかは眞に社會の木樨を期し、暗所の光明を期し、又醜惡の荆棘を以て自負すること、四年一日の如く、益々正義社會の同情を得て隆昌の域に達しつゝあり、讀者乞ふ記者の自惚を恕し例の如く愛讀を給へ

昔のハワイの新聞人氣質がよく現れてゐると思ふ、林ドクトルが明治三十四年に株式組織と述べてゐるがその後コナ反響も時代の波の至すところ株式組織となり、戦後解散したのである

明治三十四年「コナ反響」に寄書あり、昔を偲ばるゝ往時の句壇である

尾上久二氏
林ドクトル
明治三十四年
寄書

1969
1893
76



